

# 三島町SS過疎地対策計画

令和4年1月

福島県三島町

# 三島町SS過疎地対策計画策定の背景と趣旨

## 【経緯】

- 三島町のSS（ガソリンスタンド）は、2010年にJASSが閉鎖して以降、民間事業者1社によりSSを運営してきたが、後継者難により2020年5月に廃業し、当町はSSが存在しない町となった。
- 一方、冬場の灯油需要への供給懸念から、町民有志による「町内ガソリンスタンド早期再開」に関する署名活動が展開され、個人・事業所を合わせて776名の署名となる嘆願書が提出された。
- 町では、住民からの早期再開を求める声のもと、冬期間の灯油需要への供給、除雪車への給油、災害時の対応など、地域住民への安定した燃料供給網を整備するため、2020年12月4日に県内初となる公設民営方式（事業者：桐の里産業株式会社）にてSS運営を再開した。



[再開した三島給油所]

経緯を踏まえた課題

## 【現在のSSにおける課題（燃料供給体制の維持に向けた課題）】

- 旧国道沿いで通り抜けできない道路に立地しており、交通量が少ない。  
→利便性が著しく低い。
- 災害時の燃料供給・備蓄量（需要に対する供給量）に懸念がある。
- 利用が町民に限定されており、経営収支に影響を及ぼしている。
- 施設・設備が老朽化している。  
→今後、経年劣化に伴う修繕費の負担が想定される。

## 【第五次三島町振興計画（2021～2025）】

### 「環境と調和し、人と人とのつながりで安心して暮らせるまち」

- 燃料（エネルギー）供給体制の確立
- ・燃料供給施設の設置（2023年度SS新設）
- ・民間事業者等への運営支援

## 【経済産業省】

- ・SS過疎地対策計画策定支援事業（全石連を通じた計画策定費用の補助）

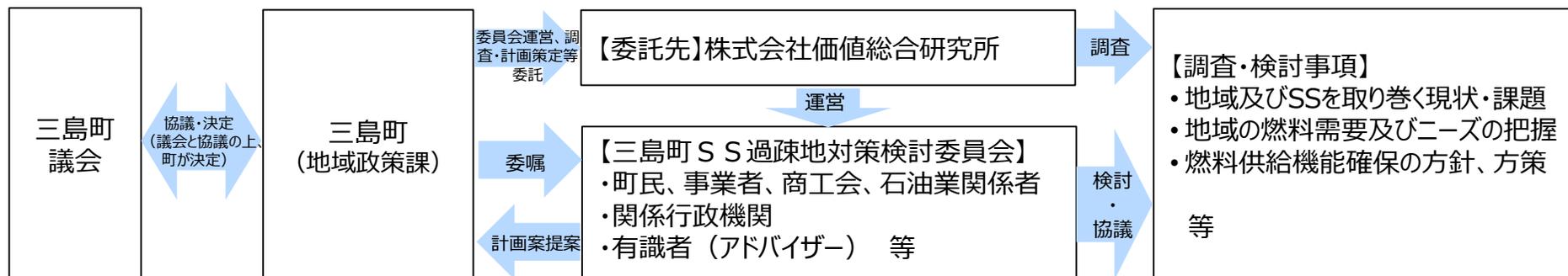
課題解決と目指す方向性を実現するビジョンの策定

整合

活用

## 三島町SS過疎地対策計画の策定

人口減少・少子高齢化、脱炭素社会の実現などの社会構造の変化に対応し、三島町における持続可能な燃料供給体制の確立に向けた施策を検討



<b>1. 三島町の現状</b>	<b>…3</b>
（1）地理的条件・気候	…4
（2）人口・世帯	…5
（3）産業構造	…10
（4）道路状況	…13
（5）三島町の現状と課題のまとめ	…15
<b>2. 燃料供給体制の現状と見通し</b>	<b>…16</b>
（1）三島町内のSSの概況	…17
（2）三島町及び三島町周辺のSS立地状況	…18
（3）桐の里産業三島SSの概況	…19
（4）三島SSの販売状況	…21
（5）三島SSの事業計画と経営実績	…24
（6）三島SSの現状と課題のまとめ	…25
（7）三島SSの将来販売量の見通し	…26
<b>3. 地域の燃料需要とニーズ</b>	<b>…26</b>
（1）町民の燃料使用状況とニーズ等（町民アンケート調査）	…27
（2）主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）	…39
（3）地域の燃料需要及びニーズのまとめ	…51
<b>4. 三島町における燃料供給機能の確保方策（SS過疎地対策計画）</b>	<b>…52</b>
（1）三島町における燃料供給体制確保における基本的考え方	…53
（2）三島町における燃料供給体制確保の基本方針	…54
（3）燃料供給拠点（SS）の立地場所	…55
（4）燃料供給拠点（SS）における将来販売量の推計	…59
（5）燃料供給拠点（SS）の形態・機能	…67
（6）燃料供給拠点（SS）の運営	…72
（7）地域づくりと連携した複合的SS経営の展開イメージ	…75
（8）実現に向けたアクションプラン（スケジュール）	…76
<b>参考資料</b>	<b>…77</b>

## 1. 三島町の現状

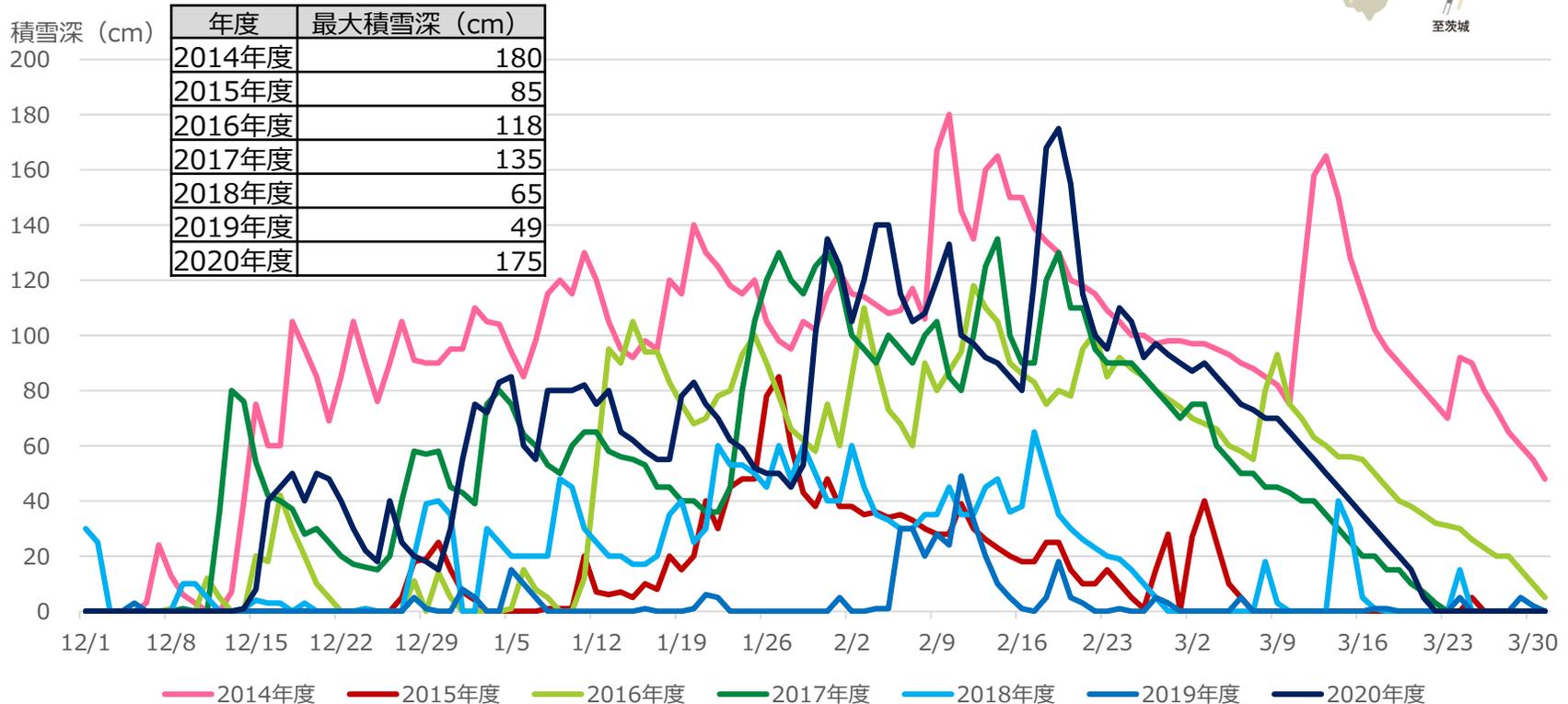
---

# (1) 地理的条件・気候

- 本町は、福島県の西南に位置し、海拔220～1,200mの峡谷型山村で、総面積90.81km<sup>2</sup>の86%が林野で占められている。また、尾瀬を源とする只見川が町の中心部を東西に貫流している。
- 冬期間は日本海側気候のため、平均150cm程度の積雪となる。



2014年度～2020年度の冬季積雪深の推移 (三島町宮下)

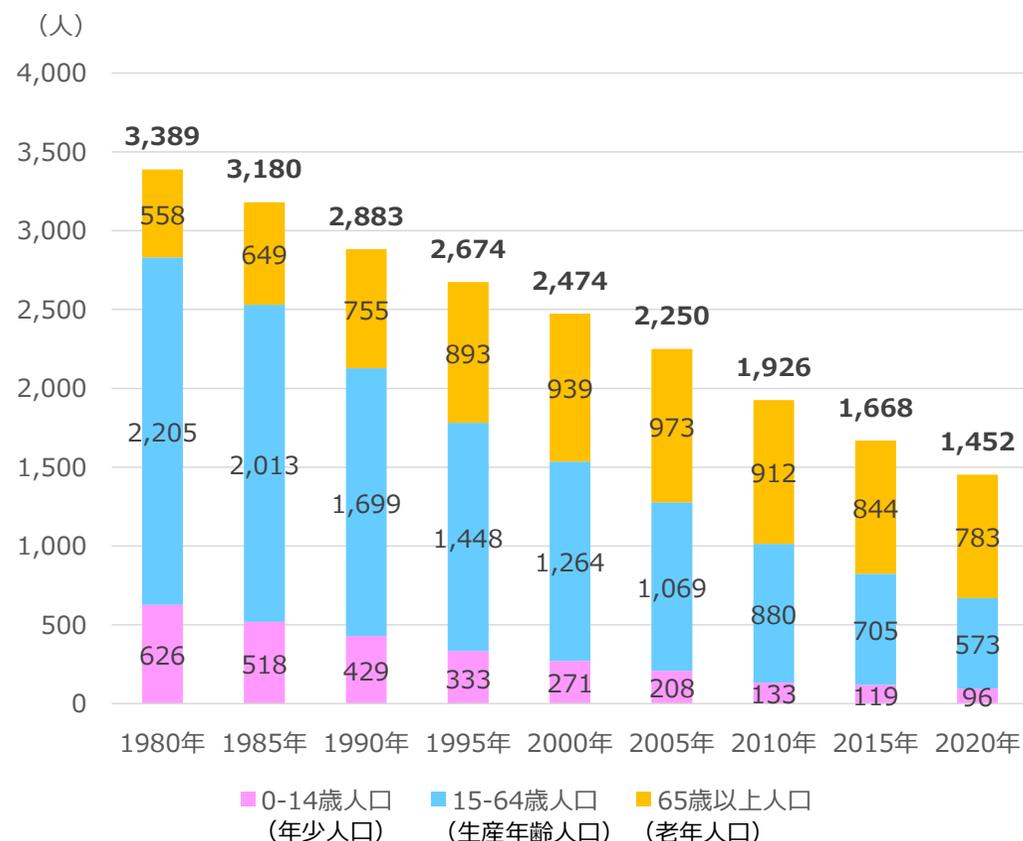


出典：三島町資料

## (2) 人口・世帯 ①人口の推移

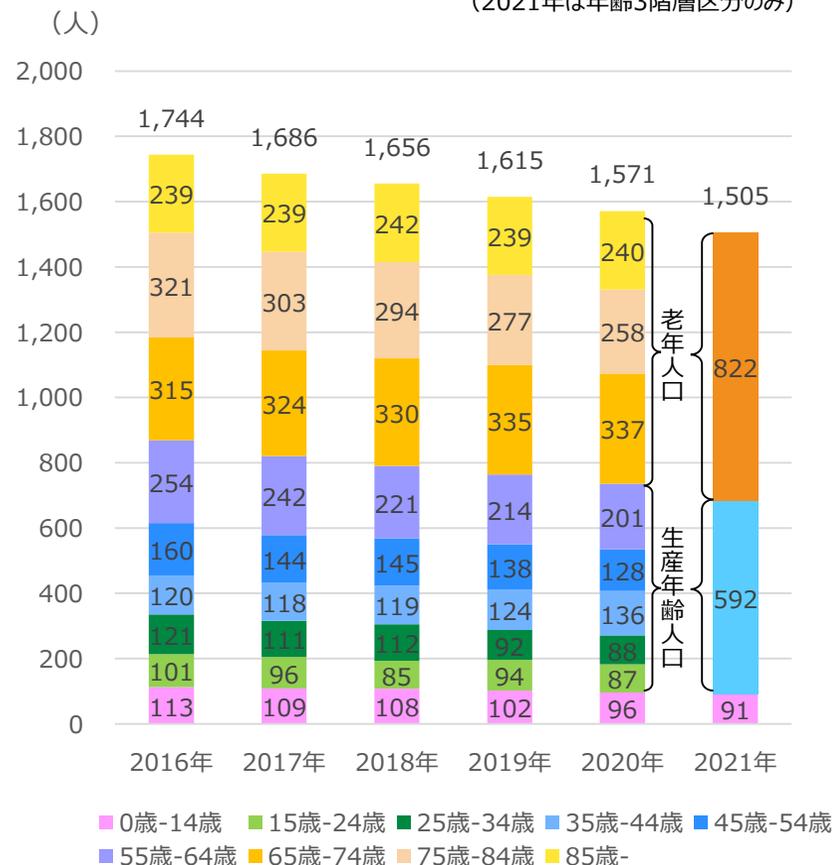
- 三島町の人口は減少傾向が続いており、この30年で約5割減少している。
- 2020年の高齢化率は53.9%、85歳以上人口の割合は14.5%となっている。
- 子どもや現役世代の人口減少が急速に進んでいるが、近年は、高齢者数も減少してきている。

人口の推移（国勢調査ベース）



直近5年の年齢階層別人口（住民基本台帳ベース）

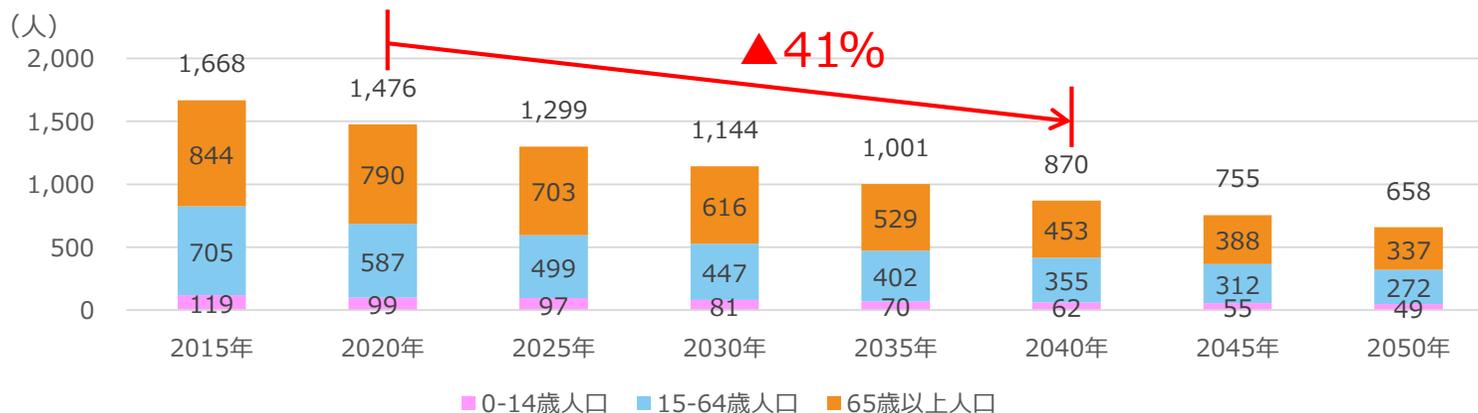
(2021年は年齢3階層区分のみ)



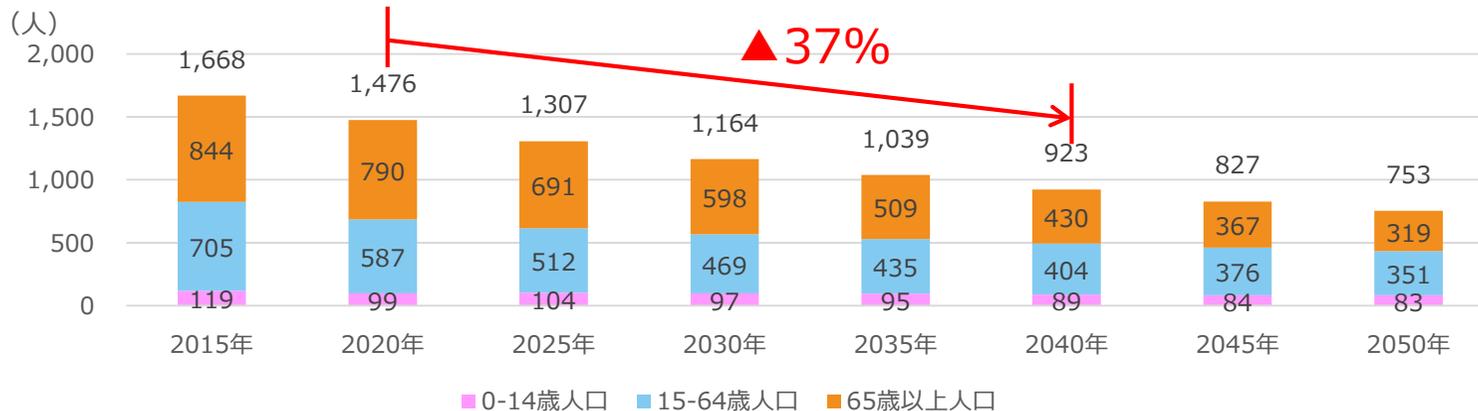
## (2) 人口・世帯 ②将来人口推計

- 2015年の国勢調査人口を基点とした、現状の人口減少が続いた場合の将来人口推計(①)によると、2040年には870人程度と推計されている。
- 今後、出生数及び転入数の増加、転出抑制等の人口減少対策を講じて目標が実現した場合の将来人口推計(②)では、①と比較して緩やかな減少となるが、2040年には920人程度と推計されている。
- いずれにしても、今後も当面は人口減少が進み、20年後には現在の約6割程度の人口になるものと推計されている。

### 将来の人口推計① (現在の人口減少が続いた場合の推計)



### 将来の人口推計② (人口減少対策を講じて目標が実現した場合の推計)

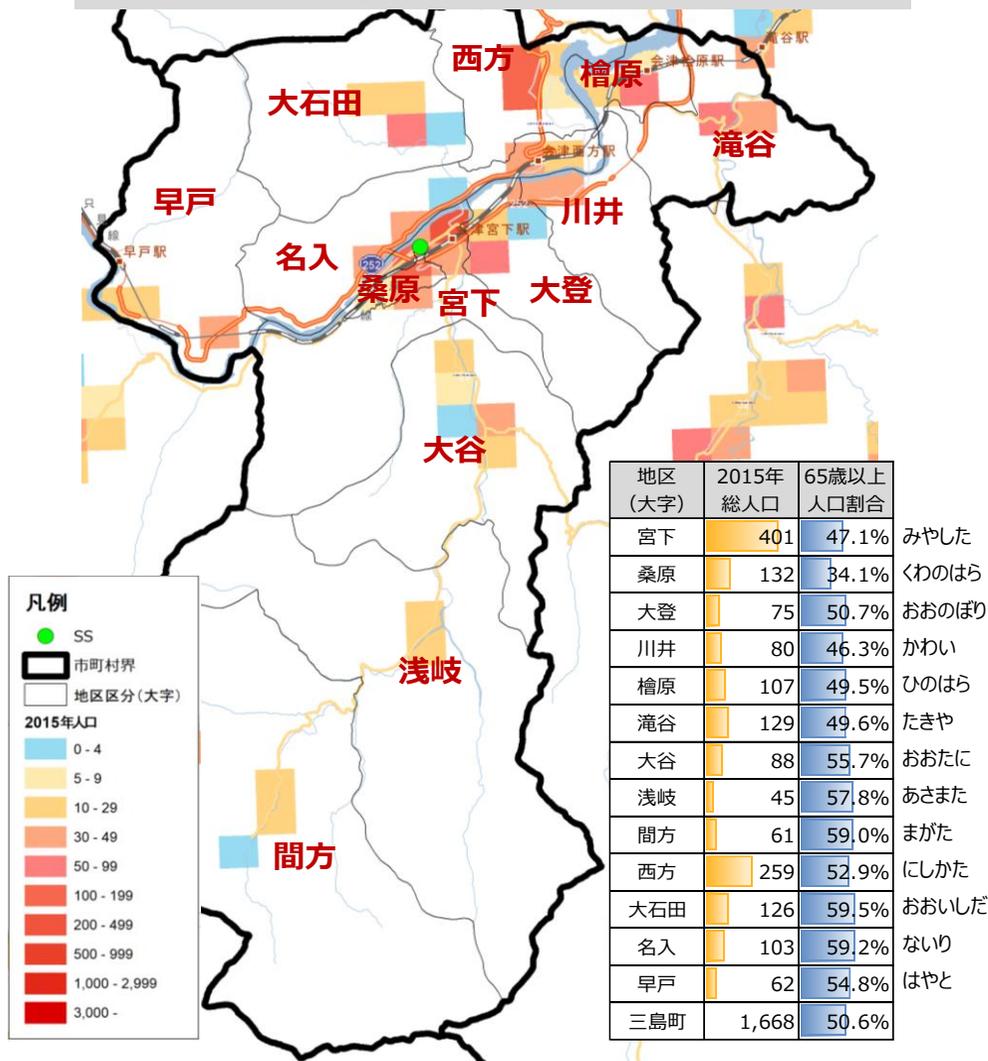


<推計の手法> 福島県が参考として作成した社人研(国立社会保障・人口問題研究所)準拠の人口推計資料を用いてシミュレーションを作成。福島県において、平成23(2011)年3月に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響によって、市町村別の人口の動向および今後の推移を見通すことが依然としてきわめて困難な状況から、県全体の出生率及び移動率等を用いて将来人口を推計。(2015年1月1日の住基人口を足元にして、出生・死亡・移動のいずれも、県全体と同じように推移した場合で推計)。②は、2025年までに合計特殊出生率を1.8人、②社会増減±0を目指し、その後継続した場合の推計。

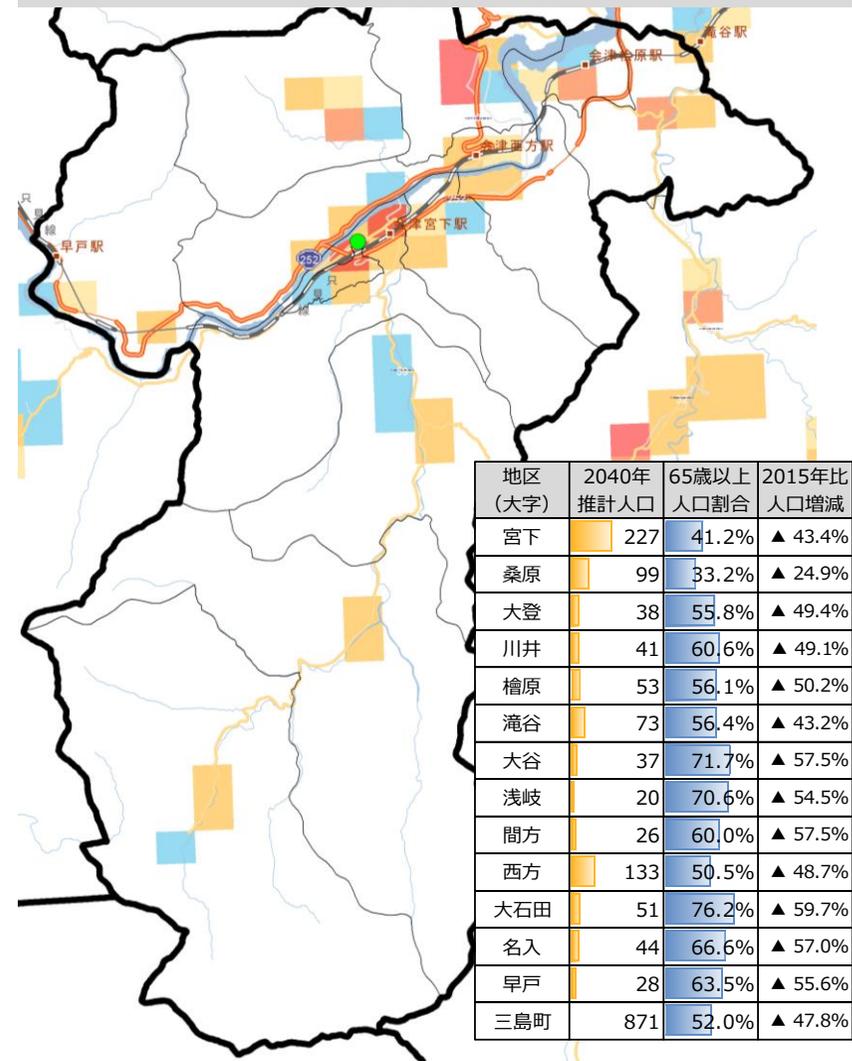
## (2) 人口・世帯 ③人口分布

- 三島町の人口は、只見川沿いのJR只見線、国道252号、国道400号が通じるエリアに比較的集中している。
- 将来推計人口の分布をみると、全体的に人口が減少する中、無居住化するエリアが生じる可能性がある。

人口分布（2015年）



将来推計人口分布（2040年）

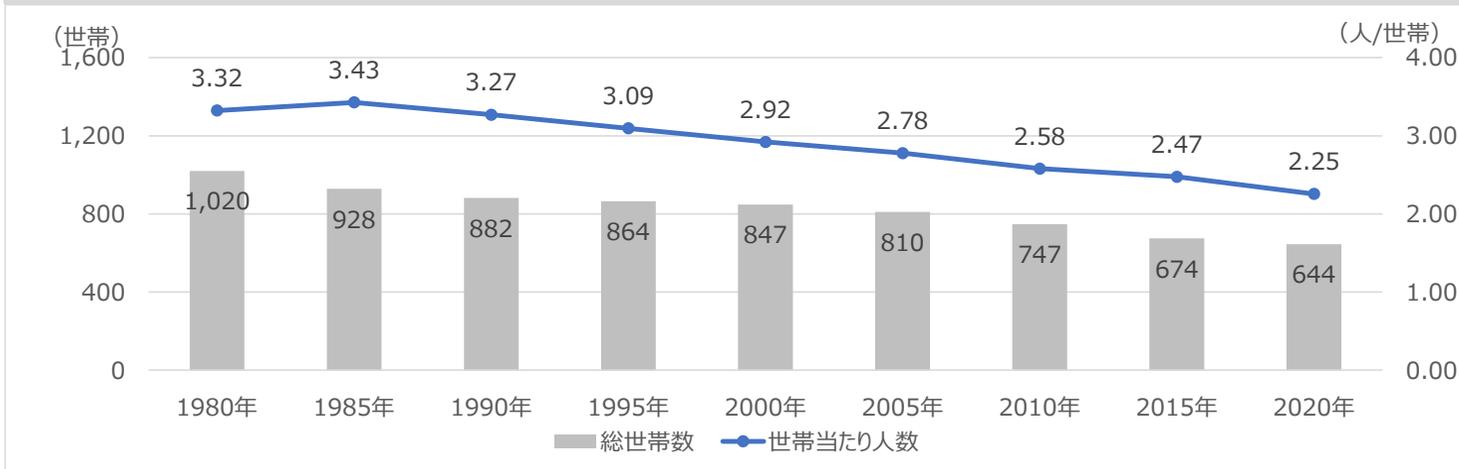


出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口データ（H30国交省国政局推計）、地区別人口は社人研推計に基づき価値総研推計

## (2) 人口・世帯 ④世帯数

- 三島町の世帯数は、人口同様、減少が続いている。1990年代までは世帯当たり人員が3人を超えていたが、2020年は2.25人となっており、世帯の小規模化（核家族化）も進んでいる。
- 高齢者のみ世帯（夫婦のみ世帯、単身世帯）は、世帯数全体の42.9%であり、75歳以上のみ世帯は22.5%、85歳以上のみは7.8%となっている。85歳以上の単身世帯は5.9%となっている（2020年）。
- これら高齢者世帯の割合の増加に伴い、移動制約者の割合も上昇していくものとみられる。

世帯数と世帯当たり人員の推移



出典：総務省「国勢調査報告」

高齢者世帯の状況

		世帯数			割合		
		2010年	2015年	2020年	2010年	2015年	2020年
一般世帯数	総数	745	671	641	100.0%	100.0%	100.0%
高齢者夫婦のみ世帯	65歳以上のみ	129	128	121	17.3%	19.1%	18.9%
	75歳以上のみ	57	58	57	7.7%	8.6%	8.9%
	85歳以上のみ	8	7	12	1.1%	1.0%	1.9%
高齢者単身世帯	65歳以上のみ	125	122	154	16.8%	18.2%	24.0%
	75歳以上のみ	98	84	87	13.2%	12.5%	13.6%
	85歳以上のみ	33	32	38	4.4%	4.8%	5.9%

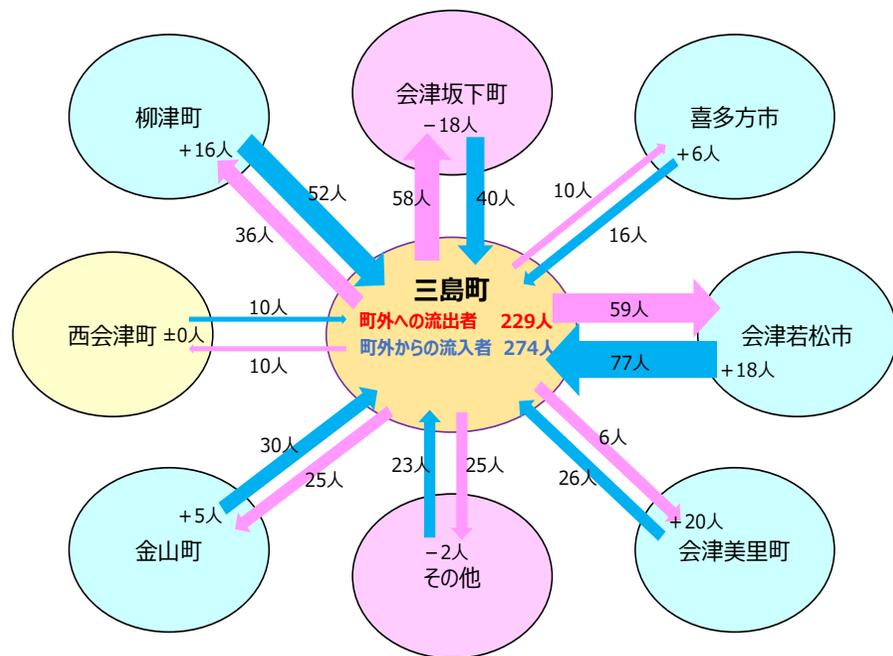
※一般世帯数：総世帯数から、施設等の世帯数（寮・寄宿舎の学生・生徒や病院・療養所、社会施設等の入院者等を除いたもの）

## (2) 人口・世帯 ⑤流動人口（通勤動向）

- 三島町から町外に通勤している人（流出人口）は229人、町外から三島町内に通勤している人（流入人口）は274人で、流入人口が流出人口を上回っている。流出・流入ともに、会津若松市、会津坂下町、柳津町との流動が多い。
- 産業ごとに見ると、建設業、医療・福祉といった地域の雇用を支える産業で、町外から通勤する割合が比較的高い。

流入の状況（2015年、就業者（通勤者）のみ）

区分	人数	割合
三島町に居住する就業者	726	100.0%
うち、町内で従業している人	487	67.1%
うち、町外で従業している人（流出人口）	229	31.5%
従業地不詳	10	1.4%
三島町で従業する人	773	100.0%
うち、町内に居住している人	487	63.0%
うち、町外に居住している人（流入人口）	274	35.4%
居住地不詳	12	1.6%



従業する産業別の流入の状況（2015年）

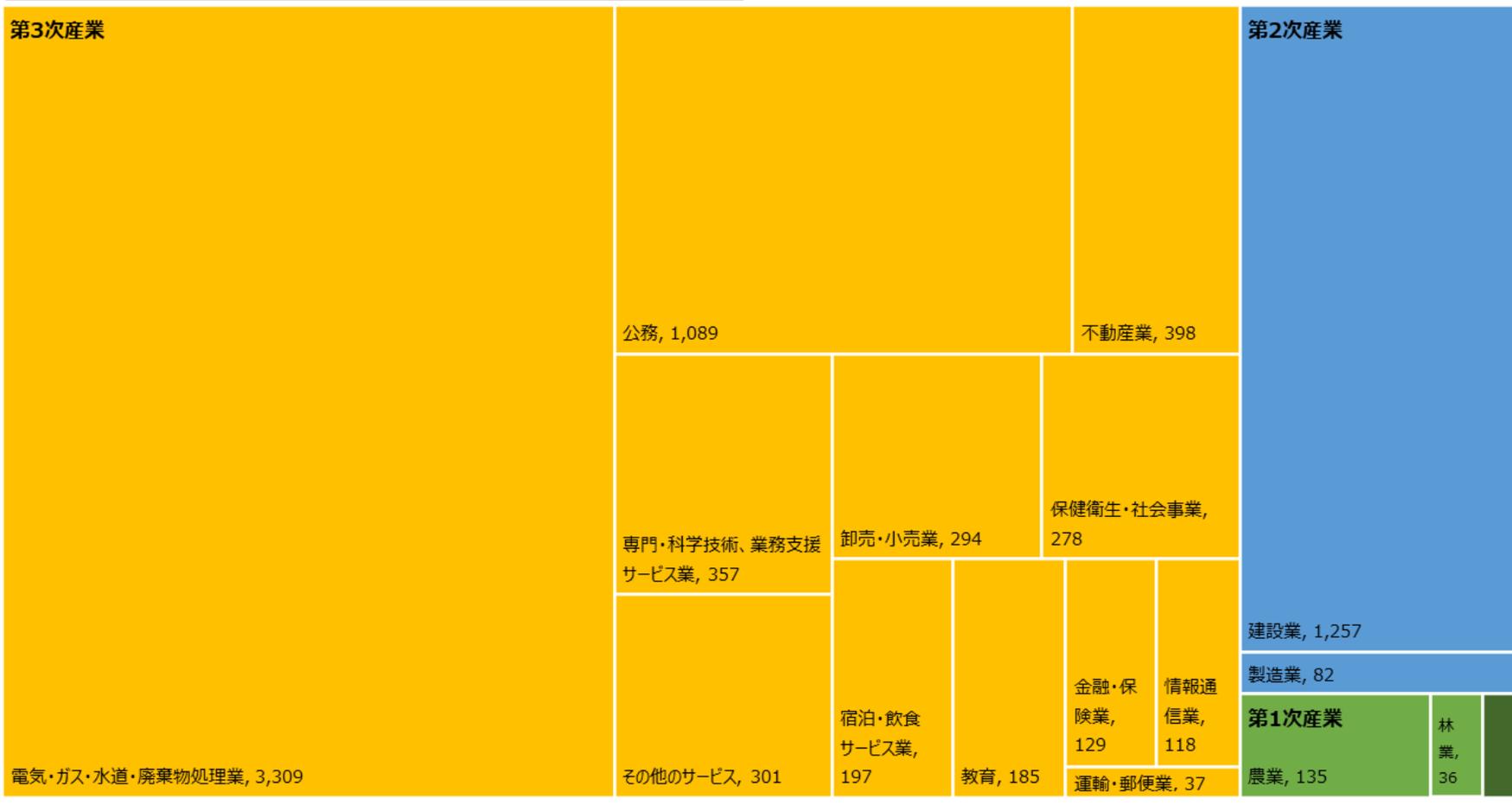
	町内に居住		町外に居住	町内従業者計	従業者に占める流入者（町外居住者）の割合
	町外で従業	町内で従業			
総数	229	487	274	761	36.0%
A 農業、林業	8	88	5	93	5.4%
うち農業	6	84	4	88	4.5%
B 漁業	-	0	0	0	-
C 鉱業、採石業、砂利採取業	-	0	0	0	-
D 建設業	30	63	72	135	53.3%
E 製造業	49	31	9	40	22.5%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	2	9	11	20	55.0%
G 情報通信業	1	2	2	4	50.0%
H 運輸業、郵便業	14	11	3	14	21.4%
I 卸売業、小売業	26	43	6	49	12.2%
J 金融業、保険業	3	1	8	9	88.9%
K 不動産業、物品賃貸業	5	0	1	1	100.0%
L 学術研究、専門・技術サービス業	2	9	13	22	59.1%
M 宿泊業、飲食サービス業	10	31	19	50	38.0%
N 生活関連サービス業、娯楽業	7	21	1	22	4.5%
O 教育、学習支援業	14	11	23	34	67.6%
P 医療、福祉	25	63	64	127	50.4%
Q 複合サービス事業	8	11	10	21	47.6%
R サービス業（他に分類されないもの）	8	23	8	31	25.8%
S 公務（他に分類されるものを除く）	11	53	19	72	26.4%
T 分類不能の産業	6	17	0	17	0.0%

出典：総務省「平成27年国勢調査報告」

### (3) 産業構造 ①地域経済の構造

- 三島町の域内総生産は約82億円（2018年）となっている。
- 内訳をみると、電気・ガス・水道・廃棄物処理業が総生産の40%を占めているほか、建設業が15%、公務が13%となっており、これら3つの産業で域内総生産の約7割を占めている。

三島町の町内総生産（8,233百万円）の内訳（2018年）



■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業 ■ 輸入品に課される税・関税等

### (3) 産業構造 ②事業所数・従業者数

- 三島町内の従業者数（町内で働く人）は773人（2015年）で、その内訳をみると、「建設業」が最も多く、次いで「医療、福祉」、「農業」、「公務」の順となっている。
- 民営事業所数は90事業所、同従業者数は514人（2016年）となっている。

三島町内の従業者数（2015年）

産業（大分類）	従業者数	主な事業所、産品等
A 農業，林業	93	
うち農業	88	水稻、そば
B 漁業	0	
C 鉱業，採石業，砂利採取業	0	
D 建設業	135	滝谷建設工業、佐久間建設工業 など
E 製造業	40	桐製品、会津地鶏加工、山菜加工 など
F 電気・ガス・熱供給・水道業	20	東北電力宮下発電所 など
G 情報通信業	4	
H 運輸業，郵便業	14	
I 卸売業，小売業	49	
J 金融業，保険業	9	
K 不動産業，物品賃貸業	1	
L 学術研究，専門・技術サービス業	22	
M 宿泊業，飲食サービス業	50	宮下温泉、早戸温泉 など
N 生活関連サービス業，娯楽業	22	
O 教育，学習支援業	34	
P 医療，福祉	127	県立宮下病院、(特養) 桐寿苑 など
Q 複合サービス事業	21	
R サービス業（他に分類されないもの）	31	
S 公務（他に分類されるものを除く）	72	三島町役場、福島県宮下土木事務所 など
T 分類不能の産業	17	
総数	761	

産業中分類別の民営事業所数、従業者数（2016年）

産業（大分類）	産業（中分類）	事業所数	従業者数
建設業	総合工事業	6	129
医療，福祉	社会保険・社会福祉・介護事業	7	65
製造業	食料品製造業	4	34
生活関連サービス業，娯楽業	洗濯・理容・美容・浴場業	10	28
宿泊業，飲食サービス業	飲食店	6	24
電気・ガス・熱供給・水道業	電気業	2	23
宿泊業，飲食サービス業	宿泊業	5	22
卸売業，小売業	その他の小売業	5	21
サービス業（他に分類されないもの）	政治・経済・文化団体	3	20
不動産業，物品賃貸業	物品賃貸業	1	16
卸売業，小売業	飲食料品小売業	7	14
宿泊業，飲食サービス業	持ち帰り・配達飲食サービス業	2	12
情報通信業	映像・音声・文字情報制作業	1	11
サービス業（他に分類されないもの）	その他の事業サービス業	1	10
運輸業，郵便業	道路旅客運送業	1	10
建設業	職別工事業(設備工事業を除く)	3	9
複合サービス事業	郵便局	2	8
卸売業，小売業	建築材料，鉱物・金属材料等卸売業	3	8
複合サービス事業	協同組合（他に分類されないもの）	1	7
農業，林業	農業	1	6
製造業	木材・木製品製造業（家具を除く）	3	6
サービス業（他に分類されないもの）	自動車整備業	1	6
金融業，保険業	協同組織金融業	2	5
卸売業，小売業	機械器具小売業	3	5
医療，福祉	医療業	1	5
サービス業（他に分類されないもの）	宗教	2	2
卸売業，小売業	飲食料品卸売業	1	2
不動産業，物品賃貸業	不動産賃貸業・管理業	2	2
金融業，保険業	保険業	1	1
建設業	設備工事業	1	1
製造業	家具・装備品製造業	1	1
生活関連サービス業，娯楽業	その他の生活関連サービス業	1	1
	計	90	514

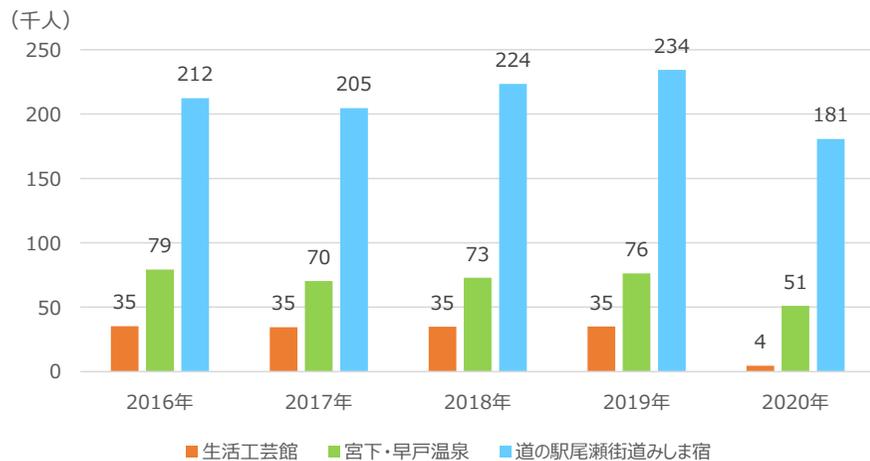
出典：総務省「平成27年国勢調査」

出典：総務省「平成28年経済センサス活動調査」

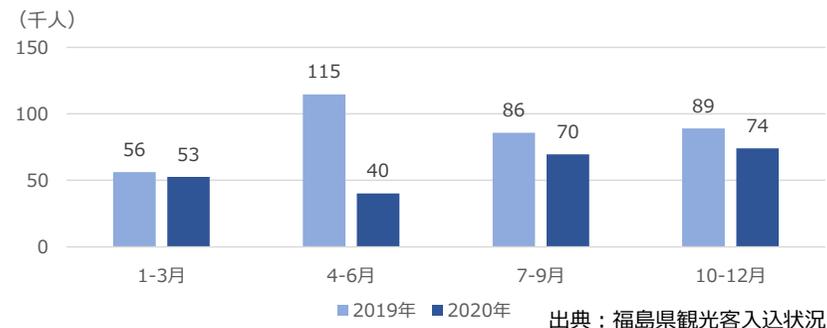
### (3) 産業構造 ③観光

- 三島町には、豊かな自然を満喫できる美坂高原、志津倉山登山、奥会津の観光情報提供や物産展示販売施設としての道の駅「尾瀬街道みしま宿」、観光案内や手打ちそばが味わえる「からんころん」のほか、早戸温泉、宮下温泉がある。また、国の伝統的工芸品である「奥会津編み組細工」が体験できる生活工芸館がある。
- 6月第2土日は「ふるさと会津工人まつり」が開催され、2万人を超える人出がある。

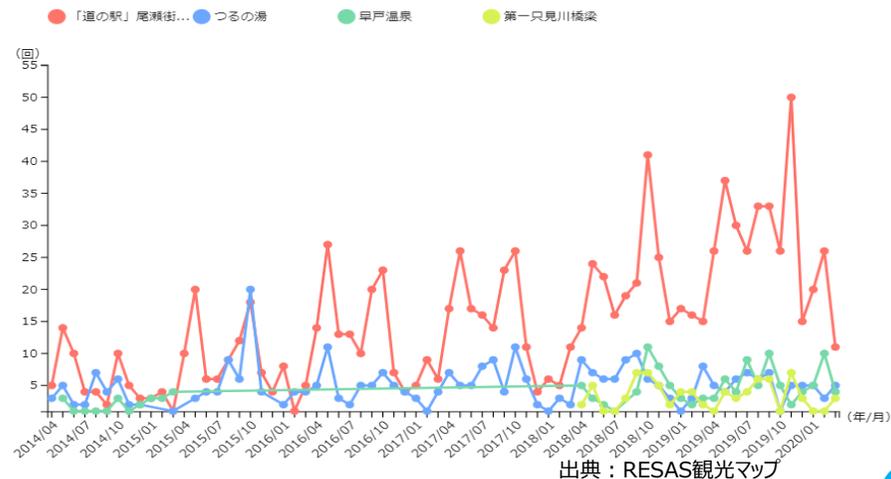
三島町内の主な観光スポットの入込客数



三島町内の観光入込客数の季節変動 (2019年、2020年)



ナビデータによる三島町内の主要スポットの目的地検索数 (休日・自動車利用)



調査地点	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
生活工芸館	35,193	34,517	34,739	34,979	4,469
宮下・早戸温泉	79,297	70,369	72,805	76,182	51,012
道の駅尾瀬街道みしま宿	212,341	204,711	223,510	234,300	180,740
計	326,831	309,597	331,054	345,461	236,221

出典：福島県観光客入込状況

## (4) 道路状況 ①道路交通量

- 三島町内の主要道路の交通量をみると、国道252号は三島町松原地内で約4,400台（2015年:24時間）、早戸地内で約2,700台（同）となっている。国道400号は約130台となっている。
- 2010年と2015年の調査結果を比較すると、国道252号はやや増加しているが、国道400号は大きく減少している。

三島町内主要道路の交通量

### (国道400号) 三島町大字西方字居平

	2010年	2015年
昼間12時間交通量 (台)	388	133
24時間交通量 (台)	473	168

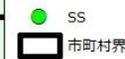
### (国道252号) 三島町大字早戸字居平

	2010年	2015年
昼間12時間交通量 (台)	1,958	2,206
24時間交通量 (台)	2,389	2,691

### (国道252号) 三島町大字松原字上平

	2010年	2015年
昼間12時間交通量 (台)	3,736	3,884
24時間交通量 (台)	4,274	4,426

凡例



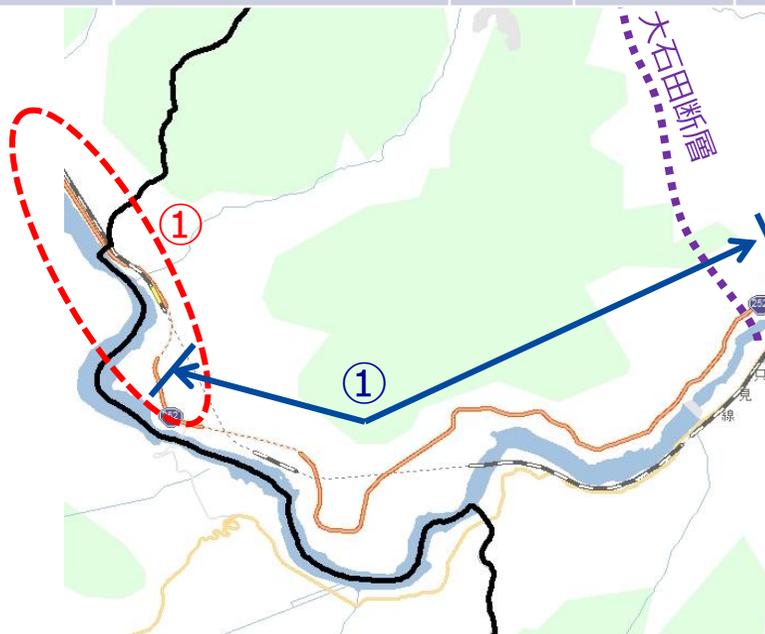
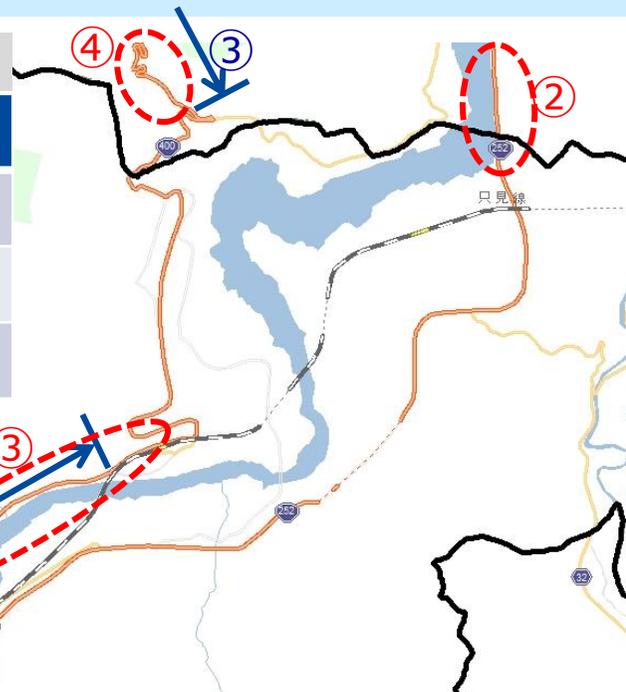
0 0.5 1 km

## (4) 道路状況 ②災害規制等

- 三島町内及び周辺の主要道路では、降雨、豪雪等による倒木、道路崩落などの災害規制が発生している。
- 2011年の豪雨災害時には、最大で12日間にわたり、国道252号の柳津町側のアクセスが規制された。
- 三島町内には、南北方向に「大石田断層」がある。

三島町及び周辺の異常気象時通行規制区間および道路通行規制基準

	路線名	規制区間	規制区 間延長	規制基準	規制 内容	危険 内容
①	国道252号	三島町早戸～三島町名入字湯ノ上下居平	5.2km	連続雨量 120mm	通行止	落石・岩 石、雪崩
②	国道400号	三島町名入字高清水下居平～三島町名入字赤谷	2km	連続雨量 120mm	通行止	落石
③	国道400号	柳津町飯谷字柏木平	1.6km	連続雨量 120mm	通行止	落石



2010年以降の主な通行規制発生状況（全面通行止12時間以上、国道のみ）

	路線名	規制区間	規制期間	規制区 間延長	規制理由
①	国道252号	金山町川口～三島町早戸	2011年7月28日16:00～2011年7月29日12:00	10.0km	切土法面崩落
②	国道252号	柳津町飯谷地内	2011年7月30日14:00～2011年8月11日15:00	3.7km (う回路あり)	道路崩落
③	国道400号	三島町名入地内	2010年12月26日7:00～12月28日10:30	2.5km	豪雪による倒木
④	国道400号	柳津町飯谷地内	2015年9月10日9:00～9月11日9:00	2.3km	雨量超過

出典：（道路災害規制）三島町資料、宮下土木事務所資料をもとに作成  
（断層）独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター「宮下地域の地質」をもとに作成

## (5) 三島町の現状のまとめ

### ● 地理的条件・人口・産業等の現状

- 谷あい集落が形成され、冬季は平均150cmの積雪、異常気象時は道路通行規制も生じるなど厳しい地理的条件
- 人口減少が進んでおり、今後も2040年にかけて約4割減少と推計
- 建設業や電気業（宮下発電所）が地域経済の中核的産業であり、「稼ぐ力」の源泉
- 建設業、医療・福祉が従業者数の1/3程度を占め、町外からの通勤者が町外への通勤者よりも多い
- 国道252号は、年間20万人以上の利用がある「道の駅尾瀬街道みしま宿」が立地し、近年は交通量がやや増加

燃料供給面からみた  
現状まとめ

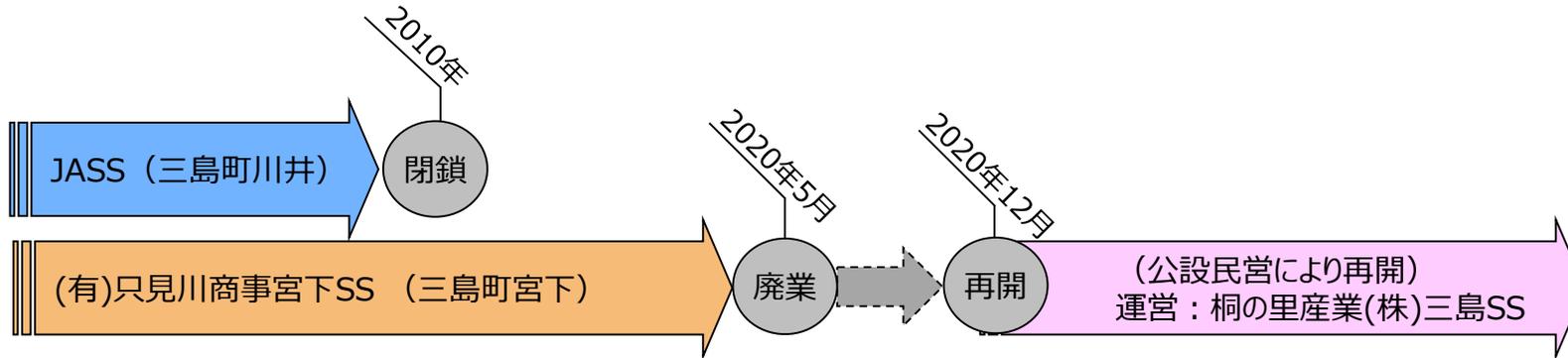
- ✓ 除雪、建設機材、医療福祉施設など、町民生活や地域産業を支えるために一定の燃料需要がある
- ✓ 人口減少や、日常的な町外との流出入状況から、町民の町内給油ニーズは安定的・顕在的とはいえない
- ✓ 国道252号は、道の駅や交通量の状況から、通行者の給油需要を喚起できる可能性がある
- ✓ 町境域などにおいて、異常気象等による通行規制が生じた区間もあり、災害時の燃料供給リスクが存在する

## 2. 燃料供給体制の現状と見通し

---

# (1) 三島町内のSSの概況

- 三島町内の給油所は、2010年にJASSが閉鎖して以降、民間事業者1社が運営してきたが、後継者難により2020年5月に廃業となった。その後、町民からのガソリン給油や冬期間の灯油等燃料供給への不安を受け、2020年12月に公設民営方式によりSSを再開した。



## <桐の里産業三島SS>

- 国道252号から市街地内に400mほどの旧国道沿いにある。
- 袋小路で交通量が少なく、利便性が高い場所とはいえない。



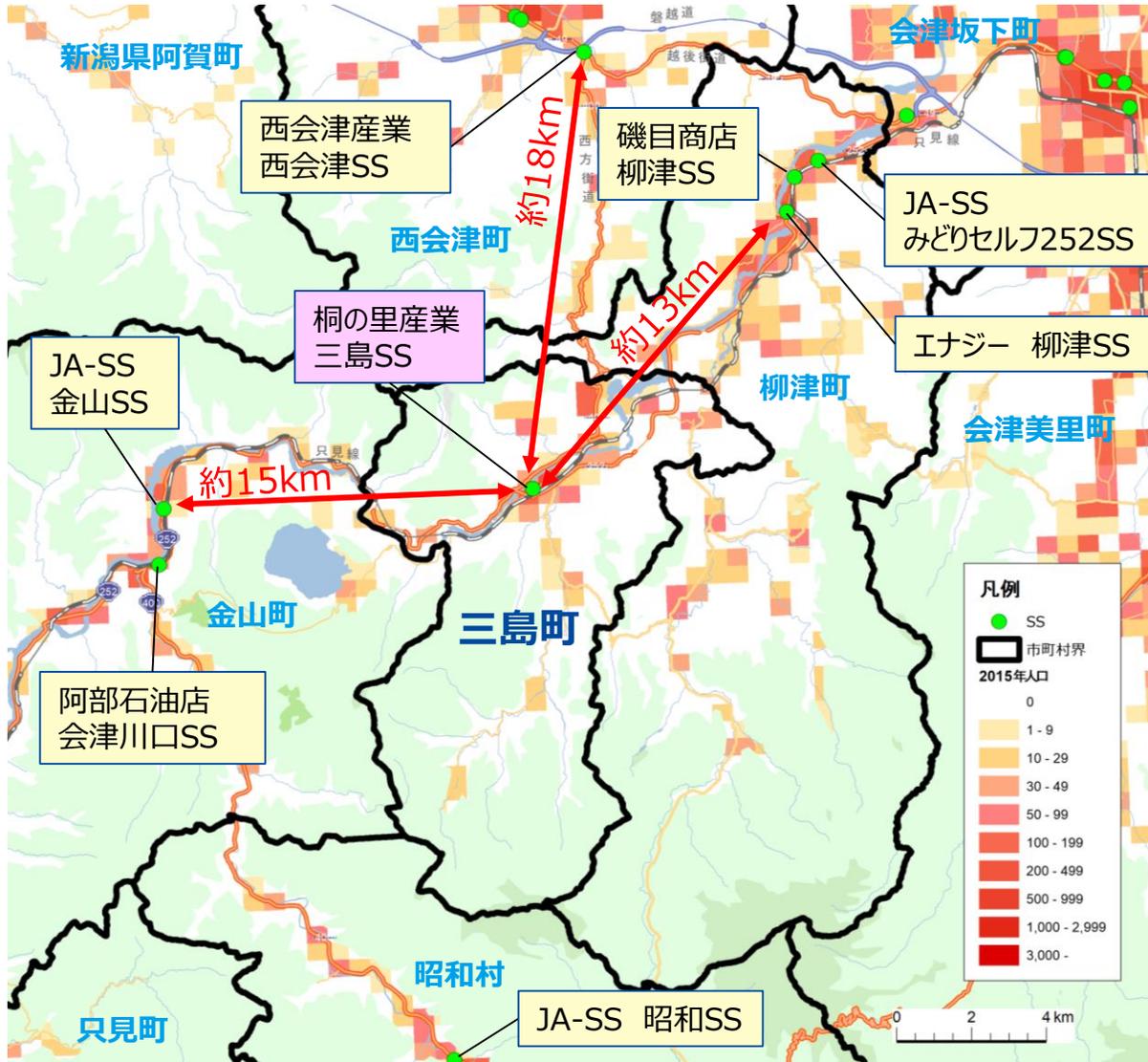
## <旧JA-SS (跡地)>

- 2010年に閉鎖

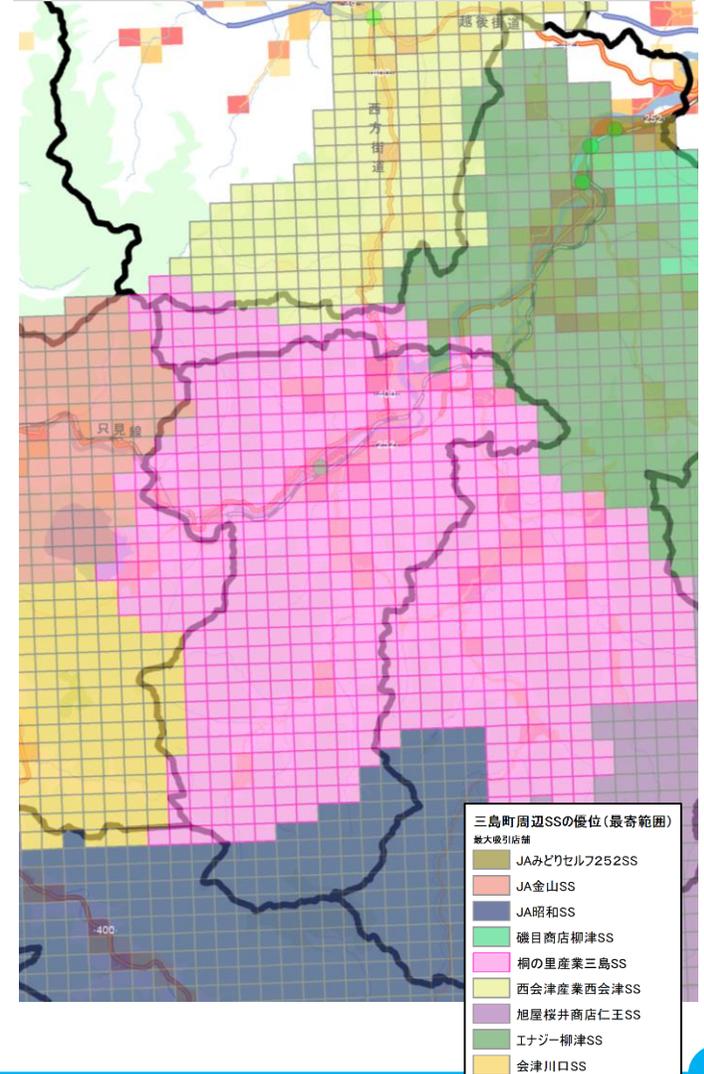


## (2) 三島町及び三島町周辺のSS立地状況

- 桐の里産業三島SSから隣接のSSまでは、道路距離で概ね13～18km、20分～30分の離隔となっている。
- 道路距離による最寄SS商圈をみると、三島SSの商圈には、三島町のほぼ全域のほか柳津町西山地区も含まれる。



参考：道路距離による最寄SS商圈範囲



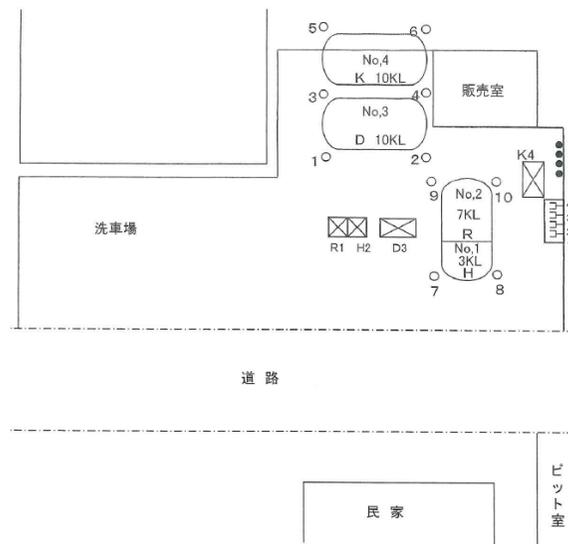
### (3) 桐の里産業三島SSの概況

- 町内の給油所は、2010年にJASSが閉鎖して以降、民間事業者1社が運営してきたが、後継者難により2020年5月に廃業となった。その後、町民からのガソリン給油や冬期間の灯油等燃料供給への不安を受け、2020年12月に公設民営方式によりSSを再開した。

#### 桐の里産業株式会社三島給油所（三島SS）の概要

項目	現状
開設年月日	2020年12月4日（旧只見川商事宮下給油所の設備等を承継して再開）
設置者	三島町（桐の里産業株式会社が指定管理者として管理・運営）
タンク	10KL×3基（ハイオク3KL+レギュラー7KL、軽油10KL、灯油10KL） ※昭和30年～40年代にタンク設置（鋼製一重殻タンク） ※2013年に内面ライニングによる腐食防止措置実施済（10年程度耐用想定）
営業時間	7時～18時30分、定休日：（夏季）木・日、（冬季）日
従業員数	常勤社員：2名 パート最大2名（半日勤務、うち配達専門1名）
サインポール	昭和シェル
配達	軽油2KLローリー1台、灯油2KLローリー1台で注文に応じて町内配達
その他	ハイオク、レギュラーガソリンは町民に割引価格（5円/ℓ引き）で提供

#### 三島SSの施設平面図



### (3) 桐の里産業三島SSの概況

#### ○三島SSの利用状況（従業員ヒアリングより）

##### <利用状況>

- ・利用者はほとんどが町内居住者
- ・平日でも60-70台程度利用がある日もある
- ・最近は販売量が増えており、商品券利用者も多い
- ・売掛は70件程度
- ・ハイオクガソリンは、1日3～4台程度であり、販売量は少ない

##### <営業状況>

- ・常駐は2名、そのほか配達専門スタッフがいる
- ・町民価格として、周辺セルフ価格の5円引（フルサービス比7円引）で販売している
- ・サインポールはシェルであるが、シェルの割引（カード割引等）は対象外となっている
- ・施設の老朽化が進んでいる。毎年圧力検査をしており、年間20万円以上の費用がかかっている

##### <配達状況>

- ・夏季は週2回午前中のみ、冬季は週3回終日配達に回る（10-15件/日程度）
- ・大口顧客は週1回定期配送する（つるの湯、佐久間建設工業等）
- ・配達は基本的に100L以上で、ごく少量（ポリタンク1～2本）の配達はお断りしている
- ・配達料は5円/L
- ・一般家庭への定期配送は、顧客とのトラブルやホームタンク給油時の確認などでデメリットの方が多く、実施していない

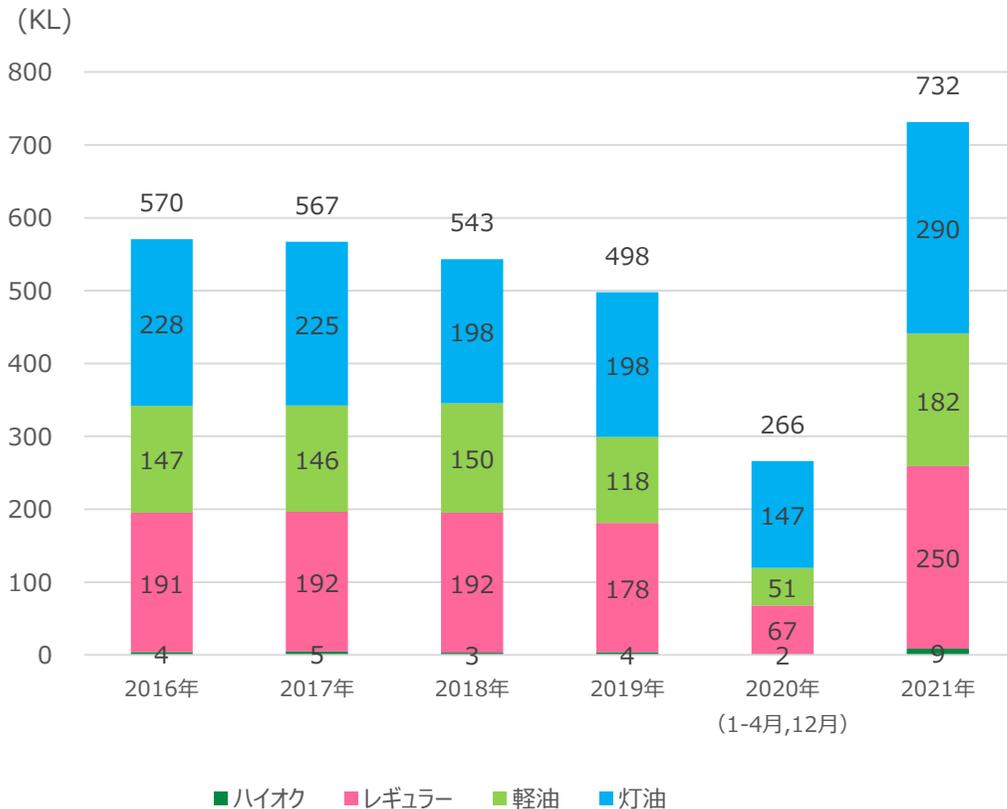
##### <その他（施設・設備更新ニーズ等）>

- ・洗車ができると良い。特に冬季は融雪剤が足回りにつくためニーズはある。機械とスペースがあれば収益性は高い。
- ・除雪車が多く稼働するときは、軽油（10KL）タンクがすぐになくなり、毎日のように仕入れるときもある。老朽化も進んでおり、大きいタンクがあると良い。

## (4) 三島SSの販売状況 ①総販売量

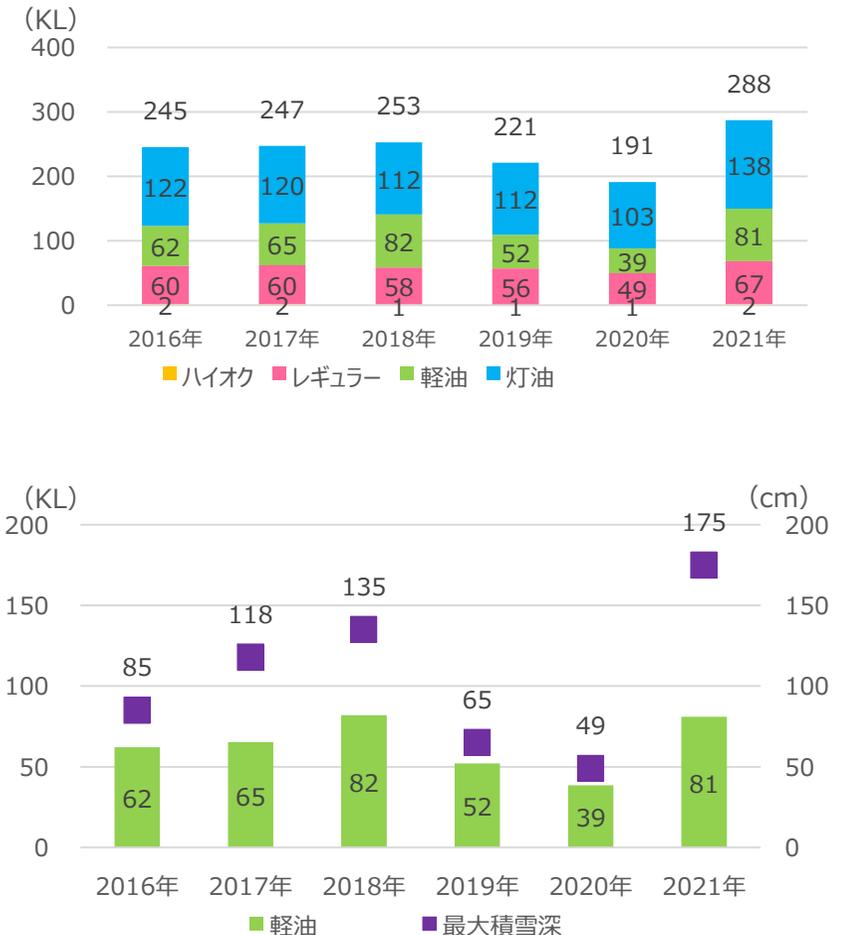
- ・ 只見川商事により営業されていた2019年の年間総販売量は498KLで、2016年以降は微減となっている。
- ・ 桐の里産業による再開後、2021年年間販売量は732KLで、再開前（2019年）の販売量の1.5倍近い量となっている。
- ・ 軽油の販売量は、冬季の積雪量（最大積雪深）に概ね連動している。

### 油種別販売量の推移



※2021年は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出減がある一方で、新型コロナウイルス経済対策として町内施設で利用できる商品券（利用額3割上乘せ）を通常年1回発行のところ年2回発行しているほか、町民1人あたり1万円分の商品券を発行しており、販売量はこれらの影響を考慮する必要がある。

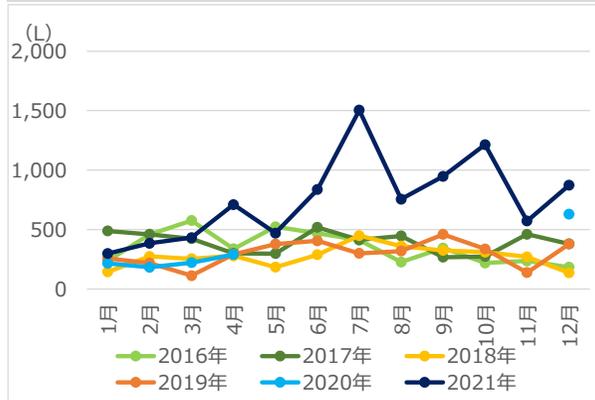
### 参考：各年1月～4月の販売量



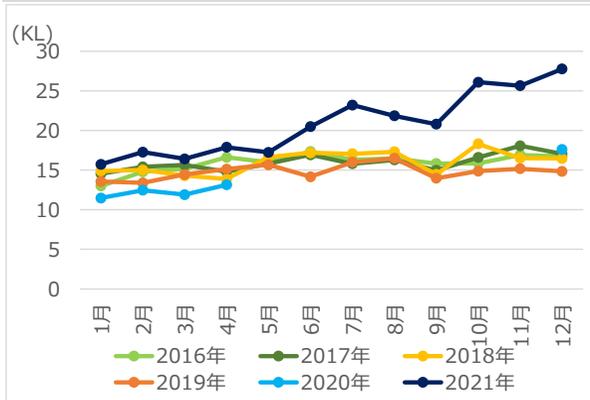
## (4) 三島SSの販売状況 ②油種別販売量 (月別推移)

- 油種別・月別の販売量をみると、ガソリンは通年でおおむね15~20KLだったが、2021年6月以降増加傾向となっている。
- 軽油・灯油は季節変動が大きく、軽油は年次による変動も大きい。

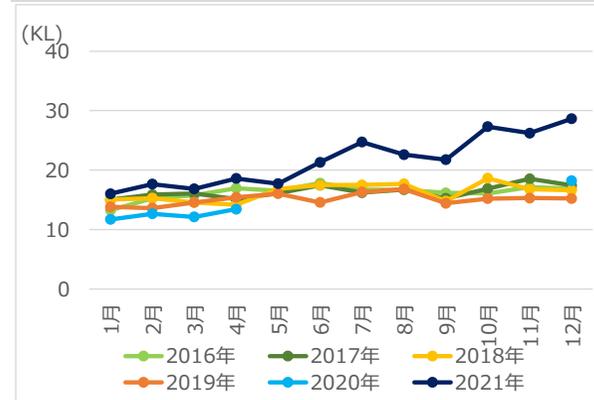
### ハイオクガソリン (H)



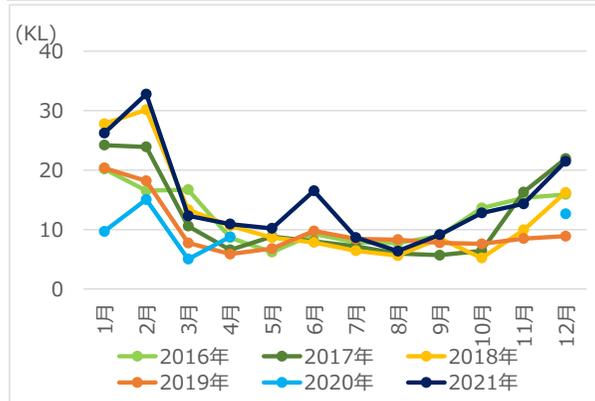
### レギュラーガソリン (R)



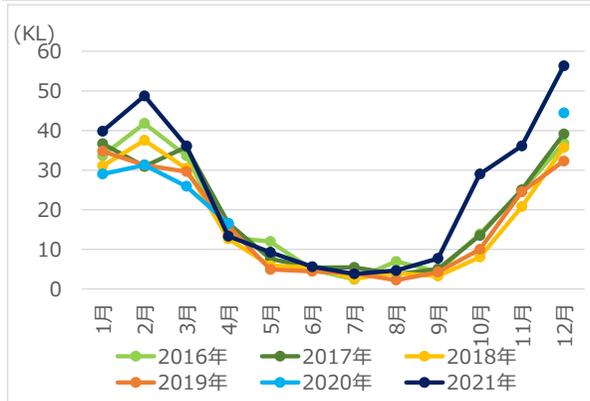
### ガソリン計 (H+R)



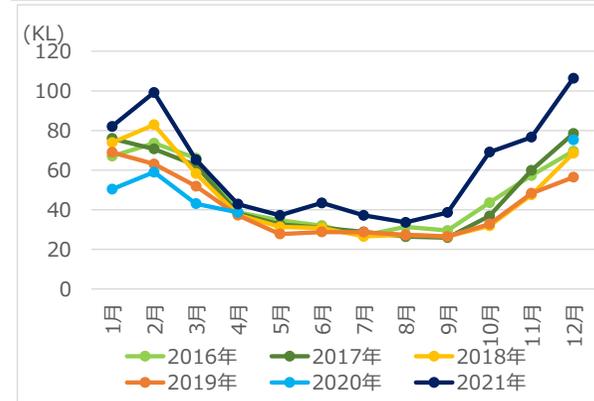
### 軽油 (D)



### 灯油 (K)

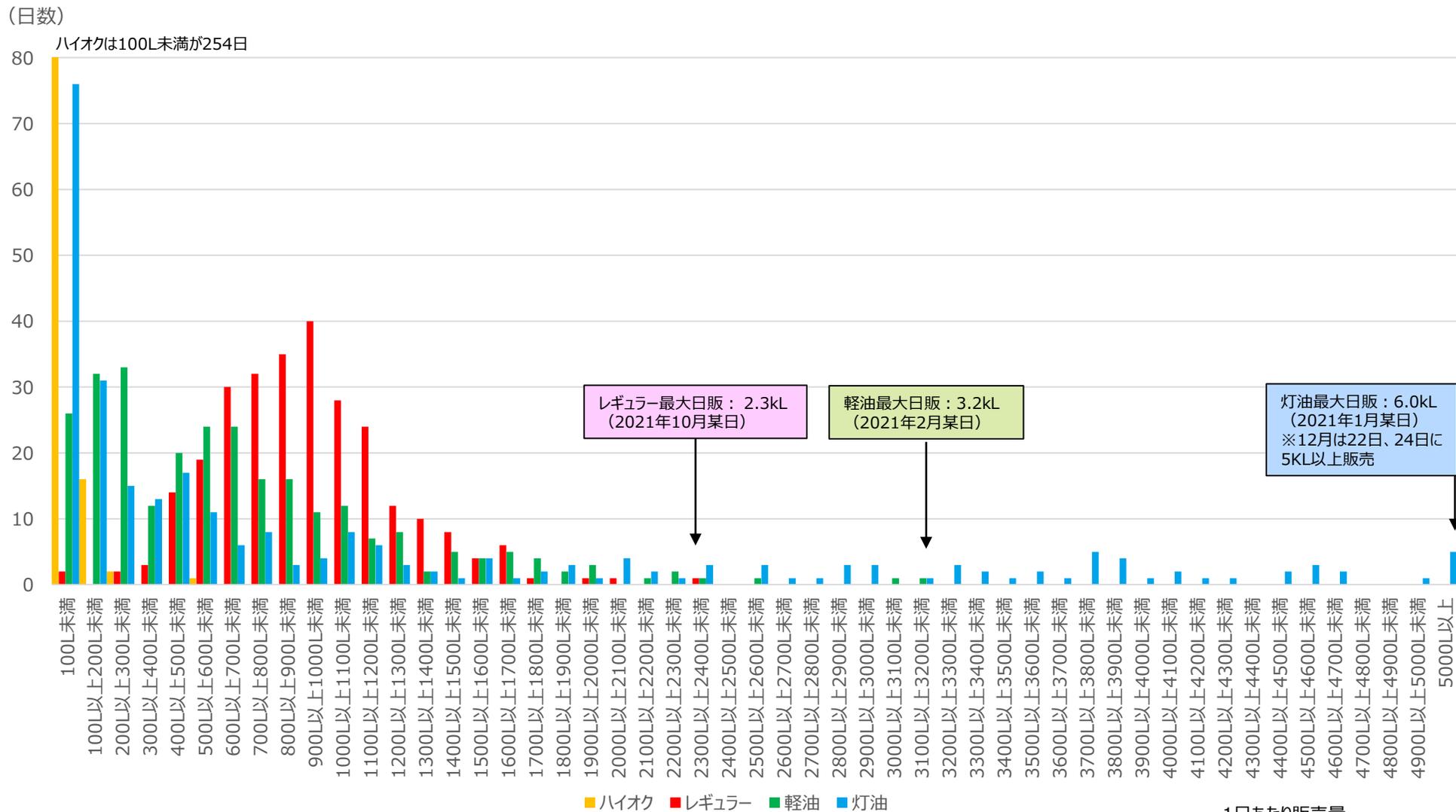


### 燃料計 (H+R+D+K)



## (4) 三島SSの販売状況 ③1日あたり販売量の分布 (令和3年1月~12月)

- 令和3年中の1日あたり販売量の分布を見ると、レギュラーガソリンの最頻日販は700L~800L、最大日販2.3KLとなっている。
- 軽油、灯油は季節による変動が大きく、令和3年の軽油の最大日販は3.2KL (2月)、灯油が6.0KL (1月) となっている。
- 灯油は、天候等によるピーク集中が特に顕著であり、2021年12月には3日間で11KL程度販売した日も見られている。



## (5) 三島SSの事業計画と経営実績

- 三島SSの事業計画（2021年予算）によると、年間販売量680KL程度、約530万円の黒字を想定。（ただし補助金除くと約220万円の赤字）
- 2021年1月～9月の実績を見ると、収入が計画を上回ったが、経費も計画を上回り、結果として収支はややマイナスとなっている。

### ●三島SS 2021年事業計画（予算）

区分	項目	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考	
収入	売上	千円	8,358	8,460	7,796	5,300	3,568	3,568	3,568	3,568	3,568	4,893	6,931	9,988	69,566		
	その他入金	千円	7,500												7,500	町補助金	
	収入計	千円	15,858	8,460	7,796	5,300	3,568	3,568	3,568	3,568	3,568	4,893	6,931	9,988	77,066		
支出	仕入費	千円	7,194	7,281	6,667	4,562	3,071	3,071	3,071	3,071	3,071	4,211	5,965	8,597	59,832		
	人件費	千円	1,008	918	918	816	654	654	654	654	654	654	654	816	9,054		
	その他経費	千円	50	220	220	220	220	220	220	220	220	220	620	250	2,900	広告宣伝費、水道光熱費、租税公課、消耗品費、事務用品費、修繕料、使用料等	
	支出計	千円	8,252	8,419	7,805	5,598	3,945	3,945	3,945	3,945	3,945	5,085	7,239	9,663	71,786		
<b>収支</b>		<b>千円</b>	<b>7,606</b>	<b>41</b>	<b>-9</b>	<b>-298</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-192</b>	<b>-308</b>	<b>325</b>	<b>5,280</b>		
<b>収支（除補助金）</b>		<b>千円</b>	<b>106</b>	<b>41</b>	<b>-9</b>	<b>-298</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-377</b>	<b>-192</b>	<b>-308</b>	<b>325</b>	<b>-2,220</b>		
販売関連指標	販売数量	KL	82	83	76	52	35	35	35	35	35	48	68	98	682		
	仕入数量	KL	82	83	76	52	35	35	35	35	35	48	68	98	682		
	販売単価（売上額/売上数量）	円/L	102	102	103	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	
	仕入単価（仕入額/仕入数量）	円/L	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	
	マージン（販売単価－仕入単価）	円/L	14.2	14.2	14.9	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.3	
	粗利（売上額－仕入額）	千円	1,164	1,179	1,129	738	497	497	497	497	497	497	682	966	1,391	9,734	

※売掛、買掛等の資金繰りや前年からの繰越金等は考慮していない

### ●三島SS 販売等実績（2021年1月～9月）

区分	項目	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
収入	売上	千円	8,450	10,614	7,423	5,312	4,932	5,909	5,215	4,589	5,311				57,756	
	燃料	千円	8,450	10,614	7,385	5,309	4,923	5,893	5,200	4,584	5,304				57,663	
	燃料以外	千円	0	0	38	3	9	16	15	5	7				93	
	補助金	千円	7,500	0	0	0	0	0	0	0	0				7,500	
<b>収入計</b>		<b>千円</b>	<b>15,950</b>	<b>10,614</b>	<b>7,423</b>	<b>5,312</b>	<b>4,932</b>	<b>5,909</b>	<b>5,215</b>	<b>4,589</b>	<b>5,311</b>				<b>65,256</b>	
支出	仕入費	千円	7,243	9,711	5,791	4,236	4,868	4,760	5,578	3,952	4,380				50,520	
	人件費	千円	859	763	769	1,317	687	643	660	953	815				7,466	社会保険、福利厚生、通勤費含む
	経費	千円	116	572	175	212	144	128	198	186	122				1,852	
	支出計	千円	8,218	11,046	6,735	5,765	5,699	5,532	6,436	5,090	5,316				59,838	
<b>収支</b>		<b>千円</b>	<b>7,732</b>	<b>-432</b>	<b>688</b>	<b>-452</b>	<b>-768</b>	<b>377</b>	<b>-1,221</b>	<b>-501</b>	<b>-6</b>				<b>5,417</b>	
<b>収支（除補助金）</b>		<b>千円</b>	<b>232</b>	<b>-432</b>	<b>688</b>	<b>-452</b>	<b>-768</b>	<b>377</b>	<b>-1,221</b>	<b>-501</b>	<b>-6</b>				<b>-2,083</b>	
販売関連指標	販売量	KL	81	99	67	41	37	44	39	33	39				481	
	仕入量	KL	82	104	60	40	42	40	44	32	36				480	
	販売単価（売上額/売上数量）	円/L	104	107	111	128	134	134	132	138	134				120	
	仕入単価（仕入額/仕入数量）	円/L	88	93	97	106	116	119	127	124	122				105	
	マージン（販売単価－仕入単価）	円/L	16.0	14.0	14.2	22.5	17.9	15.2	5.0	14.4	12.7				14.7	
	粗利（売上額－仕入額）	千円	1,207	904	1,632	1,076	64	1,149	-363	637	931				7,236	

区分	項目	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計（9月まで）	備考
計画と実績の差	販売量	KL	-1	+16	-9	-11	+2	+9	+4	-2	+4				+13	
	収入	千円	+92	+2,154	-373	+12	+1,364	+2,341	+1,647	+1,021	+1,743				+10,002	
	支出	千円	-34	+2,627	-1,070	+167	+1,754	+1,587	+2,491	+1,145	+1,371				+10,039	
	収支	千円	+126	-473	+697	-154	-391	+754	-844	-124	+371				-38	
	粗利	千円	+43	-275	+503	+338	-433	+652	-860	+140	+434				+541	
	経費	千円	-83	+197	-194	+493	-43	-102	-16	+264	+62				+579	

## (6) 三島SSの現状と課題のまとめ

### ● 桐の里産業三島SSの現状

- 国道252号から市街地内に400mほどの旧国道沿いにあり、袋小路で交通量が少なく、利便性が高い場所とはいえない
- 現状の立地では、町民以外（通過交通）の利用は極めて少なく、ほとんどが町内の利用
- 施設は50年程度経過し、老朽化が進んでいる（地下タンクは2013年に内面ライニング（腐食防止措置）実施済）
- 2019年（当時は只見川商事が経営）の燃料販売量は年間約500KL程度、近年はガソリン、灯油が微減で軽油は積雪状況により変動
- SS再開後の年間販売量は680KL、人件費年間900万円、その他経費年間300万円程度の運営を想定（仕入費を除く）
- SS再開後、前年同期より販売量は増加しているが、補助金を除いた収支（2021年1月-9月まで）は200万円程度の赤字
- 三島SSから隣接SSまでは、各方面とも、通行規制発生区間を経て、20-30分程度の距離
- 三島SSの道路距離圏には、三島町のほぼ全域のほか、柳津町西山地区も含まれる

### 現状を踏まえた主な課題

- ✓ 現状の立地では、利用者は町民がほとんどであり、今後の販売量増加は期待しにくい
- ✓ 補助金により経営が維持できている状況であり、SS単体での持続的・自立的な経営維持はできていない
- ✓ タンクの腐食対策は施されているが、施設全体として老朽化が進んでいる

### 3. 地域の燃料需要とニーズ

---

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○町民アンケート調査の概要

<対象> 三島町内全世帯 (683世帯に配布)

<実施期間> 令和3年9月14日～9月30日 (その後も10月8日まで回収受付)

<実施方法> 郵送配布・郵送回収

<調査項目>

- ✓ 基本属性 (居住地区、世帯人数、世帯人員の年齢)
- ✓ 灯油の利用状況 (灯油利用の有無、ホームタンクの有無、灯油購入方法、灯油購入場所、購入頻度、購入量)
- ✓ 灯油などの燃料の入手についての不安 (通行止、移動制約、配達停止等)
- ✓ 自動車用燃料 (ガソリン、軽油) の購入先 (給油場所、給油頻度、給油量)
- ✓ 自動車以外用の燃料 (ガソリン、軽油) の購入先 (購入場所、購入頻度、購入量)
- ✓ 三島町内のガソリンスタンドがより利用されるようになるためのニーズ・考え (場所、営業時間、価格、サービス、複合機能等)
- ✓ 自由意見

<回収状況> 回収数409世帯 / 683世帯 (回収率60%)

	SA		参考：地区別回答率	
	回答数	割合	世帯数	回答率
宮下	91	22.2%	155	59%
荒屋敷	9	2.2%	16	56%
桑原	14	3.4%	16	88%
中平	6	1.5%	27	22%
大登	18	4.4%	32	56%
川井	21	5.1%	39	54%
桧原	28	6.8%	43	65%
滝谷	29	7.1%	42	69%
大谷	21	5.1%	39	54%
浅岐	10	2.4%	19	53%
間方	15	3.7%	30	50%
西方	66	16.1%	99	67%
大石田	36	8.8%	50	72%
名入	12	2.9%	29	41%
小山	2	0.5%	5	40%
高清水	11	2.7%	17	65%
滝原	7	1.7%	13	54%
早戸	11	2.7%	15	73%
無回答	2	0.5%	-	-
合計	409	100.0%	686	60%

	SA		参考：年代別回答率	
	回答人員数	割合	人口	回答率
0～14歳	54	6.1%	95	57%
15～34歳	66	7.5%	173	38%
35～49歳	112	12.7%	178	63%
50～64歳	144	16.4%	243	59%
65～74歳	249	28.3%	339	73%
75～84歳	143	16.3%	234	61%
85歳以上	112	12.7%	224	50%
合計	880	100.0%	1,486	59%

	SA	
	回答数	割合
64歳以下がいる世帯	197	49.7%
65歳以上のみ世帯	199	50.3%
うち75歳以上のみ世帯	86	21.7%
全体	396	100.0%

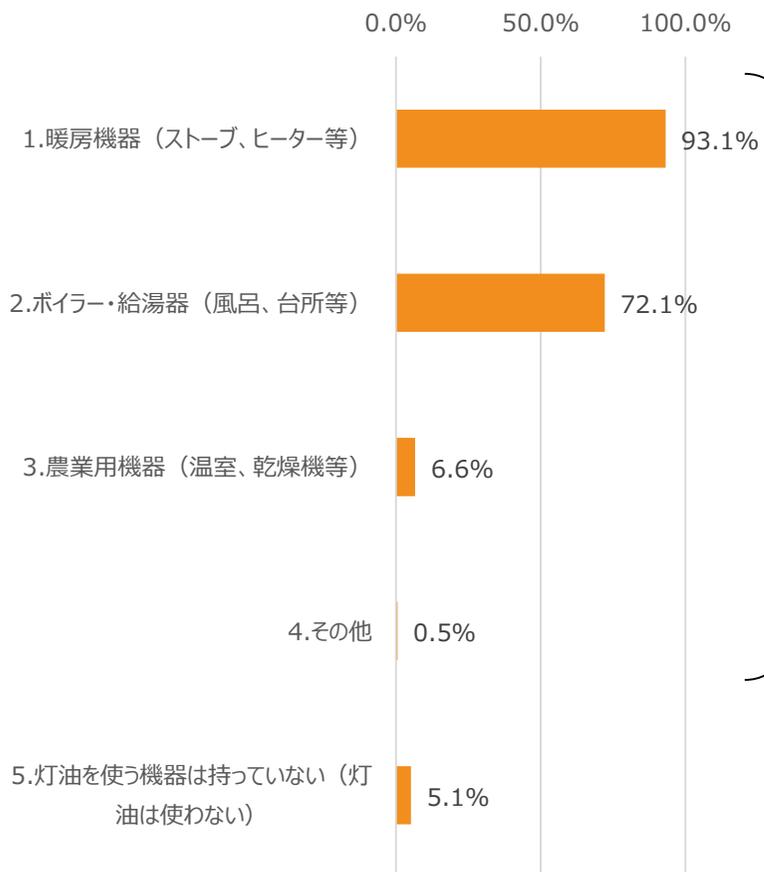
※人口・世帯数はR3.10.20時点、世帯数に桐寿苑入居者は含まない  
 ※年代別内訳は、年代別世帯人員数の回答結果を集計したもの  
 ※世帯数と調査票配布対象世帯数は一致しない

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○灯油の利用状況

- 回答世帯の95%が灯油を利用しており、そのうち92%がホームタンクを保有している。

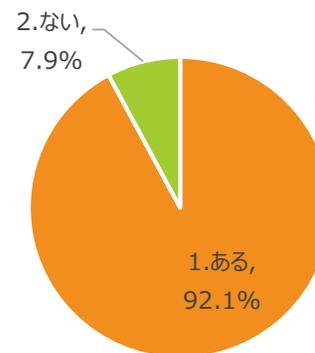
灯油機器の保有・利用の有無 (N=408, 複数回答可)



【灯油利用率】(全世界帯に占める、灯油機器を保有・利用する世帯の割合) 95%

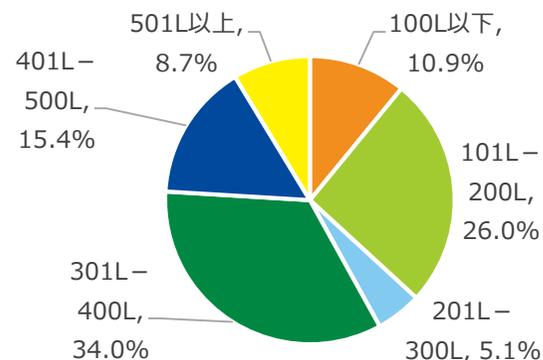
【灯油を利用している世帯】

灯油用タンク (ホームタンク) の有無 (N=382, 単回答)



【灯油を利用している世帯】

灯油用タンク (ホームタンク) の容量 (N=312, 単回答)



【ホームタンク平均容量】 343L

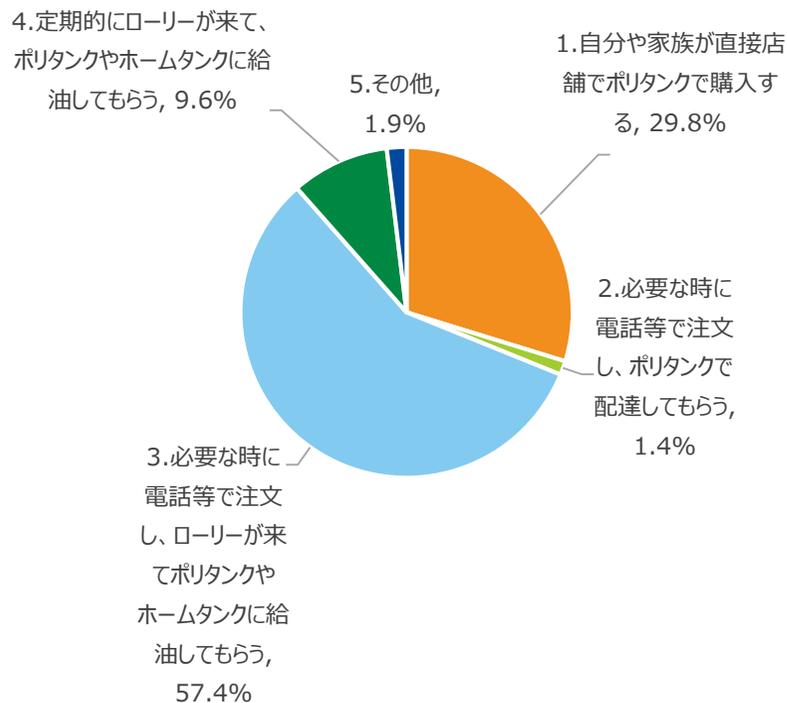
# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○灯油の購入状況

- 灯油利用世帯のうち約6割は、ローリーによる随時配達により購入している。
- 高齢者世帯では、配達購入の割合がやや高い。

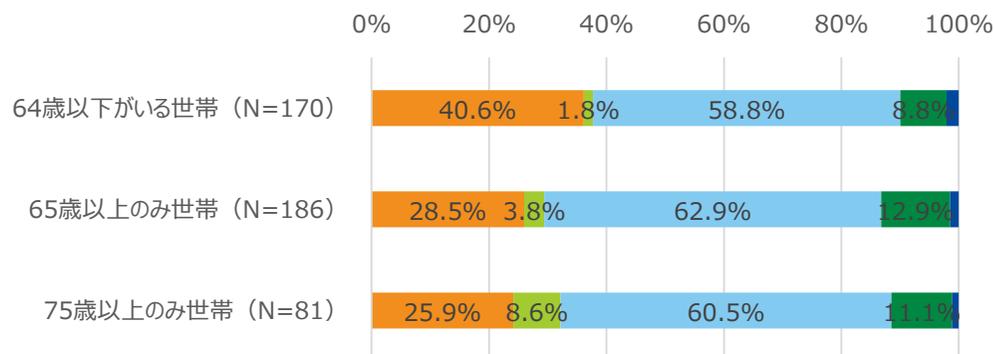
### 【灯油利用世帯】

灯油の購入方法 (N=366, 単回答)



### 【灯油利用世帯】

世帯構成別の灯油の購入方法



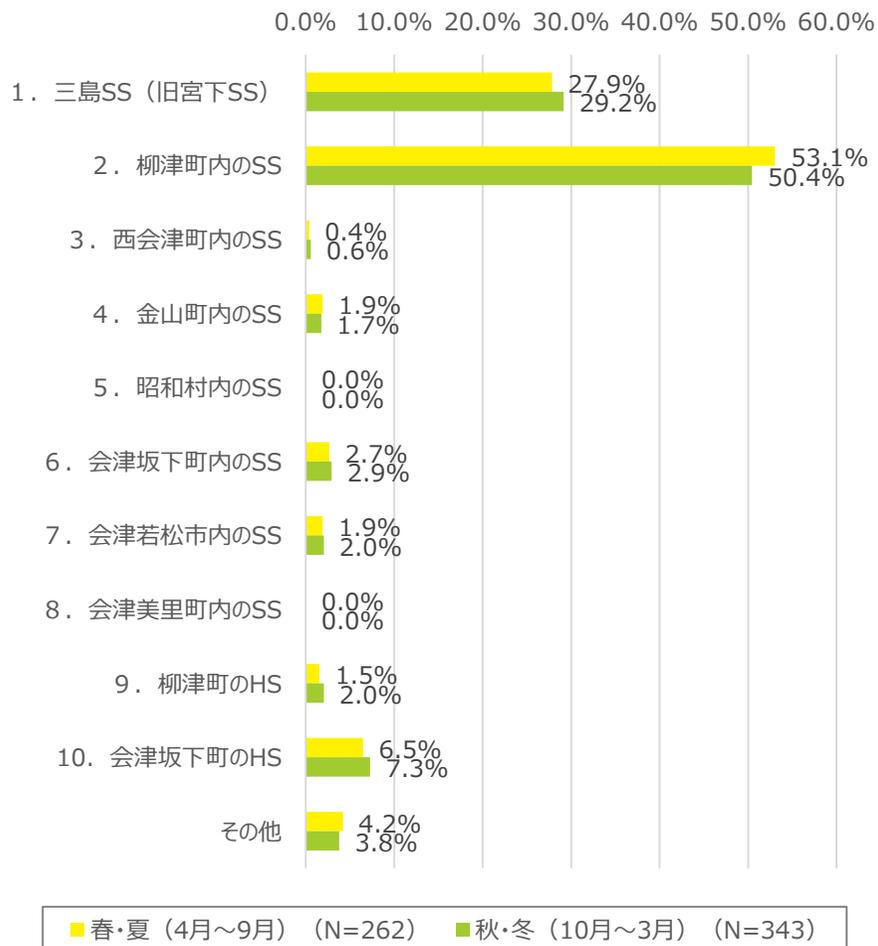
- 1.自分や家族が直接店舗でポリタンクで購入する
- 2.必要な時に電話等で注文し、ポリタンクで配達してもらう
- 3.必要な時に電話等で注文し、ローリーが来てポリタンクやホームタンクに給油してもらう
- 4.定期的にローリーが来て、ポリタンクやホームタンクに給油してもらう
- 5.その他

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

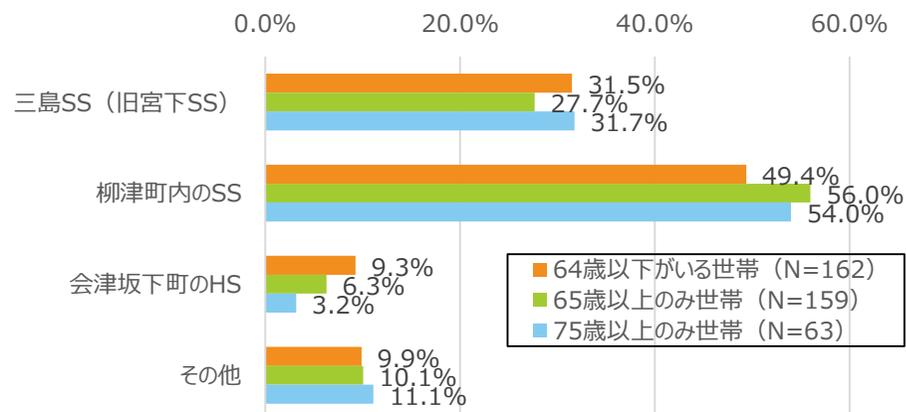
## ○灯油の購入状況

- 灯油の主な購入場所は、柳津町内のSSが約5割で最も多く、三島SSは3割弱となっている。
- 三島SSで購入している場合、約2割はポリタンクによる直接購入となっている。

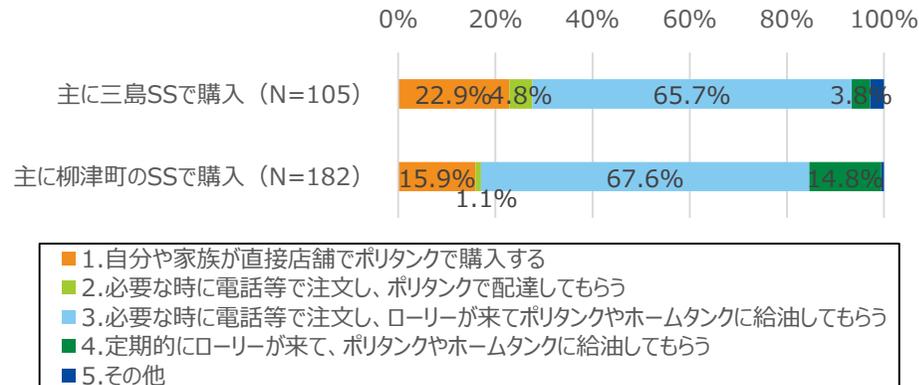
【灯油利用世帯】灯油の主な購入場所 (単回答)



【灯油利用世帯】  
＜クロス集計＞世帯構成別の灯油の主な購入場所 (単回答)



【灯油利用世帯】  
＜クロス集計＞灯油の主な購入場所と購入方法 (単回答)

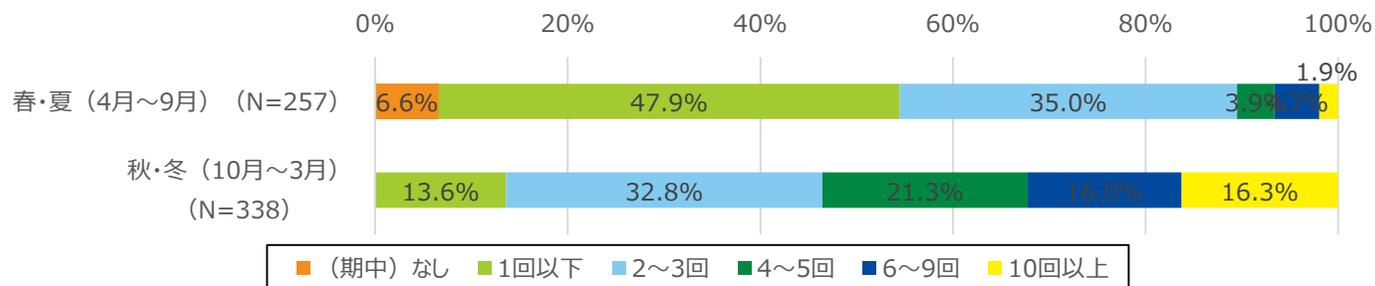


# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○灯油の購入状況

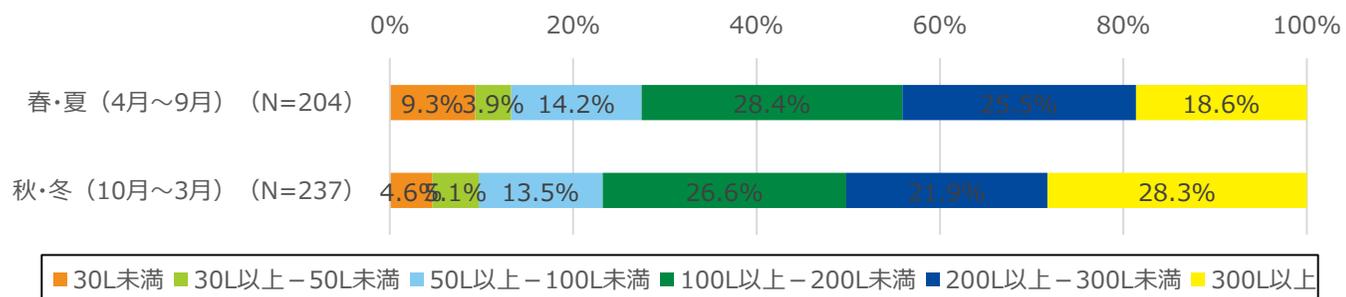
- 灯油の購入頻度は、春夏が2.3回、秋冬が5.9回となっている。一方、1回あたり購入量は、春夏が177L、秋冬が200Lで、時期による違いは小さい。
- 灯油利用世帯の平均購入量は、春夏が240L、秋冬が503Lで、年間743Lと推計される。

【灯油利用世帯】 灯油の購入頻度 (単回答) ※各期中 (6カ月間) での購入回数



【平均購入回数】  
 春・夏 (4月～9月) 2.3回  
 秋・冬 (10月～3月) 5.9回

【灯油利用世帯】 灯油の1回あたりの購入量



【1回あたり平均購入量】  
 春・夏 (4月～9月) 177L  
 秋・冬 (10月～3月) 200L

【期中平均購入量】  
 春・夏 (4月～9月) 240L  
 秋・冬 (10月～3月) 503L  
 年間 743L/年

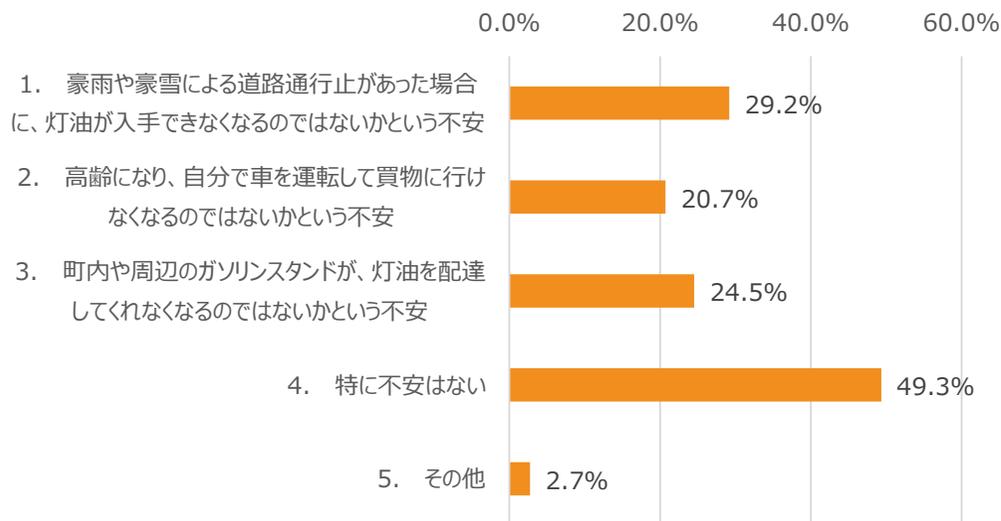
※参考：福島市の年間平均灯油消費量：383L (2020年家計調査)

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

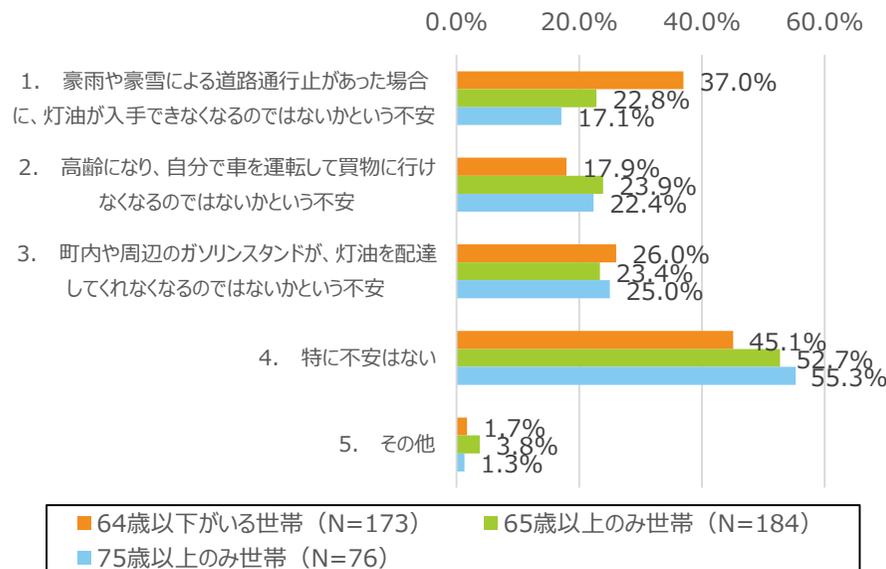
## ○今後の灯油の入手への不安

- 今後の灯油の入手については、約半数の世帯が「特に不安はない」としている。一方で、災害等での調達不安が29%、配達廃止による調達不安が25%、移動困難による調達不安が21%みられている。
- 世帯構成別に見ると、高齢世帯のほうが、「特に不安はない」の割合が高い。

【灯油利用世帯】 今後の灯油の入手についての不安 (N=367,複数回答可)



【灯油利用世帯】 <クロス集計> 世帯構成別の灯油入手不安



【灯油利用世帯】 <クロス集計> 地区別の灯油入手不安

	宮下・桑原	大登	川井	桧原	滝谷	大谷・浅岐・間方	西方	大石田	名入	早戸
1. 豪雨や豪雪による道路通行止があった場合に、灯油が入手できなくなるのではないかと不安	35%	18%	38%	24%	21%	27%	25%	39%	21%	38%
2. 高齢になり、自分で車を運転して買物に行けなくなるのではないかと不安	21%	12%	25%	28%	18%	20%	16%	19%	25%	31%
3. 町内や周辺のガソリンスタンドが、灯油を配達してくれなくなるのではないかと不安	27%	18%	31%	20%	14%	20%	25%	33%	21%	31%
4. 特に不安はない	44%	71%	38%	48%	54%	55%	52%	50%	54%	31%
5. その他	3%	0%	0%	4%	7%	0%	2%	6%	0%	6%
回答者数	98	17	16	25	28	44	61	36	24	16

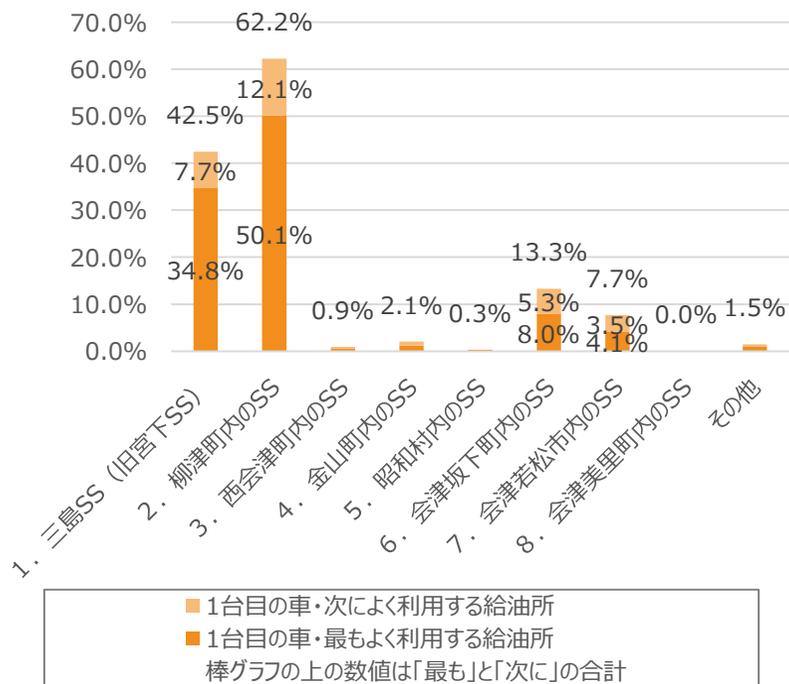
- ✓ 宮下・桑原には、荒屋敷、中平を含む
- ✓ 名入には、小山、高清水を含む
- ✓ 早戸には、滝原を含む

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

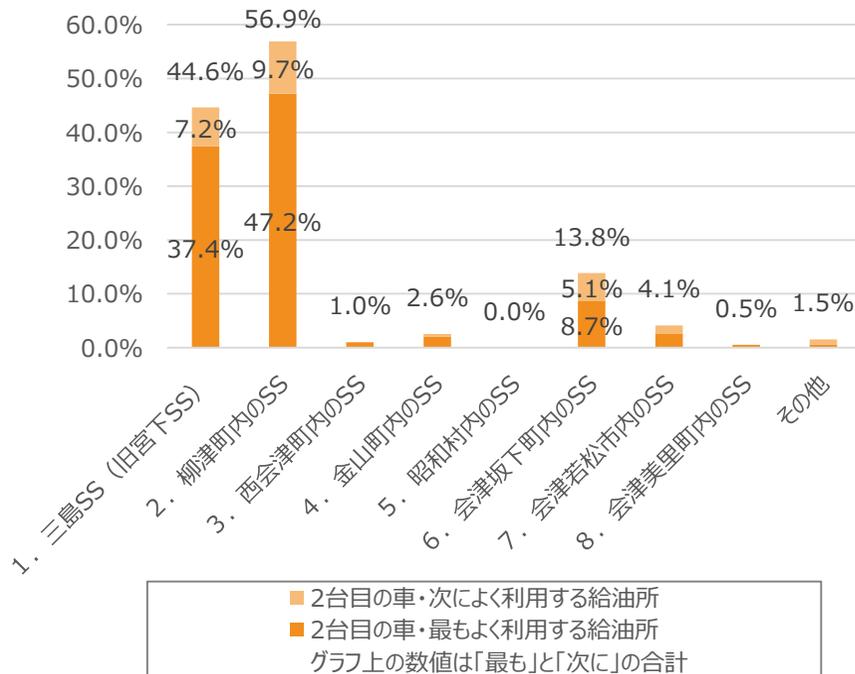
## ○自動車用燃料の給油状況

- 自動車用燃料の給油場所は、「最もよく利用」「次によく利用」を併せると、柳津町内のSSが約6割で最も多く、三島SSは約4割となっている。

自動車用の燃料の給油場所【1台目の車】  
(N=339,単回答)



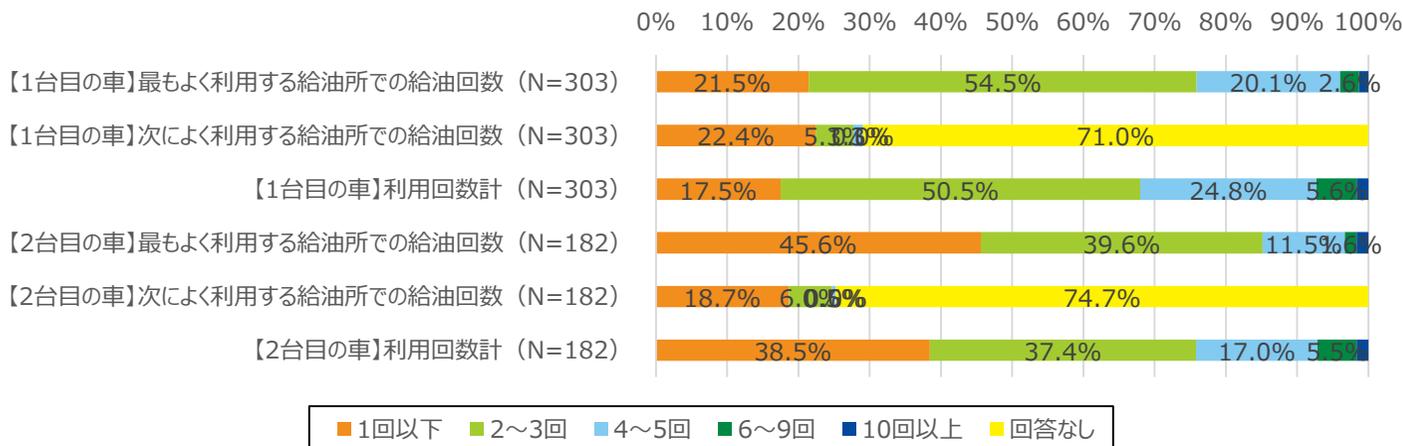
自動車用の燃料の給油場所【2台目の車】  
(N=195,単回答)



# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○自動車用燃料の給油状況

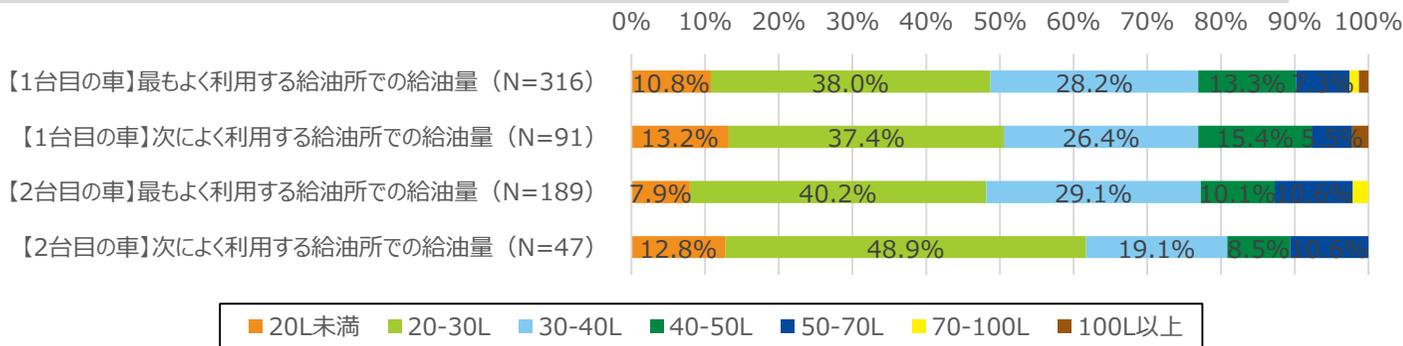
自動車の給油頻度 (単回答) ※ひと月あたりの給油回数



### 【平均給油回数】

<1台目の車>  
 最もよく利用する給油所 2.3回/月  
 次によく利用する給油所 1.7回/月  
 <2台目の車>  
 最もよく利用する給油所 2.1回/月  
 次によく利用する給油所 1.3回/月

自動車の1回あたりの給油量



### 【1回あたり平均給油量】

<1台目の車>  
 最もよく利用する給油所 30.3L/回  
 次によく利用する給油所 29.5L/回  
 <2台目の車>  
 最もよく利用する給油所 29.7L/回  
 次によく利用する給油所 26.3L/回

### 【ひと月あたり平均給油量】

<1台目の車> 89.0L/月  
 <2台目の車> 74.6L/月  
 <加重平均> 83.5L/月

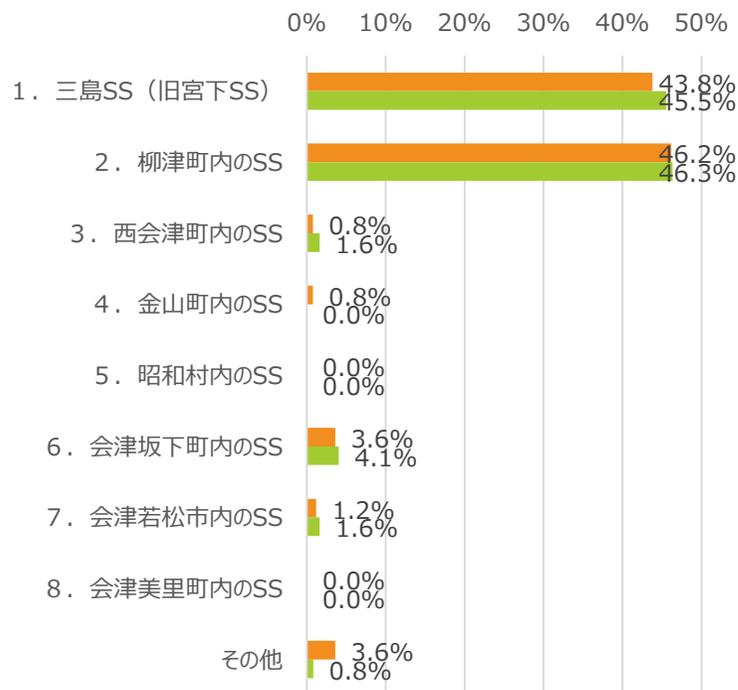
※参考：全国の1台あたり年間平均燃料消費量 (ガソリン・乗用車) : 663L (2020年自動車燃料消費統計)

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○自動車用以外の燃料の使用状況

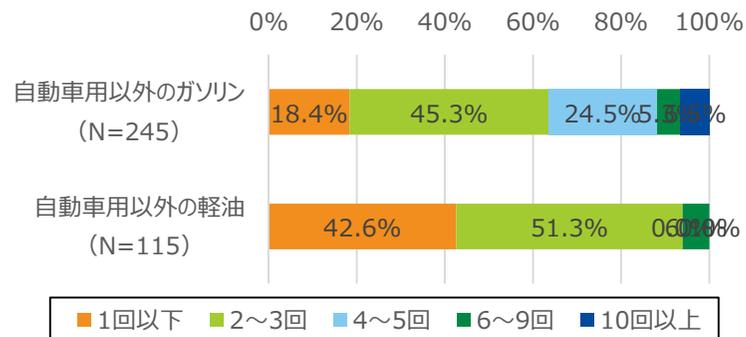
- 自動車用以外の燃料の給油場所は、柳津町内のSSと三島SSの利用がほぼ同じ割合となっている。

自動車用以外の燃料の給油場所



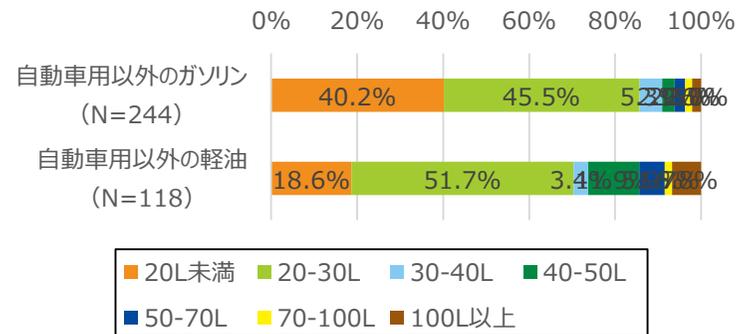
■ 自動車用以外のガソリン (N=249)  
■ 自動車用以外の軽油 (N=123)

自動車用以外の燃料の給油回数 (年間)



**【平均給油回数】**  
 ガソリン 4.4回/年  
 軽油 3.0回/年

自動車用以外の燃料の1回あたり給油量



**【1回あたり平均給油量】**  
 ガソリン 21.8L/回  
 軽油 38.9L/回

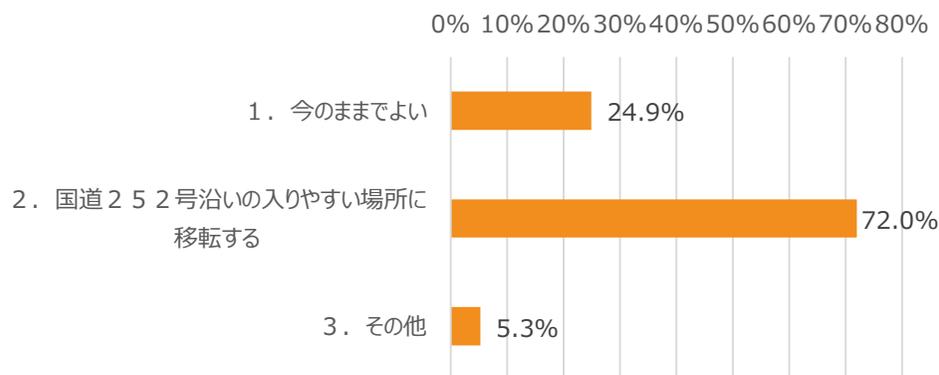
**【年間平均給油量】**  
 ガソリン 92.6L    軽油 94.2L

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

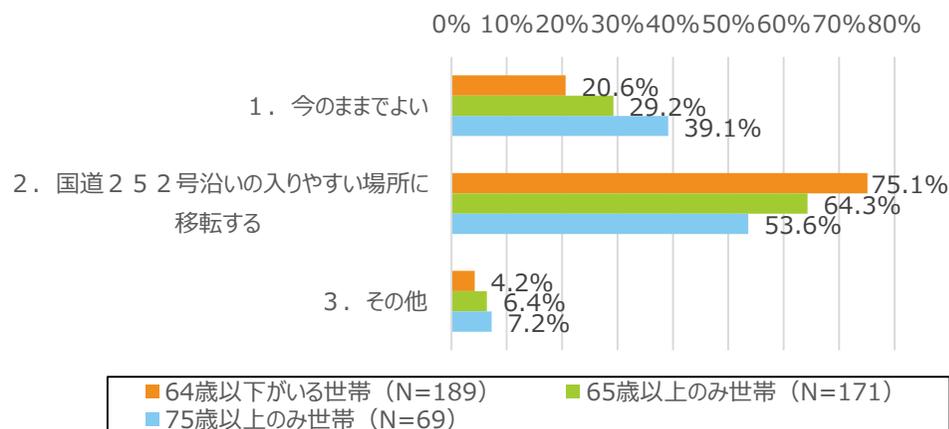
## ○今後、町内のSSがより利用されるようになるためのニーズ・意向【立地場所】

- SSの立地場所について、回答者の7割以上が「国道252号沿いの入りやすい場所に移転する」を選択している。
- 高齢者世帯は、「今のままでよい」の回答割合が高い。
- 地区別に見ると、いずれの地区も「国道252号沿いの入りやすい場所に移転する」の回答割合が最も高く、三島SSが立地している宮下・桑原地区や、現SSよりも西側の早戸地区においても、半数を超えている。

SSの立地場所の意向



<クロス集計> 世帯構成別のSSの立地場所の意向



国道沿いの具体的な場所として、「川井地区」「旧JASS跡地」「道の駅」といった回答が多く見られた。

<クロス集計> 地区別のSSの立地場所の意向

	宮下・桑原	大登	川井	桧原	滝谷	大谷・浅岐・間方	西方	大石田	名入	早戸
1. 今のままでよい	34%	7%	0%	8%	19%	29%	20%	28%	21%	41%
2. 国道252号沿いの入りやすい場所に移転する	65%	93%	95%	83%	67%	66%	71%	69%	75%	53%
3. その他	2%	0%	5%	8%	15%	5%	9%	3%	4%	6%
回答者数	113	15	19	24	27	38	56	36	24	17

- ✓ 宮下・桑原には、荒屋敷、中平を含む
- ✓ 名入には、小山、高清水を含む
- ✓ 早戸には、滝原を含む

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○今後、町内のSSがより利用されるようになるためのニーズ・意向【機能・サービス】

- SSでのサービスへのニーズについては、「ポイントカードや優待サービスを充実させる」が約4割、「営業時間を長くする、営業日を増やす」が約3割となっている。
- 高齢者世帯では「今のままでよい」の回答割合が高い。

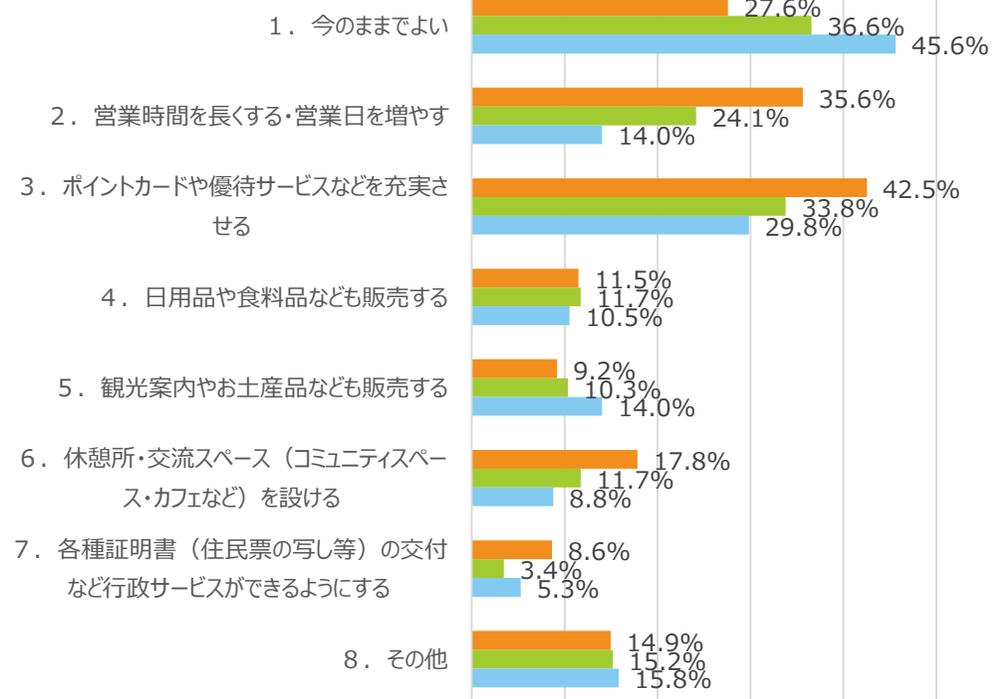
SSのサービスへのニーズ (N=330,複数回答可)

0.0% 20.0% 40.0% 60.0%



<クロス集計> 世帯構成別のSSのサービスへのニーズ

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%



具体的な回答として、「19時、20時まで営業」「休日も営業」「年中無休」「ミニコンビニ機能」「メンテナンス」「洗車」「クレジットカード利用」といった回答が見られた

■ 64歳以下がいる世帯 (N=174)
 ■ 65歳以上のみ世帯 (N=145)
 ■ 75歳以上のみ世帯 (N=57)

# (1) 町民の燃料使用状況とニーズ等 (町民アンケート調査)

## ○自由意見等

- 自由意見では、回答409件のうち89件で記載があり、以下のような意見が見られた。  
(括弧内は、同様の意見を含む回答数)

### <町内のSSの必要性に関する意見>

- ✓ 町にSSを残してほしい、再開されて助かった (17)
- ✓ SSの採算が不安、移転して採算がとれるのか (11)
- ✓ 町営のSSは必要ない (4)

### <サービスや機能に関する意見>

- ✓ 価格を安くしてほしい (サービス日実施、割引拡大等含む) (9)
- ✓ 価格や場所などの情報がないので利用しにくい (7)
- ✓ 災害対応や配達など高齢者に寄り添ったサービスの充実 (6)
- ✓ 休日営業、営業時間延長してほしい (4)
- ✓ タイヤ交換などができるようにしてほしい (3)
- ✓ クレジットカード、電子マネーが利用できるようにしてほしい (2)
- ✓ スタッフが少ない
- ✓ 施設が古い

### <立地に関する意見>

- ✓ 場所が分かりにくく不便、移転してほしい (13)

### <その他>

- ✓ 調査自体への意見、回答内容の補足等

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### ○事業者アンケート・ヒアリングの実施概要

#### <対象>

- 三島町内の主要事業所 アンケート：32事業所 ヒアリング：6事業所（対象事業所は別記）

※事業所規模、規模燃料利用が多いとみられる事業所、災害対応に関連性があるとみられる事業所等から抽出・選定

#### <実施期間・実施方法>

【アンケート】 令和3年9月22日～10月8日（郵送配布・回収又は直接配布・回収により実施）

【ヒアリング】 令和3年10月7日、14日、15日（調査員が訪問し直接聞き取り。一部オンライン実施）

#### <調査項目>

- 業種、事業概要
- 燃料の利用状況（主な用途、使用量、購入先、購入量、購入方法）
- 今後の燃料消費見通し
- 町内ガソリンスタンドに対するニーズ
- 燃料調達に関する不安・懸念・要望

※ヒアリングでは、上記事項（アンケート調査事項）の詳細確認のほか、事業内容に応じた燃料利用の現状、課題等を把握

#### <アンケート回収状況>

- 回収数23事業所／32事業所（回収率72%）

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

No.	事業所名	事業種目	所在地	アンケート	ヒアリング
1	会津桐タンス株式会社	家具、日用品等製造・販売	三島町大字名入字諏訪ノ上	○	
2	会津よつば農業協同組合三島総合支店	金融・保険業務	三島町大字宮下字田中	○	
3	(有) 山中・ファーム	町営バス運転業務及びその他医療・福祉関係の車両運転業務	三島町大字宮下字上ノ原	○	
4	一般社団法人 I O R I 倶楽部	建設に係るコンサルティング業	三島町大字早戸字湯ノ平	○	
5	特定非営利法人 西輝	地域密着型通所介護事業、介護タクシー事業	三島町大字西方字居平	○	
6	会津信用金庫宮下支店	銀行業務	三島町大字宮下字居平	○	
7	宮下地区建設業協同組合	道路等の維持補修業務、工事の共同受注事業	三島町大字川井字宮の上	○	
8	有限会社 グッドメディシ	医薬品販売	三島町大字宮下字水尻	○	
9	羽賀建設工業 株式会社	一般土木	三島町大字滝谷字居平	○	
10	日本郵便株式会社	配達・郵便・貯金・保険・物販	三島町大字宮下字宮下	○	
11	三島町観光協会	観光案内、イベントの企画・運営、町特産品の販売	三島町大字宮下字宮下	○	
12	東北電力株式会社	送変電事業	三島町大字桑原字下中平	○	○
13	有限会社 コバヤシカナモノ	建設資材販売	三島町大字宮下字宮下	○	
14	佐久間建設工業株式会社	総合建設工事請負、森林関係、農業関連、観光施設	三島町大字早戸字湯ノ平	○	○
15	滝谷建設工業株式会社	総合建設業（土木、建築、舗装、水道工事）	三島町大字宮下字宮下	○	
16	株式会社会津建販	土木建設資材販売、建機レンタル業	三島町大字大登字中原	○	
17	SAMPSON株式会社	・ラーメン店 ・居酒屋 ・食料品の販売	三島町大字宮下字居平	○	
18	早戸温泉つるの湯企業組合	・自炊による宿泊 ・軽食堂の営業	三島町大字早戸字湯ノ平	○	○
19	桐の里産業株式会社	農業、除雪、ガソリンスタンド	三島町大字桧原字桧原沢	○	
20	社会福祉法人みしま	特別養護老人ホームやデイサービスの経営等。高齢者生活福祉センター・多目的集会施設ひだまりの管理等。	三島町大字宮下字坂ノ下	○	○
21	宮下土木事務所	道路等維持管理業務	三島町大字宮下字水尻	○	○
22	県立宮下病院	病院事業	三島町大字宮下字水尻	○	○
23	会津坂下消防署三島出張所	消防	三島町大字宮下字居平	○	
		計		23	6

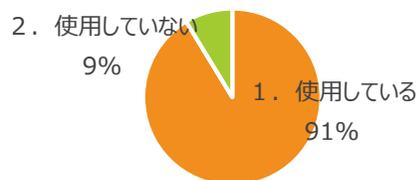
農業関係	1事業所（桐の里産業）
建設関係	3事業所（佐久間建設、滝谷建設、羽賀建設）
製造関係	1事業所（会津桐タンス）
医療・福祉関係	2事業所（みしま、西輝）
卸売・小売関係	3事業所（グッドメディシ、コバヤシカナモノ、SAMPSON）
宿泊関係	1事業所（つるの湯）
運輸・郵便関係	2事業所（山中ファーム、郵便局）
電力関係	1事業所（東北電力NT）
その他サービス関係	6事業所（農協、IORI倶楽部、信金、建設組合、観光協会、会津建販）
公務関係	3事業所（宮下土木、宮下病院、消防署）

公務を除く、回答事業所の従業者数計 336人  
 （H28経済センサスによる民営事業所従業者数 514人）  
 →回答カバー率 65%

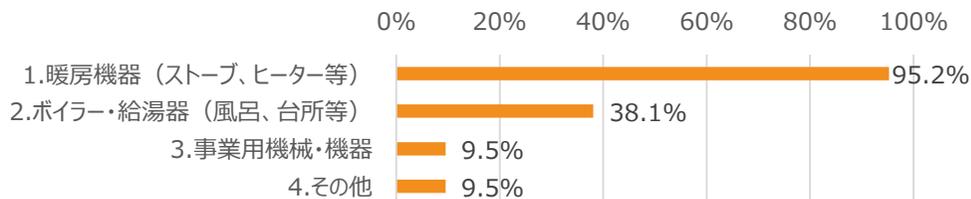
## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ (事業者アンケート・ヒアリング結果)

### ○灯油の使用状況

灯油使用の有無 (N=23,単回答)



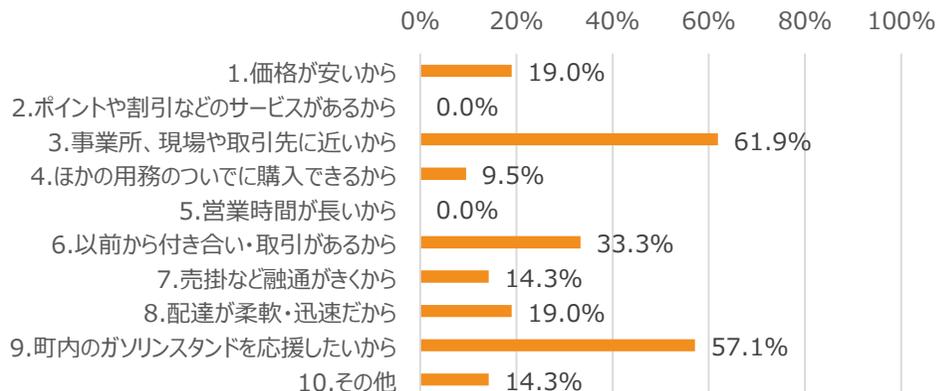
灯油の使用用途 (N=21,複数回答可)



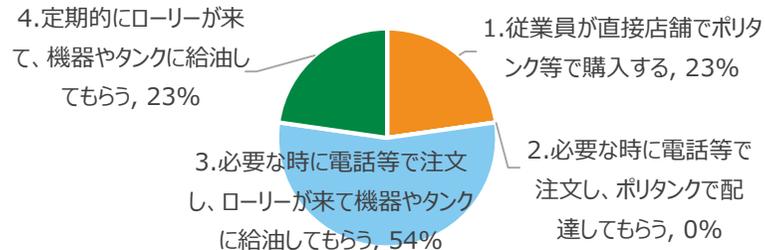
灯油の購入量と三島SS利用率 (N=21)

- 回答事業所の灯油使用量 合計 106,324L  
うち三島SSでの購入量 78,264L  
(三島SS利用率 74%)

現在購入している場所で購入する理由 (N=21,複数回答可)



灯油の購入方法 (N=21,単回答)



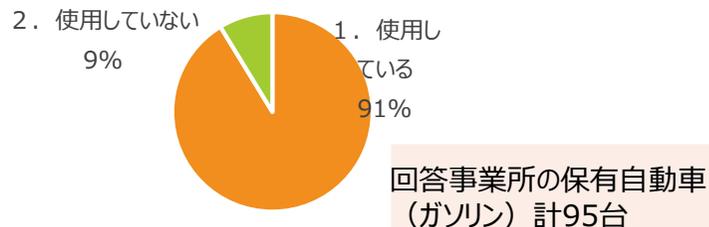
今後の灯油使用の見通し (N=21,単回答)



## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ (事業者アンケート・ヒアリング結果)

### ○ガソリンの使用状況

自動車用ガソリン使用の有無 (N=23,単回答)



自動車以外でのガソリン使用の有無 (N=23,単回答)



除雪車、除雪機、刈払機、チェーンソー、農業用機械、小型発電機 等

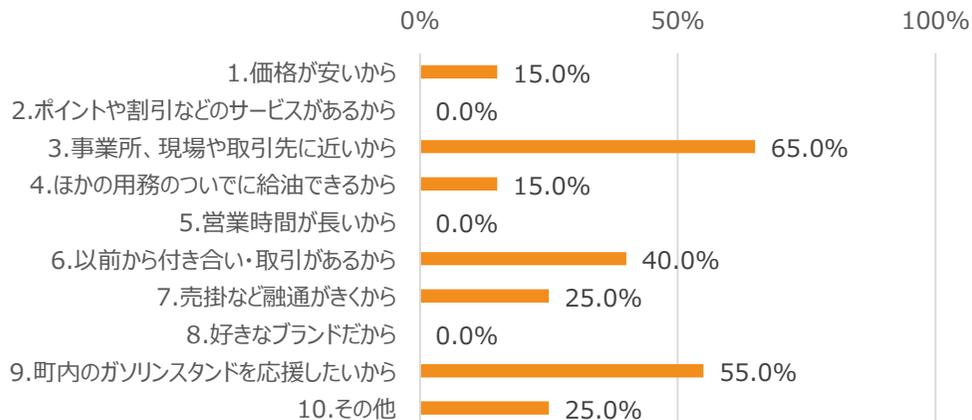
自動車用ガソリンの給油量と三島SS利用率 (N=21)

- 回答事業所のガソリン使用量 計121,132L  
うち三島SSでの購入量 34,259L  
(三島SS利用率 30%)

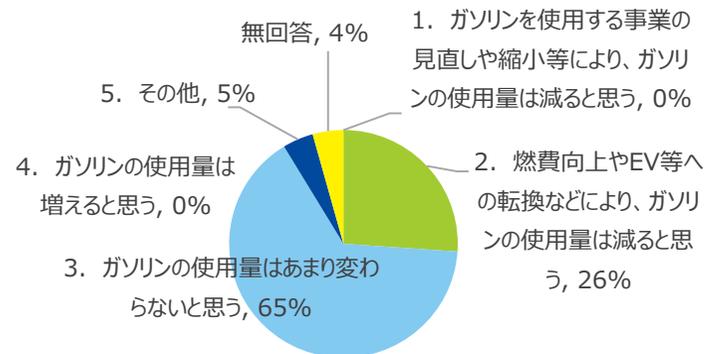
自動車以外のガソリンの給油量と三島SS利用率 (N=21)

- 回答事業所のガソリン使用量 計1,660L  
うち三島SSでの購入量 1,510L  
(三島SS利用率 91%)

現在利用しているSSで給油する理由 (N=21,複数回答可)



今後のガソリン使用の見通し (N=21,単回答)



## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ (事業者アンケート・ヒアリング結果)

### ○軽油の使用状況

#### 軽油使用の有無 (N=23,単回答)



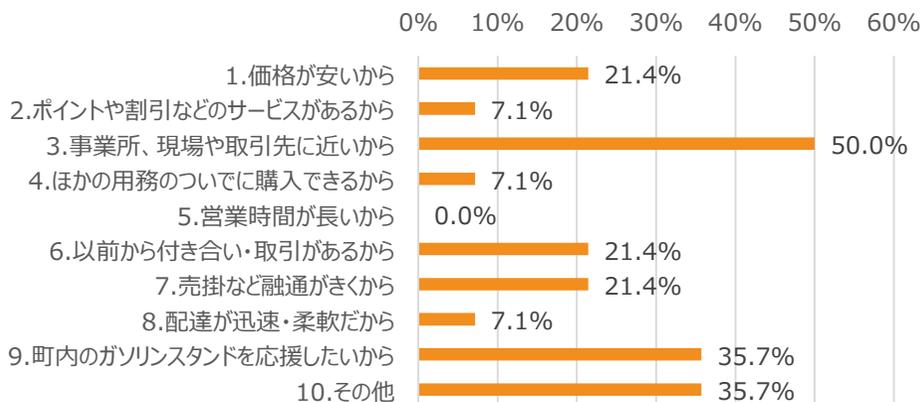
#### 自動車以外での軽油使用の有無 (N=23,単回答)

1事業所のみ (小型発電機)

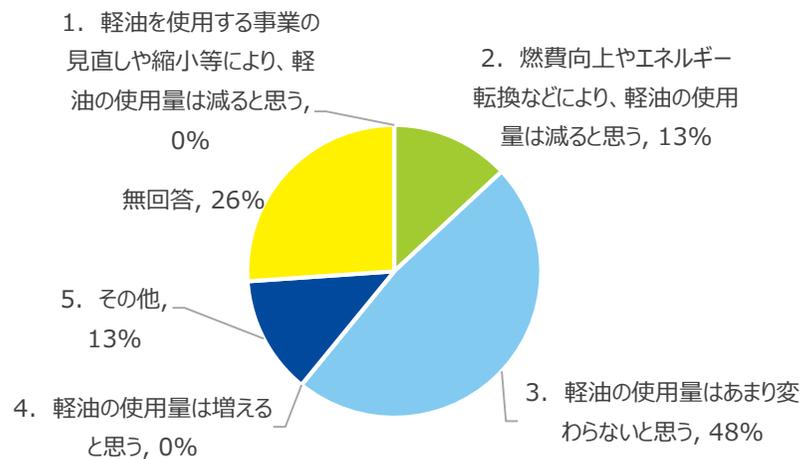
#### 軽油の給油量と三島SS利用率 (N=21)

- 回答事業所の軽油使用量 計437,651L
- うち三島SSでの購入量 123,245L (三島SS利用率 28%)

#### 利用するSSで給油する理由 (N=21,複数回答可)



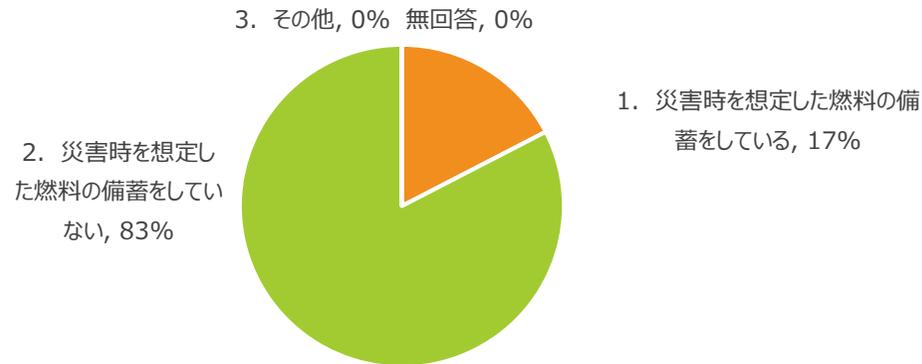
#### 今後の軽油使用の見通し (N=14,単回答)



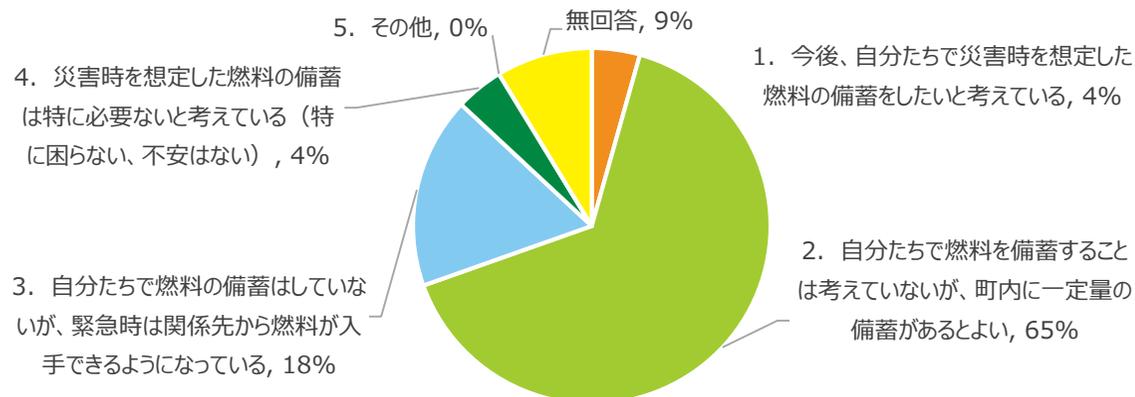
## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ (事業者アンケート・ヒアリング結果)

### ○災害用の燃料備蓄

災害時を想定した燃料備蓄の有無 (N=23,単回答)



災害時の燃料備蓄についての考え (N=23,単回答)



## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### 社会福祉法人みしま

#### 【事業所概要】

- ✓ 特養老人ホーム、デイサービスの経営、高齢者生活福祉センター、多目的集会施設ひだまりの管理等
- ✓ 老人ホーム入所者約60名、デイサービス等利用者約15名/日
- ✓ 従業員65名

#### 【燃料利用状況】

##### ○灯油

- ✓ 老人ホームはオール電化であるため、デイサービス、福祉センター等で年間24,500L程度使用。
- ✓ デイサービス施設、福祉センターは地下の4KLタンク、温泉施設はホームタンクに灯油をストック。
- ✓ そのほか、携行缶で80L程度を備蓄。極寒時、屋外行事時の暖房用としても利用

##### ○ガソリン

- ✓ 訪問介護用小型車、軽自動車及び軽トラの計8台で、年間2,000L程度を使用
- ✓ そのほか、携行缶で40L程度を備蓄。災害用として備蓄しつつ、除雪機、草刈り機等でも使用。

##### ○軽油

- ✓ デイサービス送迎用のワゴン車4台、除雪車1台、除雪機2台で、年間3,680L程度使用
- ✓ そのほか、携行缶で80L程度を備蓄。災害用として備蓄しつつ、非常用発電機（55Lで24h稼働）の点検等でも使用。
- ✓ 夏季用軽油は毎週の自動点検稼働で使い切り、冬季用軽油は最大限ストック。季節に応じ置き場所を分散して備蓄している。

#### 【SSや燃料供給体制等への意見等】

- ✓ （現在は全油種とも三島SSで購入・給油しているが、）宮下SS閉鎖後は給油負担が大きかった。
- ✓ SSを新しくするのであれば、利便性の高い立地、複合機能などによる収益性確保が必要ではないか。
- ✓ 高齢者世帯では、ホームタンクへの配達まではよいが、それを家庭内の暖房器具に移し替えるのが困難なケースもあると聞く。

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### 佐久間建設工業

#### 【事業所概要】

- ✓ 建設業等
- ✓ 従業員数71名

#### 【燃料利用状況】

##### ○灯油

- ✓ 本社事務所や事業所の暖房用等として、14,604L程度使用。本社は、300Lホームタンクを保有。

##### ○ガソリン

- ✓ 社用車や軽トラなどで年間35,000L程度使用。そのほか小型発電機、草刈り機等で1,000L程度使用

##### ○軽油

- ✓ 建設機械や除雪車で年間185,000L程度使用

#### 【SSや燃料供給体制等への意見等】

- ✓ 燃料は三島SSのほか、現場に近いSSを利用
- ✓ 町内の除雪は三島町建設協会に請負い、同社に割り当てられる。同社除雪車は5台で、多い時は1日1台100L程度軽油を使用する。
- ✓ 災害時には、優先除雪区間だけでも除雪車10台分程度を確保する必要がある。
- ✓ 災害による通行止め等の道路復旧（啓かい）には、最大3日程度、バックホー等の重機5台、ダンプ1台が稼働できるとよい。これらそれぞれ1台あたり使用量を100L/台とすると、道路啓かいには600L程度の備蓄があると良い。
- ✓ 災害時は、通行止めになった場合の各路線、地区の迂回路や供給路のシミュレーション、役場とSSとの協定なども必要ではないか。コンビニや宅配等の流通の仕組みや拠点は参考になる。
- ✓ 建設業としては、今後新規インフラ整備は減るかもしれないが、維持管理などが増加し、燃料需要はそれほど変わらないと考える。

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### 早戸温泉つるの湯

#### 【事業所概要】

- ✓ 自炊宿泊所、軽食堂
- ✓ 従業員 21名

#### 【燃料使用状況】

##### ○灯油

- ✓ 各部屋の暖房のほか、浴場のシャワー等で年間23,000L程度使用（温泉は源泉から加温なし）。
- ✓ 1KL弱のオイルタンクを2台保有。冬季はほぼ毎週配達がある。夏季は3週間に1回、冬季は毎週、定期配達により給油。

##### ○ガソリン

- ✓ 利用客の送迎用の乗用車1台で、90L程度使用

#### 【SSや燃料供給体制への意見等】

- ✓ 三島SSを利用
- ✓ 災害時は、営業面の不安というよりも、周辺道路の除雪（車の燃料が確保できるか）への不安のほうが大きい。

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### 福島県立宮下病院

#### 【事業所概要】

- ✓ 病院事業
- ✓ 従業員 65名

#### ✓ 【燃料使用状況】

##### ○灯油

- ✓ 最近の購入、使用実績はないが、ポリタンクでの備蓄（約70L）あり。極寒時の暖房用と思われる。劣化している可能性あり。

##### ○ガソリン

- ✓ 送迎バス（ワゴン車）、公用車（小型車）、看護車（小型車）計3台で年間4400L 程度使用。
- ✓ ほとんど送迎バスへの給油で、公用車は月1回程度の給油、看護車はほとんど稼働がない。
- ✓ ガソリンは、三島SSの利用が多いが、他に金山町のSS、（公用車は訪問先の途中の）坂下のSSも利用。

##### ○軽油

- ✓ 除雪機用及び非常用電源用として使用。465Lのホームタンク保有。
- ✓ 非常用電源の燃費は9.6L/h （約48時間分）

#### ✓ 【SSや燃料供給体制への意見等】

- ✓ ガソリン、軽油のほか、ボイラー用でA重油を利用（入札による単価契約）
- ✓ 業種上、職員の深夜早朝の通勤もあり、もう少し遅い時間まで営業していると良い。

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### 東北電力ネットワーク（株） 宮下サービスセンター

#### 【事業所概要】

- ✓ 三島、柳津、金山、昭和エリアの送変電事業（電線、電柱等の送配電設備の保守・管理）
- ✓ 従業員5名

#### 【燃料使用状況】

- 灯油
- ✓ 使用無し
  
- ガソリン
- ✓ 社用車3台、年間3,700L程度使用
- ✓ 給油は柳津、金山の本社契約（売掛）SS
- ✓ 以前は宮下SSとの契約があったが閉鎖により終了
  
- 軽油
- ✓ 2t車ベースの高所作業車で年間868L使用
- ✓ 給油SSはガソリンと同様
  
- ✓ 【SSや燃料供給体制への意見等】
- ✓ 送配電のトラブルにより電源車（若松に常備）を稼働させる際、電源車の燃料がなくなった場合はローリーやドラム缶で給油する。最近では19年10月の豪雨時に2日間稼働。
- ✓ 電力は災害時も復旧が早い。三島町は集落が比較的まとまっており、保守管理はしやすい。

## (2) 主要事業者の燃料需要とニーズ（事業者アンケート・ヒアリング結果）

### 福島県宮下土木事務所

#### 【事業所概要】

- ✓ 管内の道路維持管理業務
- ✓ 従業員14名

#### 【燃料使用状況】

##### ○灯油

- ✓ 10月～3月のみ、事務所内の暖房機器用として、年間3,400L程度使用

##### ○ガソリン

- ✓ 公用車3台、道路パトロール車2台、計5台で、年間9,300L程度使用

##### ○軽油

- ✓ 除雪車31台で年間2,000L程度を使用。県土木による給油は最初のみで、その後は委託先（貸出先）で給油する。

#### 【SSや燃料供給体制への意見等】

- ✓ R2までは町外SSから購入（契約）していたが、R3からは三島SSと契約
- ✓ 近くにSSがあることは重要。災害時は、調査・パトロール用の車の燃料は最低限確保する必要がある。
- ✓ 除雪車の給油は、SSで各車庫に給油に回れると良い

### (3) 地域の燃料需要及びニーズのまとめ

#### ○地域の燃料需要及び町内調達状況

- ✓ 灯油、ガソリン、軽油ともに、町民の生活を支える重要なエネルギーであり、他地域と比べて世帯あたりの消費量も多い。
- ✓ 一方、町内調達率（三島SSで購入・給油する割合）は3～4割程度であり、町外調達が半数を超えている。
- ✓ 町民の灯油、ガソリンについては、三島SSに入りにくい、価格がわからない等の理由により、通勤や買物のついでの給油、価格・サービス等の優位性等の理由で町外SSを利用している人が多いとみられるほか、旧宮下SSの閉鎖を機に、購入・給油先を町外SSに切り替えたケースもあるとみられる。
- ✓ 事業者のガソリン、軽油は、現場近くでの給油、本社契約SSでの給油等を理由として、町外SS利用が多くなっている。
- ✓ 役場、宮下土木、宮下病院等の主要施設や町内建設事業者は、三島SSの大口顧客となっており、（町内からの一時的なSS閉鎖を経験したことで）町内SSの必要性を強く認識し、再開後改めて三島SSを利用している事業所も見られる。

#### 今後に向けた示唆

- 現状、町民利用率は高いとは言えないが、情報発信、サービス改善等により、利用率が高まる余地はある
- 事業所においても、売掛・法人契約等の営業活動により、利用率を高められる可能性がある。

#### ○地域の燃料供給体制への意見・ニーズ

- ✓ 半数程度の世帯が、災害等による通行止等による灯油調達の不安を持つが、高齢者世帯ほど不安と回答する割合は低い
- ✓ SSの立地場所について、回答者の7割以上が「国道252号沿いの入りやすい場所に移転する」を選択
- ✓ 定休日、営業時間の見直し、価格の割引を求める声も多い
- ✓ 事業者からは、災害時の道路復旧、除雪等を円滑に行うための燃料備蓄等の災害対応についての言及も得られた

#### 今後に向けた示唆

- 災害時の燃料供給への不安、町内SSの必要性及び利便性向上へのニーズが一定程度見られており、これら災害対応、利便性向上を前提とした町内SS維持への期待は高い
- 特に災害時においては、道路復旧、除雪等の一次対応における燃料供給体制の確保が重要

## 4. 三島町における燃料供給機能の確保方策（SS過疎地対策計画）

---

## (1) 三島町における燃料供給体制確保における基本的考え方

### 地域の実情を考慮しつつ、 町民生活の安全・安心を守り、将来的に持続可能な 燃料供給体制を確保する

#### ●地域の実情を十分に考慮する

- ✓ 地理的条件（地形、気候、道路網）
- ✓ 人口や施設の立地・集積状況
- ✓ 地域の産業特性 等

#### ●町民生活の安全・安心を守る

- ✓ 災害への対応（異常気象等の災害リスクへの対応、災害時の生命維持、主要施設へのアクセス）
- ✓ 町民の日ごろの燃料需要への対応

#### ●将来的に持続可能なものとする

- ✓ 将来の石油製品需要見通し
- ✓ 地域再エネ導入・ゼロカーボン社会
- ✓ 地域づくりと連携した複合的 S S 経営の展開



## (2) 三島町における燃料供給体制確保の基本方針

### 【町内における燃料供給拠点の必要性】……引き続き、町内に燃料供給拠点（SS）を維持・確保

- 灯油、ガソリン、軽油といった燃料は、町民の生活や産業において当面必要不可欠なエネルギー源であるが、当町は、その地理的特性から、災害時等には町外からの燃料供給網が寸断されるリスクも存在することから、安定・安全を守るエネルギー拠点として、引き続き、町内に燃料供給拠点（SS）を維持・確保する。

#### <背景・根拠>

- ✓ 町内の主要産業である建設業、医療・福祉業では当面燃料が主要なエネルギーとなっている
- ✓ 全世帯の95%が、灯油機器（暖房や給湯など）を使用しているほか、自動車は町民の主要な交通手段となっている
- ✓ 過去には、町境区域間等において豪雨豪雪等による全面通行止めも発生しており、町外からの燃料供給が寸断されるリスクがある

### 【SSの維持・確保にあたり求められる条件】……災害対応、自立的・持続的な運営に向けた利用促進、ローコスト化

- SSには、まず災害対応上の観点から、主要公的機関などへの燃料供給が確実に実施できる機能・役割を有することが求められる。加えて、今後、人口減少や社会的な脱炭素化、燃費向上の進展等によって燃料需要減少が想定される中でも、SSが自立的・持続的に運営できるよう、地域の防災・エネルギー拠点として、多機能化や利便性向上等による利用促進及び運営のローコスト化による経営効率化に取り組んでいくことが求められる。

#### <背景・根拠>

- ✓ 災害時の燃料供給を確保すべき主要機関（災害対策本部、道路復旧、除雪、救護・医療・福祉、避難先等）として、三島町役場、町防災倉庫・除雪車基地、学校、宮下土木事務所、警察署駐在所、消防署出張所、宮下病院、社会福祉法人みしま、建設事業者等が想定され、SSからこれらへの燃料供給を適切に確保することが必要である。
- ✓ 国の石油製品需要見通しと、三島町の将来人口推計を踏まると、2030年にはガソリンで2020年比▲36%、軽油で同▲4%、灯油で同▲35%の需要減少が想定され、これを踏まえたローコスト化や経営効率化が必要である。

### 【SSの立地場所】……川井地区周辺の国道252号線沿いに新設・移転

- 現在、町内には宮下地区にSSが立地しているが、施設の老朽化が進んでいるとともに、利用者からは、SSにアクセスしにくい、敷地が狭い等の課題もみられている。このため、SSの維持・確保にあたっては、宮下地区の主要公的機関への災害時等における燃料供給のアクセス性を確保しつつ、町民ニーズも踏まえた、多機能化や利便性向上等による利用促進が図りやすい場所として、川井地区周辺の国道252号線沿いを念頭に、SSの新設・移転を行う。

#### <背景・根拠>

- ✓ 現在の三島SSはタンク腐食防止措置はとられているものの、施設開設から50年以上が経過し、全体的な老朽化が進んでいる。また、宮下地区市街地内であるものの、袋小路の細街路沿いにあることや敷地が狭いことから、利便性向上には限界がある。
- ✓ 町民アンケートでは、「国道沿いへの移転」について全体で7割以上の世帯が意向を示している。
- ✓ 通行規制区間や沿道の地形、災害時の主要施設への燃料供給アクセス性等を考慮すると、川井地区周辺（町民運動場～道の駅）が候補となる。

### (3) 燃料供給拠点 (SS) の立地場所

✓ SSの新設・移転先候補地として、通行規制区間に含まれず、かつ道路から安全にアクセス可能で、一定の敷地規模が確保可能な場所として、以下の3箇所が想定される。

	【災害対応】 主要施設への燃料供給	【利用利便性】 国道からの入りやすさ、広さ	【利用利便性】 連携、町外需要掘り起こし	【コスト】 土地取得、造成等	総合評価
①町民運動場周辺 (新たな宮下病院移転候補地周辺)	○ ・ 主要施設との間に通行規制、通行止めリスクがある区間を含まず、現状と同様の燃料供給が可能	▲ ・ 道路と高低差有 ・ または大規模造成必要	○ ・ 病院候補地	▲ ・ 造成が必要 ・ 宮下病院整備との調整が必要	▲ ・ 市街地に近く、病院との機能連携可能だが病院整備計画が未定であり、不確定要素が多い ・ 国道からのアクセスが悪い
②JASS跡地周辺	○ ・ 主要施設との間に通行規制、通行止めリスクがある区間を含まず、現状と同様の燃料供給が可能	○ ・ 見通しが良く、広い敷地が確保可能	○ ・ 近隣に民間飲食店あり	○※ ほぼ更地であり、造成等は不要だが、民地であることから、土地の取得等や周辺民家との防火壁等対応が必要	○ ・ 地形、位置は良好だが、土地の取得等が必要周辺施設との連携は限定的だが出入りはしやすい
③道の駅周辺	○ ・ 主要施設との間に通行規制、通行止めリスクがある区間を含まず、現状と同様の燃料供給が可能	○ ・ 見通しが良く、広い敷地が確保可能	◎ ・ 近隣に町外利用が多い道の駅（休憩、観光案内、物販）あり	○※ ・ ほぼ町有地であり、 ・ 周辺に民家が無く防火壁等最小限で可能だが、今後の土地調査によっては、地盤改良等が必要となる可能性がある	◎ ・ やや市街地から離れるが、道の駅と一体的な機能連携が可能 ・ ほぼ町有地であり、JASS跡地周辺と比較してコストが低い

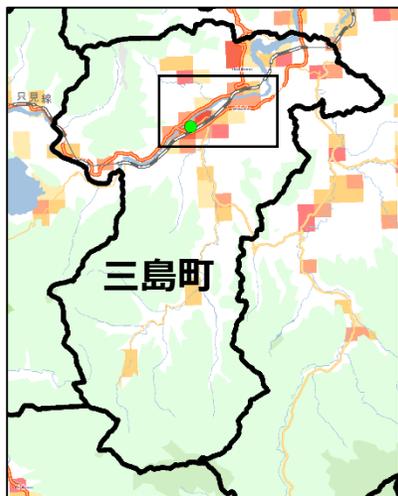
※コストについては、今後の土地調査等によって大きく変動する可能性がある  
※いずれの候補地も、土砂災害、浸水等に係る危険区域、警戒区域等の指定はない

**道の駅周辺（隣接地）を、SSの新設・移転先の第一候補地とする。**

※今後、土地の詳細調査などにより、安全性、整備コストなどを考慮したうえで判断する。

### (3) 燃料供給拠点 (SS) の立地場所

【参考】新設・移転候補地と災害時の燃料供給先となる主要施設等の位置



※会津坂下警察署 三島駐在所

※会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部 会津坂下消防署三島出張所

### (3) 燃料供給拠点 (SS) の立地場所

#### 【参考】町内の災害規制等と断層 (再掲)

三島町及び周辺の異常気象時通行規制区間および道路通行規制基準

	路線名	規制区間	規制区 間延長	規制基準	規制 内容	危険 内容
①	国道252号	三島町早戸～三島町名入字湯ノ上下居平	5.2km	連続雨量 120mm	通行止	落石・岩石、雪崩
②	国道400号	三島町名入字高清水下居平～三島町名入字赤谷	2km	連続雨量 120mm	通行止	落石
③	国道400号	柳津町飯谷字柏木平	1.6km	連続雨量 120mm	通行止	落石



2010年以降の主な通行規制発生状況 (全面通行止12時間以上、国道のみ)

	路線名	規制区間	規制期間	規制区 間延長	規制理由
①	国道252号	金山町川口～三島町早戸	2011年7月28日16:00～2011年7月29日12:00	10.0km	切土法面崩落
②	国道252号	柳津町飯谷地内	2011年7月30日14:00～2011年8月11日15:00	3.7km (う回路あり)	道路崩落
③	国道400号	三島町名入地内	2010年12月26日7:00～12月28日10:30	2.5km	豪雪による倒木
④	国道400号	柳津町飯谷地内	2015年9月10日9:00～9月11日9:00	2.3km	雨量超過

出典：(道路災害規制) 三島町資料、宮下土木事務所資料をもとに作成  
(断層) 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター「宮下地域の地質」をもとに作成

### (3) 燃料供給拠点 (SS) の立地場所

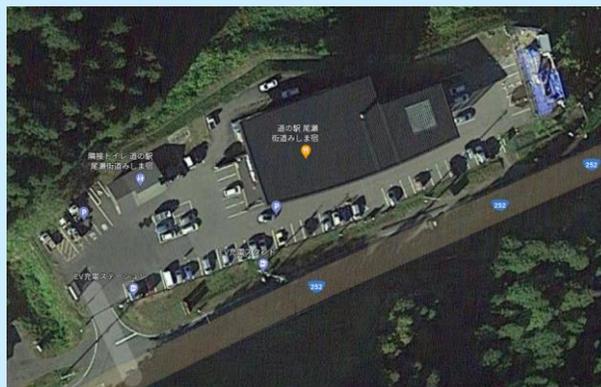
#### 【参考】道の駅尾瀬街道みしま宿の概要

##### 【施設概要】

- 営業時間：物販8：00～18：00  
(冬期間8：00～16：00)  
食堂10：00～16：00
- 定休日：1月1日～1月3日
- 駐車場：大型：4台 普通車：32（身障者用2）台
- その他：EV充電ステーション設置

##### 【施設及び運営の概況（駅長ヒアリングより）】

- 2002年に、町の情報物産館として営業開始
- (有)マルシェみしまが指定管理者として管理・運営
- 2018年に道の駅登録（トイレ等追加）
- 物販は、土産物のほか、ミニコンビニ（Yショップ）あり
- 施設の2階は会津桐タンスの展示場となっており、土日は同社員も常駐する（スペース貸し）
- 従業員はパート含め7名（社員5名）
- 全体として観光客や通過交通利用が多く、利用者の多く（8-9割）は町外者とみられる
- ピークは昼時で、平日より土日利用が多い
- 売上はコロナ前で年間1億円程度、利用者はコロナ前まで増加傾向で、売上の約5割が物販とみられる
- 只見川橋梁のビューポイントが近くにあり、紅葉シーズン等は駐車場が満車になることもある
- 建物内容に観光案内、休憩などのスペースはなく、屋外の机・椅子で休憩利用する人も多い。
- 利用者から、近くのガソリンスタンドや、子どもが遊べるところについて聞かれることも多い
- EV充電の利用は平日は1台程度



上空から (Google earth)



外観：屋外に休憩用の椅子・机が並ぶ



駐車場：一角にEV充電ステーションが設置されている



1階：農産品陳列スペース



1階：土産品とミニコンビニ



1階：食堂（写真は営業時間外）と主なメニュー



2階：会津桐タンスの展示場

## (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

### ○ 将来販売量の考え方

- 三島SSの将来販売量は、現在のSSの販売量をベースとした将来見通しに加えて、新設・移転による町民の利便性向上、国道沿いへの移転による町外需要の増加等を考慮して設定する。

#### 【将来見通しの考え方 (推計方法)】

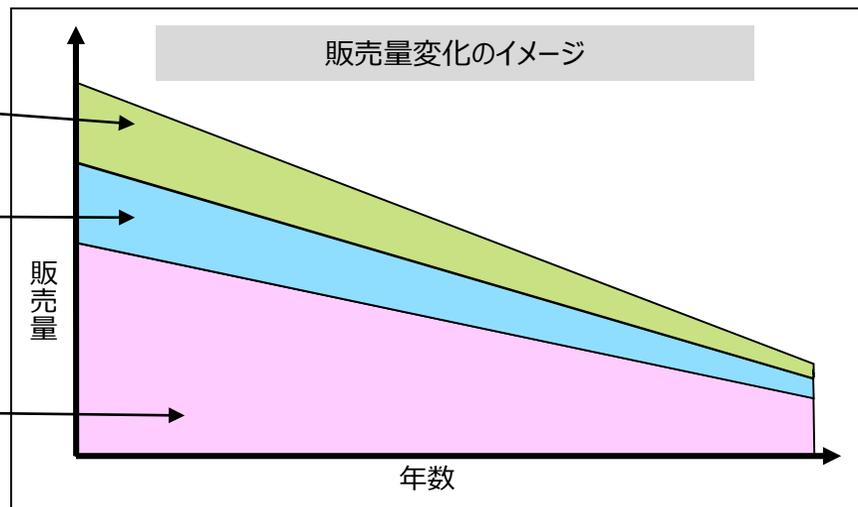
② 新設・移転によって新たに獲得できる可能性がある販売量 (ガソリンのみ)

②-2 町外需要の取り込みによる販売量増加

②-1 町民の利用利便性向上による販売量増加

#### ① 現状の販売量をベースとした将来販売量

・現在の三島SS販売量に、国内の石油製品見通しや三島町の人口減少率等を考慮して推計



・具体的には、以下の考え方により推計する。

#### ① 現状の販売量をベースとした将来販売量の推計

- 現在の三島SS販売量に、経済産業省「2021年～2025年度の石油製品需要見通し」及び三島町の将来人口推計を考慮した三島町の将来燃料需要増減率を乗じて推計 (社会的なエネルギー転換、燃費向上、マクロ経済見通し等による全国見通及び三島町の将来人口増減を考慮した将来販売量)

#### ②-1 町民の利用利便性向上による販売量増加分の推計 (ガソリンのみ)

- 町民アンケートにおいて「現在、よく利用するSSが三島SS以外」で、三島SSが良く利用されるための立地として「国道沿いへの移転」と回答した人の半数が、三島SSを利用すると想定して推計

#### ②-2 町外需要の取り込みによる販売量増加分の推計 (ガソリンのみ)

- 国道252号の通過交通のうち、隣接SS (柳津町のSSまたは金山町のSS) と三島SSとの間で、給油ニーズが生じる乗用車が、三島SSを利用すると想定して推計

# (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

## ① 現状の販売量をベースとした将来販売量

○全国の将来燃料需要増減率（経済産業省「2021年～2025年度の石油製品需要見通し」（令和3年4月）より）

油種	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	備考
ガソリン	100.0%	88.6%	78.4%	69.5%	61.5%	年率平均▲2.4%
軽油	100.0%	98.0%	96.1%	94.2%	92.3%	年率平均▲0.4%
灯油	100.0%	89.0%	79.2%	70.5%	62.8%	年率平均▲2.3%

2021年-2025年の年率が、2026年以降も継続すると仮定

○三島町の将来人口増減率と全国の将来人口増減率の比

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	備考
三島町人口増減率（2020年比）	100.0%	88.0%	77.4%	67.8%	59.0%	三島町将来人口推計より
全国人口増減率（2020年比）	100.0%	97.8%	95.1%	91.9%	88.5%	全国の将来人口推計より
三島町/全国 比	1.00	0.90	0.81	0.74	0.67	三島町増減率/全国増減率

○三島町の将来燃料需要増減率（2020年基準）

油種	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	備考
ガソリン	100.0%	79.7%	63.9%	51.2%	41.0%	全国需要×（三島町/全国の比）
軽油	100.0%	98.0%	96.1%	94.2%	92.3%	全国需要
灯油	100.0%	80.1%	64.5%	52.0%	41.8%	全国需要×（三島町/全国の比）

○三島町の将来燃料需要増減率（2021年基準、各年増減率に補正）

油種	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
ガソリン	-	100.0%	95.8%	91.5%	87.3%	83.1%	79.8%	76.5%	73.2%	69.9%	66.6%	63.9%	61.3%	58.7%	56.0%	53.4%	51.3%	49.1%	47.0%	44.8%	42.7%
軽油	-	100.0%	99.6%	99.2%	98.8%	98.4%	98.0%	97.6%	97.2%	96.8%	96.5%	96.1%	95.7%	95.3%	94.9%	94.5%	94.2%	93.8%	93.4%	93.0%	92.7%
灯油	-	100.0%	95.9%	91.7%	87.6%	83.4%	80.2%	76.9%	73.7%	70.4%	67.2%	64.6%	62.0%	59.4%	56.8%	54.2%	52.1%	49.9%	47.8%	45.7%	43.6%

○三島SSの販売量（2018,2019,2021平均）

油種	3年平均
レギュラー	206.6 KL
ハイオク	5.3 KL
軽油	150.1 KL
灯油	228.8 KL
計	590.8 KL

通年営業した直近3年の油種別平均値を推計の基準値として推計

①現状をベースとした将来販売量（三島SSの現状の販売量に、今後の経済見通し、エネルギー転換、燃費向上等及び三島町の人口増減等を考慮して推計した販売量）

（単位：KL）

油種	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
レギュラー	-	206.6	197.9	189.1	180.4	171.6	164.8	158.0	151.2	144.3	137.5	132.1	126.6	121.2	115.8	110.3	105.9	101.5	97.1	92.7	88.2
ハイオク	-	5.3	5.1	4.9	4.6	4.4	4.2	4.1	3.9	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1	3.0	2.8	2.7	2.6	2.5	2.4	2.3
軽油	-	150.1	149.5	148.9	148.3	147.7	147.1	146.5	145.9	145.4	144.8	144.2	143.6	143.1	142.5	141.9	141.3	140.8	140.2	139.7	139.1
灯油	-	228.8	219.3	209.8	200.3	190.9	183.4	176.0	168.6	161.2	153.7	147.8	141.8	135.9	129.9	124.0	119.1	114.2	109.4	104.5	99.7
計	-	590.8	571.7	552.7	533.6	514.6	499.6	484.6	469.6	454.6	439.6	427.5	415.4	403.2	391.1	379.0	369.1	359.1	349.2	339.2	329.3

## (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

### 【参考】経済産業省「2021年～2025年度の石油製品需要見通し」(令和3年4月)の概要

経済産業省「2021年～2025年度の石油製品需要見通し」(令和3年4月)

	実績	実績見込	見通し					年率	全体	構成比	
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2021/2025	2021/2025	2021年度	2025年度
ガソリン	49,107	44,899 ▲ 8.6	46,427 + 3.4	45,348 ▲ 2.3	44,424 ▲ 2.0	43,218 ▲ 2.7	42,104 ▲ 2.6	▲ 2.4	▲ 9.3	30.4	29.3
ナフサ	42,550	40,159 ▲ 5.6	40,550 + 1.0	40,275 ▲ 0.7	39,970 ▲ 0.8	39,622 ▲ 0.9	39,231 ▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 3.3	26.6	27.3
ジェット燃料油	5,146	2,944 ▲ 42.8	4,255 + 44.5	4,749 + 11.6	4,952 + 4.3	5,037 + 1.7	5,015 ▲ 0.4	+ 4.2	+ 17.9	2.8	3.5
灯油	13,621	14,574 + 7.0	13,978 ▲ 4.1	13,710 ▲ 1.9	13,394 ▲ 2.3	13,073 ▲ 2.4	12,743 ▲ 2.5	▲ 2.3	▲ 8.8	9.2	8.9
軽油	33,657	31,696 ▲ 5.8	32,607 + 2.9	32,563 ▲ 0.1	32,561 ▲ 0.0	32,317 ▲ 0.7	32,114 ▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 1.5	21.4	22.3

出典：経済産業省「2021年～2025年度の石油製品需要見通し」(令和3年4月)

#### 試算の前提

- 経済前提として主に内閣府発表の「令和3年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度(令和3年1月18日閣議決定)」、「中長期の経済財政に関する試算(令和3年1月21日経済財政諮問会議提出)」を採用、その他各シナリオの経済見通しも加味。

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
実質GDP成長率	4.0%	2.4%	2.1%	1.7%	1.4%

- 新型コロナウイルス感染症による影響については、上記の経済見通しをベースとしつつ、各油種への個別の影響についても考慮。
- 為替、原油価格等の価格要因についても上記の経済見通しの前提に含まれており、今回見直しにおいて追加的に価格要因の考慮はしない。
- カーボンニュートラルに向けた動きについては、電力部門や産業部門での脱炭素化の動きが進むことによる影響を個別に考慮。

#### 油種毎の考慮事項

<ガソリン>

- EV・PHV等次世代乗用車については、政府のグリーン成長戦略等に基き販売台数を想定し、ガソリン需要の減少要因として考慮

<灯油>

- 産業用については各産業における燃料転換や効率改善の進展を、民生用についても、家庭用を中心とした暖房・給湯エネルギー源の転換が続くことを考慮

<軽油>

- 堅調な経済成長に下支えされ貨物輸送量はほぼ横ばいで推移すると想定されるものの、トラック燃費の着実な改善や小型EVトラックの導入等を考慮

出典：経済産業省「2021年～2025年度の石油製品需要見通し」(令和3年4月)をもとに作成

## (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

### ②-1 町民の利用利便性向上による販売量増加分の推計 (ガソリンのみ)

【仮定】：町民アンケートにおいて「現在、よく利用するSSが三島SS以外」と回答し、かつ三島SSが良く利用されるための立地として「国道沿いへの移転」と回答した人の半数が、その利便性向上によって新たに三島SSを利用すると想定  
 ※現在三島SS以外で給油している町民のうち、国道沿いへの移転をきっかけに三島SSで給油するようになると想定される町民

#### 【町民アンケートより】 現在よく利用するSS

三島SSを利用 (42.5%)

三島SS以外を利用 (57.5%)

この (現在、三島SS以外を利用している人の) うち、移転先の立地について、「国道沿い」と回答した人の割合：77.2%  
 (全体の割合  $57.5\% \times 77.2\% = 44.4\%$ )

このうち半数 (50%) が、国道沿いへの移転により新たに三島SSを利用するようになると想定  
 (全体の割合： $44.4\% \times 0.5 = 22.2\%$ )  
 ※立地希望を表明しても、そのすべてが三島SSを利用するわけではないものと想定 (半数程度と想定)

- 現在三島SSを利用している人 (全体の42.5%) の0.52倍に相当する人 (全体の22.2%) が、国道沿いへの新設・移転により新たに三島SSを利用するものと想定  
 ⇒現在販売量をベースとした販売量 (前述①の販売量) の0.52倍相当の販売量が増加 (①×0.52)

②-1 新設・移転による町民利用増加量の推計値 (国道沿いへの移転による利便性向上により、新たに三島SSを利用する人が増えることによる販売増加量) (単位：KL)

油種	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
レギュラー	-	-	-	-	94.2	89.6	86.1	82.5	78.9	75.4	71.8	69.0	66.1	63.3	60.5	57.6	55.3	53.0	50.7	48.4	46.1
ハイオク	-	-	-	-	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.6	1.6	1.5	1.4	1.4	1.3	1.2	1.2
ガソリン計	-	-	-	-	96.6	91.9	88.3	84.6	81.0	77.3	73.7	70.8	67.8	64.9	62.0	59.1	56.7	54.4	52.0	49.6	47.3

※エネルギー転換、燃費の向上、人口増減等は①の推計で考慮済み

## (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

### ②-2 町外需要の取り込みによる販売量増加分の推計 (ガソリンのみ)

【仮定】：国道沿いへの移転によって、国道252号の通過交通のうち、三島町周辺のSS (柳津町のSSまたは金山町のSS) と三島SSとの間で燃料残量が要給油レベルに減少する乗用車が、新たに三島SSを利用すると想定

※対象交通、燃費、利用率等は、過大な推計とならないよう、保守的に推計

#### ○道の駅周辺の乗用車12時間交通量：2,572台 (2015年基準) (方面別：1,286台)

※最寄調査地点 (桧原地内) の乗用車昼間12時間交通量3,428台のうち、三島町民、三島町通勤者の台数を控除

(町民分は①、②-1に含まれるため控除。町外在住の三島町通勤者は、既に日常的に町外SSを利用しており、移転しても日常の給油行動に大きな影響を与えないものと考えられることから、保守的な推計とするために控除)

※三島町の通勤流出・流入者が1人1台利用と想定。流入流出先 (503台,9p参照) のうち、桧原地内を通らないと想定される75台 (西会津町流出入分：20台、金山町流出入分：55台) を控除し、往復として2倍 ( $3,428 - \{(503-75) * 2\}$ )

#### ○周辺SSと三島SSとの間での燃料減少量

当該区間での燃料減少量 = 平均燃費 (22km/L) × 周辺SSとの距離 ※平均燃費は国交省資料による

★柳津-三島間の燃料減少量  $11\text{km} \div 22\text{km/L} = 0.5\text{L}$  ★金山-三島間の燃料減少量  $17\text{km} \div 22\text{km/L} = 0.8\text{L}$

#### ○周辺SSと三島SSとの間で、燃料残量が要給油レベルになる乗用車の割合

乗用車の燃料タンク容量40L、要給油レベルを残量10Lと仮定すると、残量40L~10Lまで幅があるなかで、

柳津方面からは残量10.5L~10.0Lの乗用車、金山方面からは残量10.8L~10.0Lの乗用車が給油対象となる。

★柳津方面からの乗用車  $\{(10.5\text{L}-10.0\text{L}) \div (40\text{L}-10\text{L})\} = 0.5\text{L} \div 30\text{L} = 1.7\%$

★金山方面からの乗用車  $\{(10.8\text{L}-10.0\text{L}) \div (40\text{L}-10\text{L})\} = 0.8\text{L} \div 30\text{L} = 2.6\%$

#### ○移転後の三島SSで給油可能性がある通過交通量 (1日あたり台数)

★柳津方面からの通過交通に占める割合：1,286台 × 1.7% = 21.4台 ★金山方面からの通過交通に占める割合：1,286台 × 2.6% = 33.1台 計54.6台

#### ○三島SS利用率

給油可能性のある通過交通のうち、実際に三島SSで給油する割合：50%と想定

※給油ニーズがある乗用車が全て給油するわけではなく、半数程度が給油するものと想定

#### ○1台 (1回) あたり給油量

✓ 30L (町民アンケート調査より)

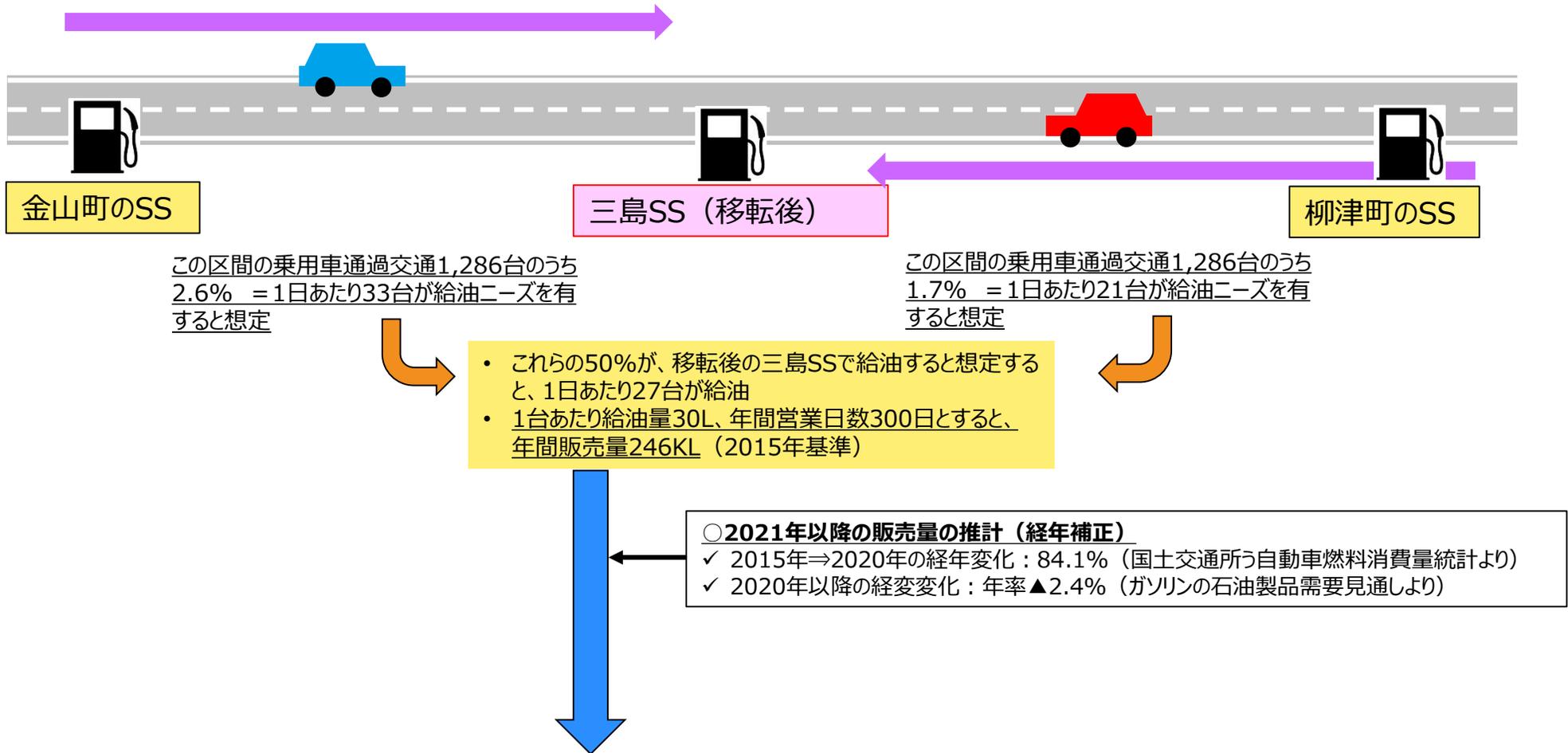
#### ○移転後の三島SSで通過交通の給油量推計値 (2015年基準)

✓  $54.6\text{台} \times 50\% \times 30\text{L} = 819\text{L/日}$  (営業時間昼間12時間とした場合。2015年値)

✓ 実営業年間300日 (休業日等を考慮) とすると、 $819\text{L/日} \times 300\text{日} = 246\text{KL/年}$

## (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

### ②-2 町外需要の取り込みによる販売量増加分の推計 (ガソリンのみ)



②-2 新設・移転による町外通過交通等利用増加量の推計値 (国道沿いの移転による、新たに通過交通等の町外需要の取り込みによる販売増加量)

(単位：KL)

油種	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
レギュラー	-	-	-	-	182.8	178.4	174.1	170.0	165.9	161.9	158.0	154.2	150.5	146.9	143.4	139.9	136.6	133.3	130.1	127.0	123.9
ハイオク	-	-	-	-	4.7	4.6	4.5	4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2
ガソリン計	-	-	-	-	187.5	183.0	178.6	174.3	170.1	166.1	162.1	158.2	154.4	150.7	147.1	143.5	140.1	136.7	133.4	130.2	127.1

# (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

## 三島SSの将来販売量推計値 (各ケースまとめ)

- 販売量の推計結果を見ると、新設・移転による町民利用増がなされた場合 (ケース2) でも、2026年時点で、SS過疎地での採算ラインといわれる (※1) 年販600KLを下回る。町民利用増に加え町外からの利用増もなされた場合 (ケース3) は、2034年まで年販600KL程度の販売量が確保されることとなる。

※1 : 販売量と経営状況の関係は次項参考資料参照

<油種別の各ケース年間販売量推計値>

(単位 : KL)

油種	区分	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
レギュラー ガソリン	①現在販売量からの見通し	189.1	180.4	171.6	164.8	158.0	151.2	144.3	137.5	132.1	126.6	121.2	115.8	110.3	105.9	101.5	97.1	92.7	88.2
	②-1町民利用増加分	-	94.2	89.6	86.1	82.5	78.9	75.4	71.8	69.0	66.1	63.3	60.5	57.6	55.3	53.0	50.7	48.4	46.1
	②-2通過交通利用増加分	-	182.8	178.4	174.1	170.0	165.9	161.9	158.0	154.2	150.5	146.9	143.4	139.9	136.6	133.3	130.1	127.0	123.9
	計	189.1	457.3	439.6	425.0	410.4	396.0	381.6	367.4	353.3	343.3	331.4	319.6	307.9	297.8	287.8	277.9	268.0	258.3
ハイオク ガソリン	①現在販売量からの見通し	4.9	4.6	4.4	4.2	4.1	3.9	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1	3.0	2.8	2.7	2.6	2.5	2.4	2.3
	②-1町民利用増加分	-	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.6	1.6	1.5	1.4	1.4	1.3	1.2	1.2
	②-2通過交通利用増加分	-	4.7	4.6	4.5	4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2
	計	4.9	11.7	11.3	10.9	10.5	10.2	9.8	9.4	9.1	8.8	8.5	8.2	7.9	7.6	7.4	7.1	6.9	6.6
軽油	現在販売量からの見通し	148.9	148.3	147.7	147.1	146.5	145.9	145.4	144.8	144.2	143.6	143.1	142.5	141.9	141.3	140.8	140.2	139.7	139.1
灯油	現在販売量からの見通し	209.8	200.3	190.9	183.4	176.0	168.6	161.2	153.7	147.8	141.8	135.9	129.9	124.0	119.1	114.2	109.4	104.5	99.7

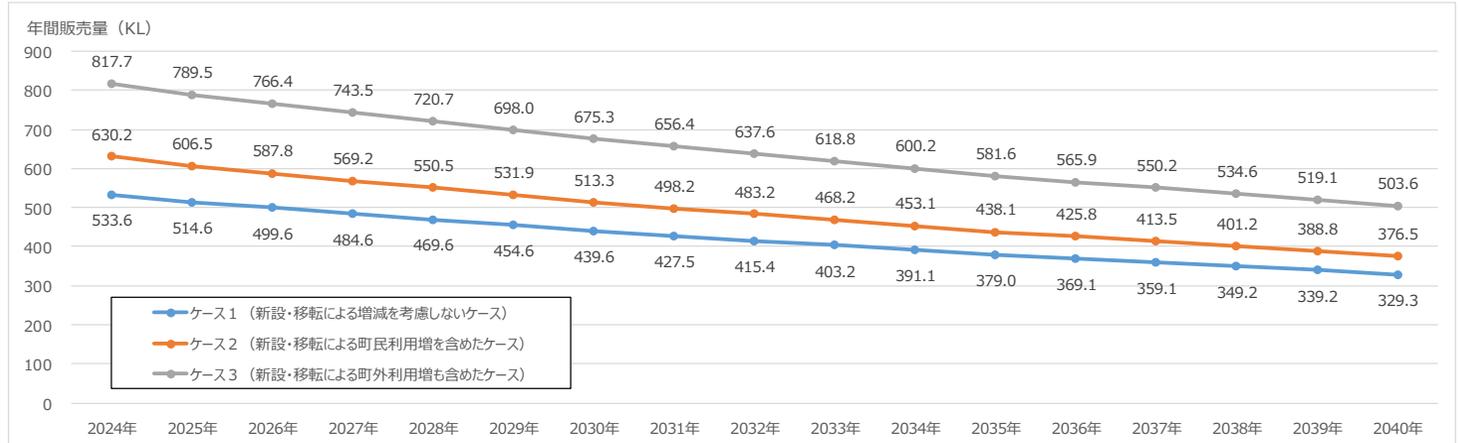
<ケース別の年間販売量推計値>

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
ケース1 (新設・移転による増減を考慮しないケース)	552.7	533.6	514.6	499.6	484.6	469.6	454.6	439.6	427.5	415.4	403.2	391.1	379.0	369.1	359.1	349.2	339.2	329.3
ケース2 (新設・移転による町民利用増を含めたケース)	-	630.2	606.5	587.8	569.2	550.5	531.9	513.3	498.2	483.2	468.2	453.1	438.1	425.8	413.5	401.2	388.8	376.5
ケース3 (新設・移転による町外利用増も含めたケース)	-	817.7	789.5	766.4	743.5	720.7	698.0	675.3	656.4	637.6	618.8	600.2	581.6	565.9	550.2	534.6	519.1	503.6

ケース1 : ガソリン「①」のみ+軽油、灯油

ケース2 : ガソリン「①」+「②-1」+軽油、灯油

ケース3 : ガソリン「①」+「②-1」+「②-2」+軽油、灯油



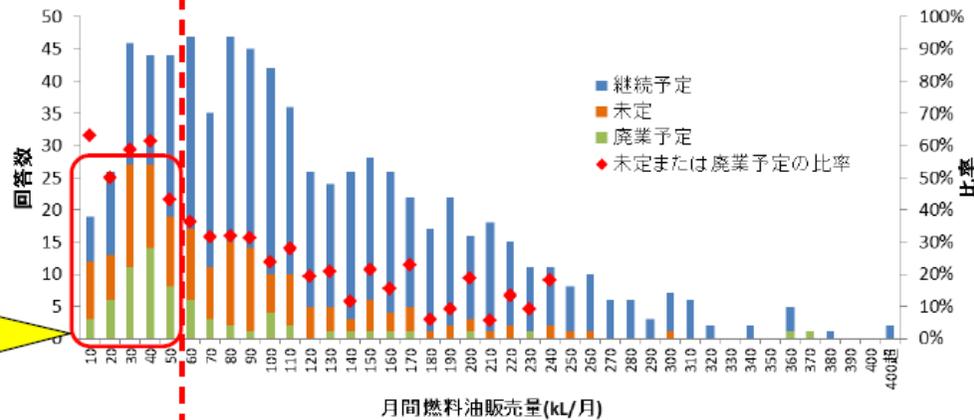
## (4) 燃料供給拠点 (SS) における将来販売量の推計

【参考】資源エネルギー庁調査による、SS過疎地における販売量別の事業継続意思、経営状況の関係

### 2.1 事業継続に関する要因分析：経営面の課題

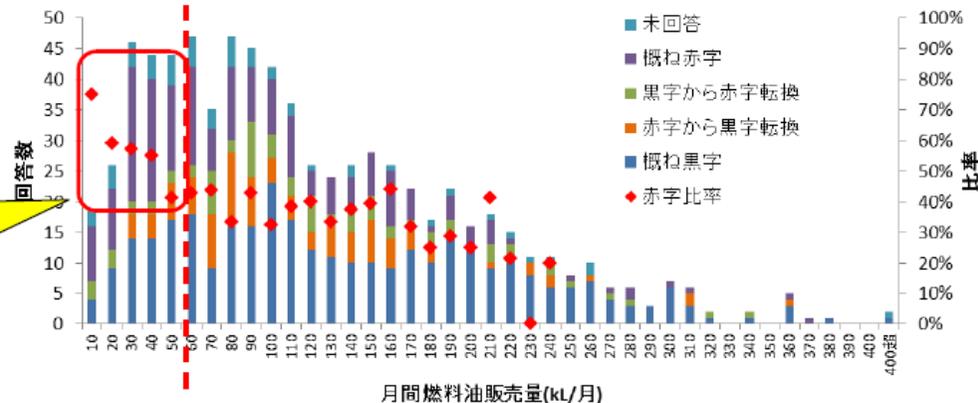
◆ 販売量別の事業継続意思、経営状況を分析すると、月間燃料油販売量が50kLを下回るSSは、今後の事業継続が不透明あるいは赤字経営の割合が大きい。

事業継続意思別の燃料油販売量分布



未定または廃業予定のSSの割合が高い

経営状況別の燃料油販売量分布



赤字経営のSSの割合が高い

## (5) 燃料供給拠点 (SS) の形態・機能

### ○災害対応拠点としての位置づけと、確保すべき備蓄量

#### <自家発電設備の整備>

- ✓ 災害などが原因の停電時にも継続して給油できるよう、自家発電設備を設置する。(経産省：住民拠点SS)



令和元年9月の令和元年台風15号の際に、SSの配電線につなげた自家発電設備(千葉県鴨川市)

#### <災害時の周辺の主要施設への燃料供給体制の確保(災害用備蓄量)>

- ✓ 災害時に、以下の施設、機材等で必要となる非常用燃料の一部を、SSにおいて流通備蓄により備蓄し、給油可能な体制を確保する。

油種	対象	区分	SSでの備蓄量	根拠、内容	備考
ガソリン	三島町役場	緊急時等の職員通勤・移動等	500L	職員50人×10L=500Lを確保	
	宮下土木事務所	公用車、道路パトロール	100L	1日平均使用量が25Lであることから、3日分+aで100Lを確保	
	その他行政機関等	緊急時の通勤・管内移動等	700L	宮下病院、消防署、警察署、建設業者等の職員・作業員として、70人×10L=700Lを確保	
	主要施設 ガソリン 計		1,300L		
軽油	三島町役場(災害対策本部)	非常用発電機	720L	950L(41時間分)は施設で備蓄あり。追加31時間分をSSで備蓄	
	除雪車	除雪車	1,800L	町内路線の除雪車18台。1台100L×18台分備蓄	冬期のみ
	宮下病院(医療、救護)	非常用発電機	230L	465L(48時間分)は施設で備蓄あり。追加24時間分をSSで備蓄	
	建設機械、トラック等(道路復旧)	トラック、バックホー等重機	600L	トラック、建設機械等6台。1台100L×6台分備蓄	
	老人ホーム(保護、救護)	非常用発電機	85L	80L(35時間分)は施設で備蓄あり。追加37時間分をSSで備蓄	
	主要施設 軽油 計		3,435L		
灯油	三島町役場(町民センター)	暖房器具	1,500L	災害時の暖房器具 1日最大500L×3日分。最低4,000Lは施設で備蓄を確保しているが、緊急時対策としてSSでも備蓄	冬期のみ
	三島小学校、中学校(避難所)	暖房器具	400L	達磨ストーブ：小学校2台、中学校9台 0.5L/h、72時間として、36L×11=約400L	冬期のみ
	主要施設 灯油 計		1,900L		

※流通備蓄(流通在庫備蓄)  
地域内の事業者にあらかじめ協力を依頼し、在庫の物品などを災害用の備蓄として活用する備蓄方法  
燃料の場合、長期在庫による劣化を防ぐ必要があることから、品質維持のためにも、流通備蓄により在庫が循環されることが望ましい

#### <災害時の優先利用協定の締結>

- ✓ 災害時の緊急車両、重要施設(町役場、行政機関、医療機関、工事業者等)に対し優先的に給油できるよう、町(SS)とこれら施設及び関係機関との間で優先利用協定を締結する。
- ✓ また、緊急時の調達の円滑化と受注機会拡大のため、これら機関とは平時から契約を締結する等も必要である。
- ✓ その他、重要施設以外の利用者(町民や事業者等)への給油優先順位等についても検討し、位置づける。

## (5) 燃料供給拠点 (SS) の形態・機能

### ○将来販売量、災害対応備蓄等を考慮したタンク規模

- 将来の販売量推計結果、災害時を想定した備蓄量等を踏まえ、新設・移転後の三島SSでは、**40KL～50KL程度のタンク容量を想定**する。
- なお、近年の仕入条件等を踏まえると、仕入コストの削減（仕入単価が低い時に多めに仕入れて置く、仕入ロットを拡大することで仕入単価を低くする等）のためには、ある程度余裕を持ったタンク容量を確保することが望ましい。

油種	現在のタンク容量 【地下タンク】	新設SSでのタンク容量想定案	備考
R レギュラーガソリン	7KL	12～16KL程度	✓ 町外者の利用増まで想定した場合、現在の2倍以上の販売量が想定されることや、緊急時の備蓄確保の観点から、容量を拡大する。
H ハイオクガソリン	3KL	6KL程度	✓ 町外者の利用増までを想定しても販売量は少ない（年販12KL程度）が、仕入ロットの観点からは、1回の仕入時に4KL程度荷卸しできることが望ましいため、6KLとする。
D 軽油	10KL	10～14KL程度	✓ 将来的に、現状から需要は微減と見込まれるが、冬期ピーク時の対応や緊急時の備蓄確保の観点から、現状維持+aとする
K 灯油	10KL	10～14KL程度	✓ 将来的に、現状から需要の減少が見込まれるが、冬期ピーク時の対応や緊急時の備蓄確保の観点から、現状維持+aとする。
タンク区分 ・仕切りの イメージ  (KL)	<p>&lt;地下タンク・計30KL&gt; ※10KL地下タンク×3基 1基目：R (7) +H (3) 2基目：D (10) 3基目：K (10)</p>	<p>&lt;地下タンク・計40KLの場合のタンク仕切り例&gt; ※40KL地下タンク×1基 1基目：R (12or14) +H (6) +D (10or12) +K (10) &lt;地下タンク・計50KLの場合のタンク仕切り例&gt; ※50KL地下タンク×1基 1基目：R (16) +H (6) +D (14) +K (14) &lt;地上タンク・計54KLの場合のタンク仕切り例&gt; ※18KL地上タンク×3基 1基目：R (14.5) +H (3.5) 2基目：D (18) 3基目：K (18)</p>	✓ 地上タンクは、規格、タンク内の仕切り条件及び同一タンクでの油種構成等に制限があるため、新設SSでのタンク容量想定に沿った容量を確保しようとした場合、左記の構成とせざるを得ず、必要量に対して適切なスペックとならない。

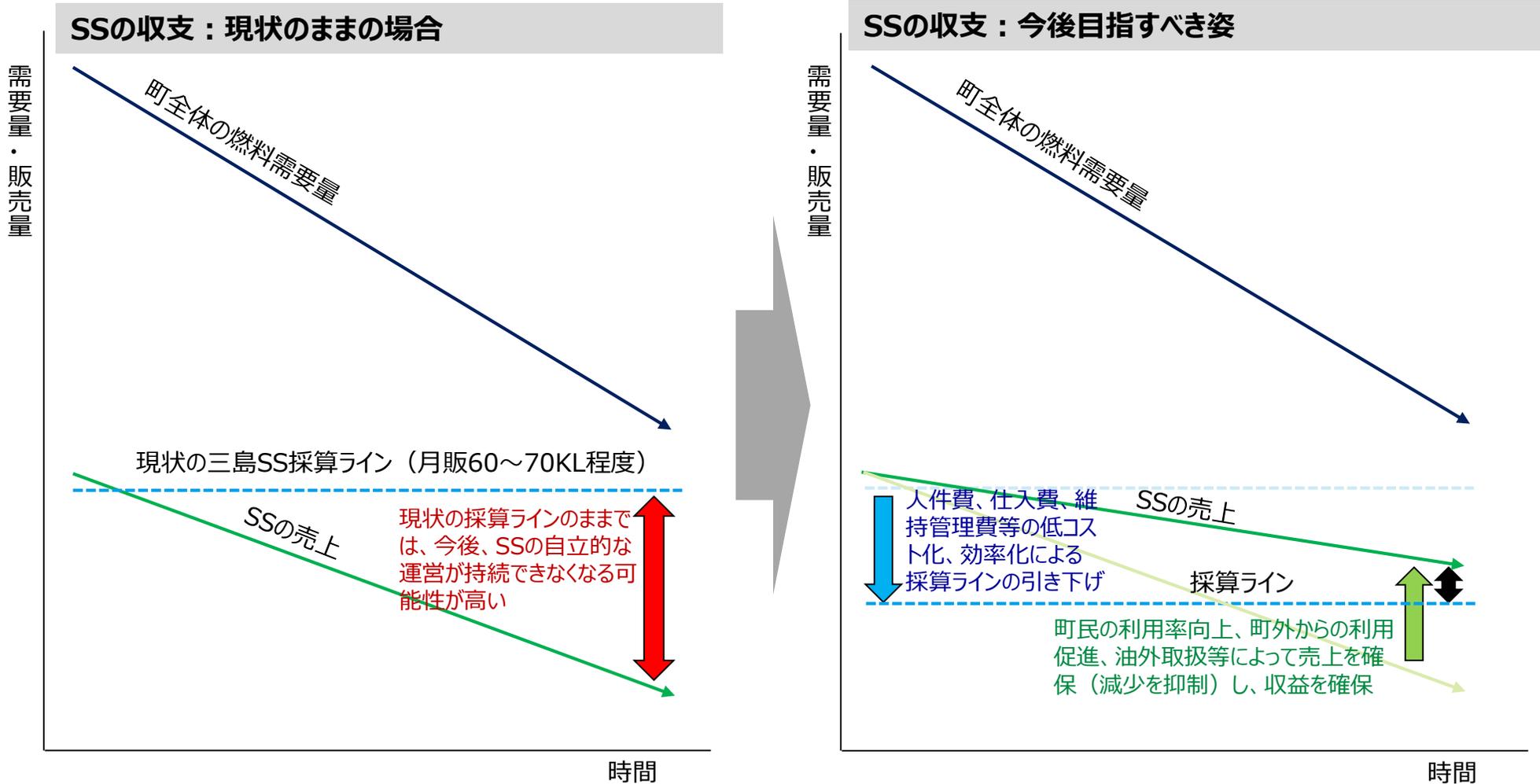
※最終的なタンク規模や基数、仕切り等は、候補地確定後、敷地要件、安全性、荷卸し条件等の協議・検討を行ったうえで判断する。

## (5) 燃料供給拠点 (SS) の形態・機能

### ○ 自立的・持続的なSS運営のための、燃料販売以外の収益機能（機能複合化）

#### <機能複合化による収益確保の必要性>

- ✓ SSを持続的に維持していくためには、自立的な経営が可能な収益（採算ライン）を確保していくことが必要である。
- ✓ 前述の推計の通り、新設・移転に伴う燃料販売量の増加が想定される場所ではあるが、ケース3（町外者の利用増を含めたケース）の場合でも、燃料販売収入だけでは、今後採算ラインを確保していくことは難しく、燃料販売以外の収入源を確保していくことが必要である。



## (5) 燃料供給拠点 (SS) の形態・機能

### <収益源の確保策>

#### ①燃料販売以外の収益機能

- 将来的な経営の維持・安定化のため、SSや周辺集客施設との連動性・関連性、住民ニーズ等を踏まえた新たな機能や設備を附帯する、あるいは隣接地に整備・確保し、周辺を含めた地域づくりや観光振興、生活サービス等の拠点としていくことが考えられる。

##### 【SSへの附帯機能の例】

- ✓ 洗車機能（セルフ洗車機・洗車スペース）
- ✓ 休憩・喫茶機能（カフェスペース、自販機）
- ✓ EV充電スタンド（既存の道の駅設置のスタンドを共用）
- ✓ その他、軽微なカーメンテナンス、共同配達、御用聞きなど、福祉、その他住民サービス事業との連携策についても検討する。

#### ②サービス改善・拡充による利用促進

- SSの維持運営には、町民の理解と積極的な利用が不可欠であることから、価格やサービス内容についての情報発信・情報表示を強化するとともに、各種サービスの充実等を進めていく。

##### 【利用促進策の例】

- ✓ 定休日（休日の営業）、営業時間の見直し（閉店時間の延長）
- ✓ 燃料の販売価格、割引情報、営業時間、定休日等の情報の掲示、町民への周知
- ✓ 配達サービスの拡充・見直し（日用品配達との連携による少量配達の実施、ルート配達）
- ✓ ポイントカード等の新たな優遇策の導入
- ✓ DX（デジタルトランスフォーメーション）、ICT技術の活用等（例えばスマホからの注文、電子マネー等での支払への対応等）

### <参考：複合機能（カフェ、洗車機）を附帯した場合の収支イメージ>

燃料以外の 収益源 (複合機 能)	項目	単位	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	累計	
	カフェ	千円	整備		1,200	1,142	1,096	1,051	1,006	960	915	879	843	806	770	734	705	675	646	617	587	14,632
	洗車機	千円			450	438	427	417	406	396	385	376	366	357	347	338	329	320	311	302	294	6,259
	複合機能粗利計	千円			1,650	1,580	1,524	1,468	1,412	1,356	1,300	1,255	1,209	1,163	1,117	1,072	1,033	995	957	919	881	20,892

##### 【粗利算定条件の想定】

※カフェ	利用者1人あたり粗利200円	利用者1日平均20人	営業日300日	年間粗利：200円×20人×300日 = 120万円/年	燃料給油者が利用すると仮定し、ガソリン販売量と同じ増減率を想定
※セルフ洗車機	利用者1台あたり粗利500円	利用者1日平均3台	営業日300日	年間粗利：500円×3台×300日 = 45万円/年	自動車保有者が利用すると仮定し、三島町の人口増減率と同じ増減率を想定

## (5) 燃料供給拠点 (SS) の形態・機能

### ○燃料供給拠点の形態 (タンク設置形態)

- ✓ SSの形態としては、一般的な地下タンク型のほか、近年は過疎地における特例として、地上タンク設置型 (地上コンテナ型) の例もみられている。
- ✓ 三島町においては、将来販売量推計や災害用備蓄等を踏まえたタンク容量の確保及び将来の自立的・持続的な運営に向けた燃料販売以外の収益機能確保等の観点から、**地下タンク設置型**のSSとする。

○・・・妥当、優位  
△・・・懸念・劣位  
※・・・比較・評価できない

参考：地下タンク型、地上タンク型の特徴比較

形態	防災・災害耐性	運営	敷地利用 (設備配置)	SS設備コスト (タンク、配管、計量機等) ★土木・施設工事費は含まない	ランニングコスト	廃止コスト	その他
地下タンク設置型	○地下タンクは地上火災の影響を受けにくい等災害耐性高い △計量機、配管は、地震等の揺れによる損害可能性有り	○計量機 (レール) を複数配置でき、計量機故障時も供給が可能	○敷地内のレイアウトがしやすい (洗車スペース等の確保がしやすい)	○5000万円～5500万円程度 (50KLタンク1基)	※月間15万円～20万円程度 (現状のコストから修繕費等を控除)	△タンクの埋戻しまたは撤去工事が必要 (数百万円～)	—
地上タンク設置型 	○コンテナ内にタンク・配管・計量機が全て内蔵されているため、揺れによる損害リスクは低い (震度6程度の耐震性有り) △コンテナ上に1.7m以上の積雪がある場合雪下ろしが必要	○計量機をシャッター格納可能なため防犯性が高い	△地上にコンテナを複数設置するため、配置レイアウトの自由度が低い (洗車等のスペースが確保しにくい等油外収益が制限される可能性がある)	△約7500万円 (1基あたり約2500万円×3基)	※ (2基の場合) 月間14万円～17万円程度 (3基の場合、上記より上振れする可能性が高い)	※コンテナ規格であるため、移設先がある場合は、他所への運搬・移設が可能	※設置にあたり、危険物の規制に関する政令第23条の規定による特例適用の承認が必要 (全国で地上タンク設置型は1事例のみ、3基設置は事例がないなど、承認に必要な条件等が現時点で不確定)

★地下タンク設置型、地上タンク設置型ともに、新設にあたっては、上記SS設備コストのほか、各種調査費、土木工事費、施設・設備工事費、設計料、各種手続き費用等が必要となる。

<ランニングコストの概算内訳 (人件費、減価償却費除く) >

単位：円/月

費目	現状 (地下タンク)	新設移転後		備考
		地下タンク	地上タンク	
通信費	25,000	20,000～30,000	20,000～30,000	月により変動あり
水道光熱費	40,000	40,000	40,000	毎月ほぼ固定
燃料費運送費	30,000	20,000～30,000	20,000～30,000	月により変動あり
賃借料	50,000	30,000～40,000	管理費に含む	移転後は設備リース料等のみ
消耗品、使用料、雑費等	45,000	40,000～50,000	管理費に含む	月により変動あり
修繕費	30,000	0～10,000	0～10,000	移転後は減少を想定
管理費	-	-	60,000程度	売木村事例 (地上タンク2基) による
計	220,000	150,000～200,000	140,000～170,000	

※上記費用は、あくまでも既存の事例や現状での想定に基づく、比較用の概算値であり、当町で実際に導入・整備する場合の費用を示すものではない。

※今後、SS関連設備に係る技術開発状況、候補地の土地調査等に基づく地盤改良の必要性、各種工事 (整地、外構、建物その他付帯工事等) の内容、付帯する機能、および設置許認可に係る各種条件等により、上記の特徴や評価は変わってくる可能性がある。

## (6) 燃料供給拠点 (SS) の運営

### ○運営体制 (運営組織、人員配置)

- 当面は、現状と同様にSS事業のみの運営とするが、将来的には、例えば道の駅など周辺の集客施設との運営一体化や、地域エネルギー事業、観光事業、卸・物販事業等の事業を含めた、地域総合商社組織による運営も想定する。  
※物販など、いわゆる「油外」の割合を高めるとともに、地域再エネ事業との一体化により、石油燃料販売事業が、徐々に再エネ事業に転換していくイメージ  
(再エネによる売電等を進め、収益源を化石燃料から、再エネにシフト → 地域のエネルギー拠点としての機能・位置づけは維持)
- SS事業は、人件費が固定費の大きなウエイトを占めているが、時季による繁閑の変動が大きく、人員の適切かつ柔軟な確保が大きな課題である。そのため、前述の複合機能化等も進めながら、例えば、特定地域づくり事業協同組合の活用も想定する。
- また、災害時でも適切に施設・設備が稼働するよう、SS専任スタッフだけでなく、周辺施設のスタッフ等が緊急時に給油業務に従事できるよう、周辺施設スタッフや周辺地区消防団員の資格取得 (みなし従業員) 等の緊急時の給油人員体制を構築することや、定期的な防災訓練、設備稼働確認等を行うことも必要である。

### ○町の政策とSS運営との連携・連動

- SSの運営にあたっては、町の各種政策との連携・連動を図っていくことが必要であり、例えば道の駅など周辺施設との連動による観光利用の促進、配達時の見守り活動など福祉政策との連携などが考えられる。
- また、特に防災面については、町の防災計画におけるSSの位置づけの明確化や、町内各家庭、事業所等での燃料備蓄の促進など、SSを災害拠点とした中での総合的な防災対策を進めていくことも必要である。
- 将来、SSの経営収支がマイナスとなるなど、自立的経営が難しくなることも想定されることから、町民生活や災害対応等の面で町内にSSが維持されることのメリットや必要性を踏まえ、町からの支援も含めた運営・経営方法については、継続的に検証・検討していく。

### ○町民の理解促進 (「おらがSS」)

- SSを持続的に運営していくためには、町民が積極的に町内SSを利用することが基本であり、そのためのPRや案内等を町ぐるみで進めていくことが必要である。
- 町民やSS利用者に、三島SSは町の防災を支える重要な施設であることを掲示するなど、SS利用を通じた防災協力意識の啓発につながるような工夫も必要である。
- また、町営のSSとして、可能な限りコストの低減・効率化を図りつつ、それらコストの状況や財政への影響等について、可能なかぎり町民にその現状を公開し、理解を得ていくことも必要である。
- そのため、例えば、国や県等の補助金、交付金を効果的に活用するとともに、経営状況、黒字が生じた場合の還元策、赤字が発生した場合の補填策と対処方法等について、数値も含めて把握・整理・共有するとともに、第三者を含めたチェック等を行うことも必要である。

# (6) 燃料供給拠点 (SS) の運営

## ○三島SSの将来収支シミュレーション

✓ 前述の販売量推計に基づく、各ケースの収支シミュレーションを行った。

- ケース1 : 新設・移転による増減を考慮しないケース
- ケース2 : ケース1に加えて、新設・移転による町民利用増を含めたケース
- ケース3 : ケース2に加えて、新設・移転による町外利用増も含めたケース
- ケース3 + 複合機能 : ケース3に、複合機能による収益を加えたケース

※ この収支シミュレーションは、現状で想定しうる各種仮定や想定に基づき試算したものであり、今後の社会経済状況や営業条件等によって、数値は増減する可能性がある。

※ 当面、SSの自立的・持続的な経営を前提とするが、将来、経営収支がマイナスとなることが想定される場合は、町内でのSS維持を最優先として、町からの支援も含めた運営・経営方法の見直しを行う。

### <経営条件>

項目	設定内容	内容・根拠
マージン	14.7 円/L	仕入単価と販売単価の差。2021年1月-9月の経営実績 (14.7円/L) をもとに設定
人件費	9,050 千円/年	年間人件費 (2.5人想定)。現事業計画 (年間905万円) をもとに設定
その他経費	2,000 千円/年	光熱費、消耗品費等 (施設設備の減価償却を除く)。現事業計画 (年間290万円) だが、このうち賃借料、修繕費 (9月までで計約86万円支出) が削減されると仮定して設定。

※上記の条件は、今後の運営状況等により変動する可能性があるが、現時点でそれらの想定・推計は困難であるため、固定としている。

### <ケース別収支シミュレーション> ※減価償却は含まない ※割引現在価値 (将来の収益額等を、金利等を考慮して現在の価値として算出すること) は考慮していない

ケース1	項目	単位	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	累計	
		販売量	KL		533.6	514.6	499.6	484.6	469.6	454.6	439.6	427.5	415.4	403.2	391.1	379.0	369.1	359.1	349.2	339.2	329.3	7,158
	粗利	千円		7,844	7,564	7,344	7,123	6,903	6,682	6,462	6,284	6,106	5,928	5,750	5,571	5,425	5,279	5,133	4,986	4,840	105,224	
	人件費	千円		9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	153,850
	その他経費	千円		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	34,000	
	収支 (粗利-経費)	千円		-3,206	-3,486	-3,706	-3,927	-4,147	-4,368	-4,588	-4,766	-4,944	-5,122	-5,300	-5,479	-5,625	-5,771	-5,917	-6,064	-6,210	-82,626	
	累計収支	千円		-3,206	-6,692	-10,398	-14,325	-18,472	-22,840	-27,428	-32,194	-37,138	-42,260	-47,561	-53,040	-58,664	-64,436	-70,353	-76,417	-82,626		

ケース2	項目	単位	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	累計	
		販売量	KL		630.2	606.5	587.8	569.2	550.5	531.9	513.3	498.2	483.2	468.2	453.1	438.1	425.8	413.5	401.2	388.8	376.5	8,336
	粗利	千円		9,264	8,915	8,641	8,367	8,093	7,819	7,545	7,324	7,103	6,882	6,661	6,440	6,259	6,078	5,897	5,716	5,535	122,539	
	人件費	千円		9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	153,850
	その他経費	千円		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	34,000	
	収支 (粗利-経費)	千円		-1,786	-2,135	-2,409	-2,683	-2,957	-3,231	-3,505	-3,726	-3,947	-4,168	-4,389	-4,610	-4,791	-4,972	-5,153	-5,334	-5,515	-65,311	
	累計収支	千円		-1,786	-3,920	-6,329	-9,012	-11,969	-15,200	-18,705	-22,432	-26,379	-30,547	-34,936	-39,546	-44,337	-49,309	-54,462	-59,796	-65,311		

ケース3	項目	単位	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	累計	
		販売量	KL		817.7	789.5	766.4	743.5	720.7	698.0	675.3	656.4	637.6	618.8	600.2	581.6	565.9	550.2	534.6	519.1	503.6	10,979
	粗利	千円		12,021	11,605	11,267	10,930	10,594	10,260	9,927	9,649	9,372	9,097	8,823	8,550	8,318	8,088	7,859	7,630	7,404	161,393	
	人件費	千円		9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	153,850
	その他経費	千円		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	34,000	
	収支 (粗利-経費)	千円		971	555	217	-120	-456	-790	-1,123	-1,401	-1,678	-1,953	-2,227	-2,500	-2,732	-2,962	-3,191	-3,420	-3,646	-26,457	
	累計収支	千円		971	1,526	1,743	1,622	1,166	376	-747	-2,148	-3,825	-5,778	-8,005	-10,506	-13,237	-16,199	-19,391	-22,810	-26,457		

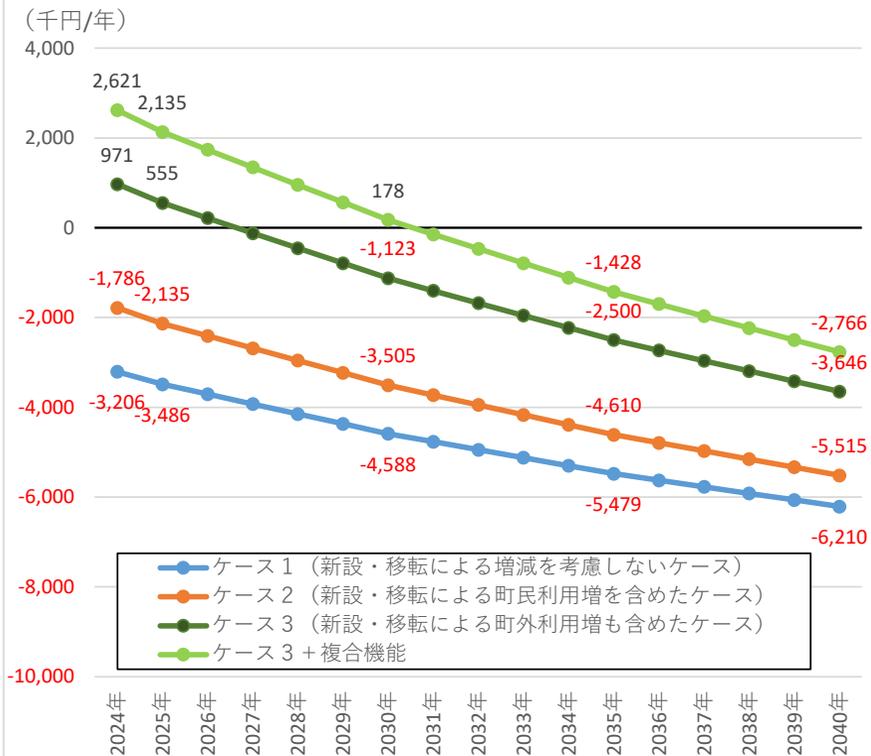
ケース3 + 複合機能	項目	単位	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	累計	
		燃料販売量	KL		817.7	789.5	766.4	743.5	720.7	698.0	675.3	656.4	637.6	618.8	600.2	581.6	565.9	550.2	534.6	519.1	503.6	10,979
	燃料販売粗利	千円		12,021	11,605	11,267	10,930	10,594	10,260	9,927	9,649	9,372	9,097	8,823	8,550	8,318	8,088	7,859	7,630	7,404	161,393	
	複合機能粗利	千円		1,650	1,580	1,524	1,468	1,412	1,356	1,300	1,255	1,209	1,163	1,117	1,072	1,033	995	957	919	881	20,892	
	粗利計	千円		13,671	13,185	12,791	12,398	12,006	11,616	11,228	10,904	10,581	10,260	9,940	9,622	9,352	9,083	8,816	8,549	8,284	8,024	182,285
	人件費	千円		9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050	153,850
	その他経費	千円		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	34,000	
	収支 (粗利-経費)	千円		2,621	2,135	1,741	1,348	956	566	178	-146	-469	-790	-1,110	-1,428	-1,698	-1,967	-2,234	-2,501	-2,766	-5,565	
	累計収支	千円		2,621	4,756	6,496	7,844	8,800	9,366	9,544	9,398	8,929	8,139	7,029	5,601	3,903	1,936	-299	-2,799	-5,565		

## (6) 燃料供給拠点 (SS) の運営

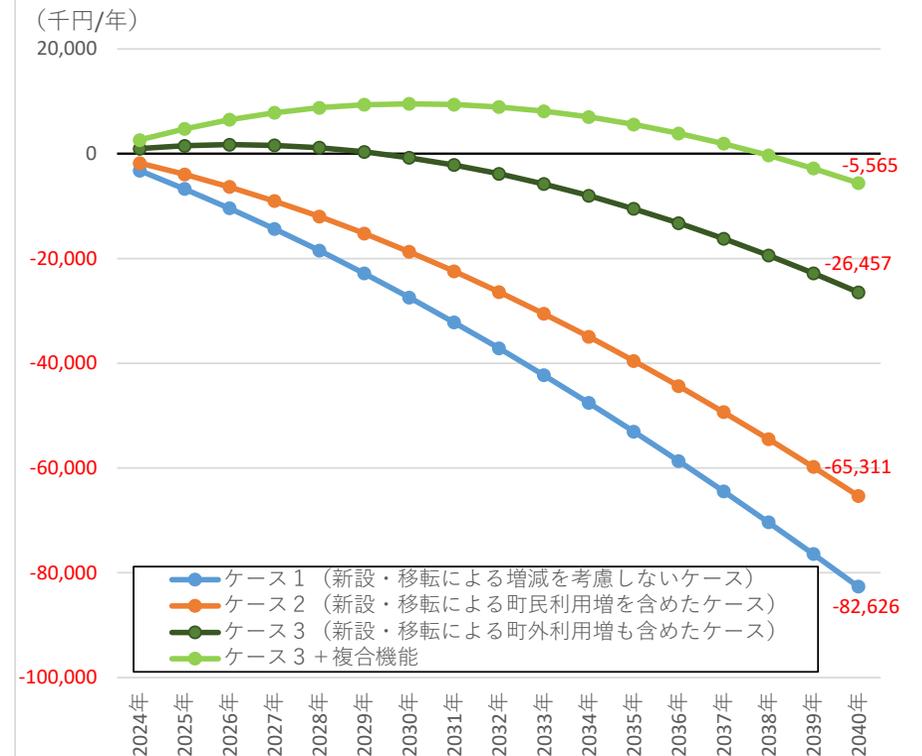
### 【参考：各ケースの収支シミュレーション】

- ・ ケース 1、ケース 2 では、当初から黒字を確保できない
- ・ ケース 3 では、3年程度は黒字が確保できるが、その後赤字となり、開業後6年程度で累計も赤字となる。
- ・ ケース 3 + 複合機能では、6年程度は黒字が確保でき、その後赤字となるが、黒字期間に積み上げた収益により、2037年まで累計で黒字が確保される。

### 単年ごとの収支



### 累計収支 (各年の収支を積上げ)

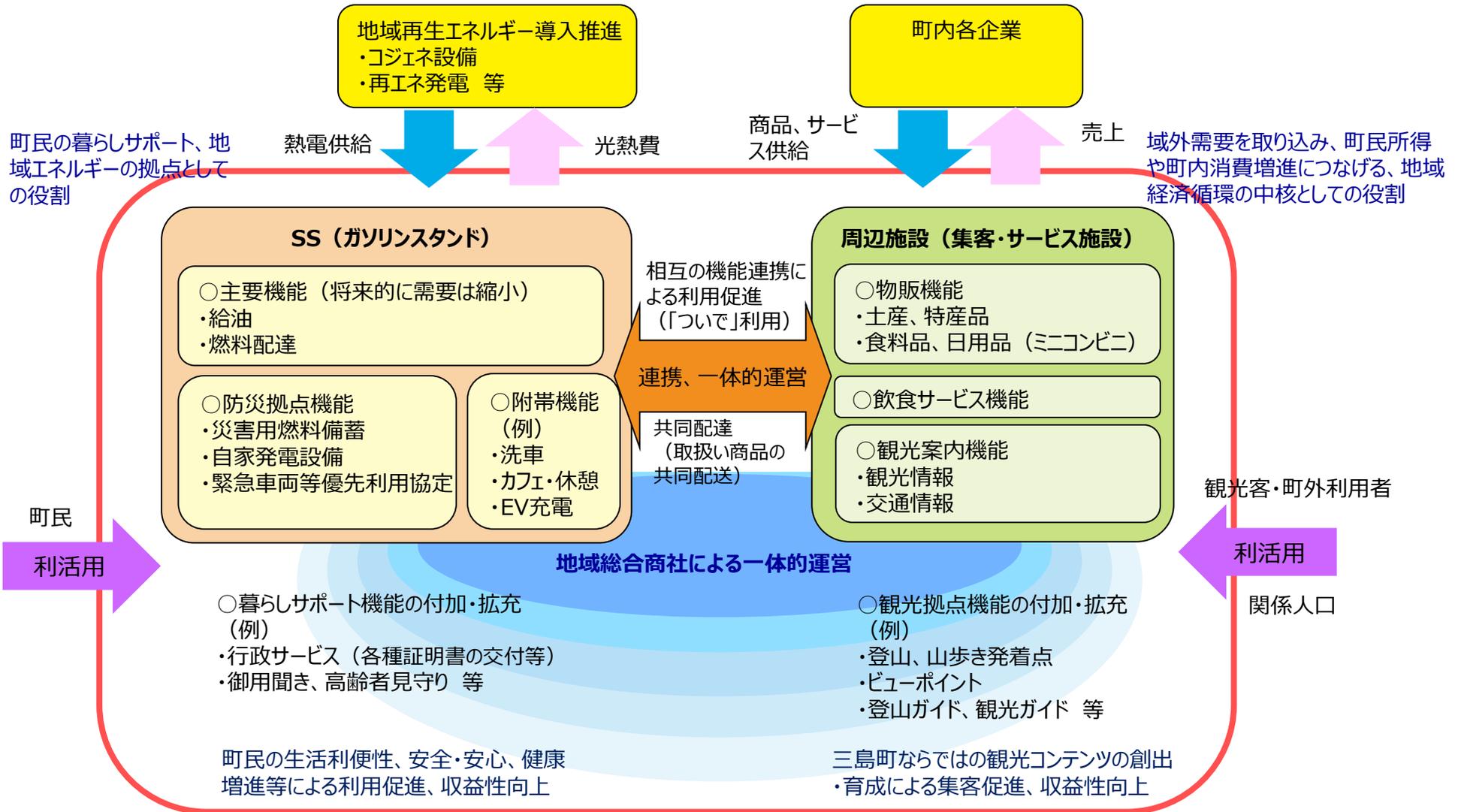


※割引現在価値 (将来の収益額等を、金利等を考慮して現在の価値として算出すること) は考慮していない

※ この収支シミュレーションは、現状で想定しうる各種仮定や想定に基づき試算したものであり、今後の社会経済状況や営業条件等によって、数値は増減する可能性がある。  
 ※ 当面、SSの自立的・持続的な経営を前提とするが、将来、経営収支がマイナスとなることが想定される場合は、町内でのSS維持を最優先として、町からの支援も含めた運営・経営方法の見直しを行う。

# (7) 地域づくりと連携した複合的SS経営の展開イメージ

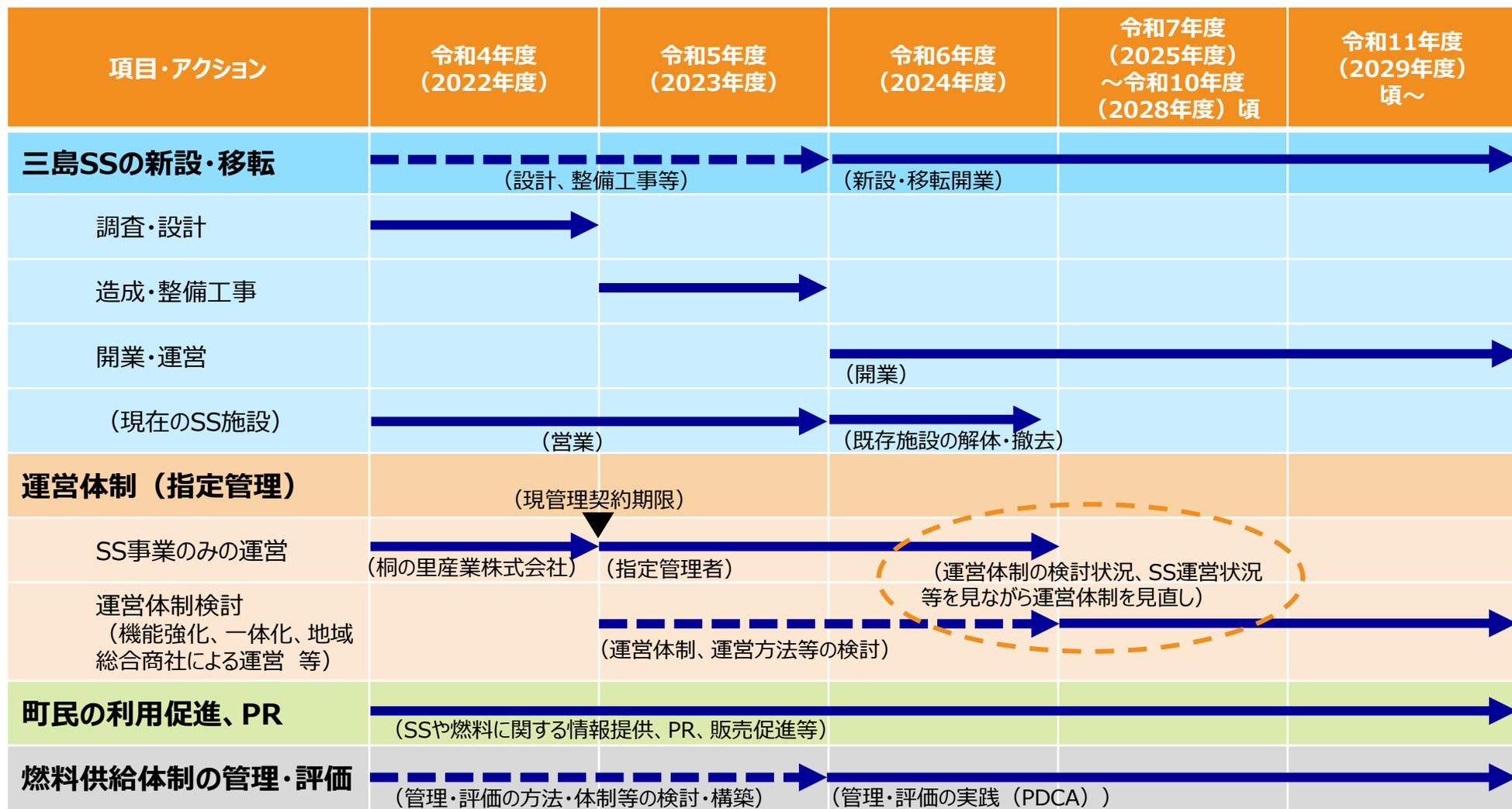
SS新設・移転を契機として、周辺施設との連携、さらには、これらを中核とした町民生活の向上や産業振興等につながる拠点を形成



住民福祉向上、雇用拡大、所得向上

## (8) 実現に向けたアクションプラン（スケジュール）

- 三島SSの新設・移転は、令和4年度（2022年度）に設計、令和5年度（2023年度）の整備、令和6年度（2024年度）の開業を想定する。
- 運営は、当面、現状と同様SS事業のみの運営を想定するが、今後、機能強化、一体化等、持続的・効率的な運営体制の検討を行い、将来的には、地域総合商社等によるSS事業以外の機能も含めた一体的な運営体制への移行を想定する。
- その他、開業前から、町民の利用促進、PR等を展開するほか、今後の燃料需要を踏まえた持続的・自立的なSS経営に向けた管理・評価の枠組みを構築し、PDCAサイクルによる継続的な業務改善を進めていく。



## 參考資料

---

## 地上タンク等を設置する給油取扱所に係る検討 (過疎地域の燃料供給インフラの維持に係る各方策)

### 背景等

#### 背景

- 地上にあるため設置・更新の負担が少ない
- 従来の簡易タンクより多量の燃料を貯蔵可能

#### 課題

- 地上設置に伴う車両衝突やいたずら等のリスク
- 火災・流出事故時における被害の拡大
- 自然災害の影響を受けやすい

#### 検討の視点

- 設置する場所の条件
- 施設内の安全対策
- 維持管理・点検 等

#### 検討方法

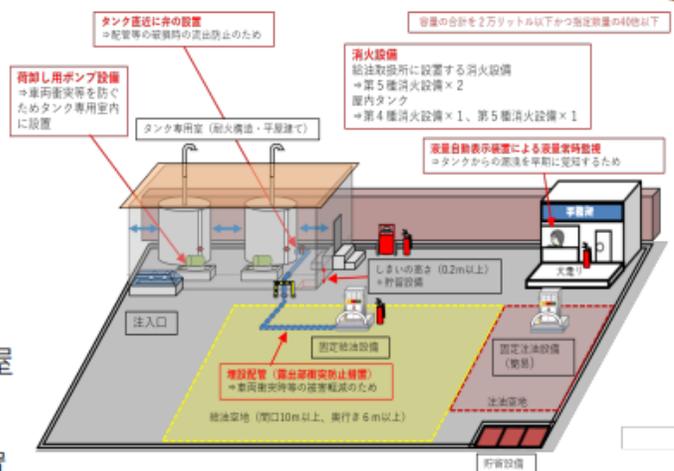
- 流出防止・対策、火災予防・延焼防止等の観点からリスク評価



地上タンクの例  
※令和元年度の資源エネルギー庁モデル事業(左図,長野県下伊那郡売木村)は、先行事例として参考にした

### 安全対策の技術的検討

- タンク地上化に伴う事故時や自然災害時のリスクについて、タンク本体や給油取扱所の構造・設備により低減するとともに、立地等(下記)で補完することを前提に認めることが適当
  - ・過疎地であり、資源エネルギー庁が進める「SS過疎地対策計画」により住民合意があること
  - ・ハザードマップで示された災害の危険箇所を避ける、又は想定される自然災害への対策がなされた場所への設置
  - ・建築基準法令で定める用途地域毎の設置基準に留意すること
- タンク本体や給油取扱所の構造・設備について、政令第12条第1項の屋内タンク貯蔵所の基準をベースに、必要な事項を追加することが適当(追加する事項の例)
  - ・放爆構造、埋設配管、流出防止対策、漏洩検知装置、自動車衝突防止装置
  - ・容量はSS過疎地対策計画で合意形成された最低限の量まで



<地上タンク設置型給油取扱所のイメージ>

- 個別の地域におけるタンク地上化のニーズについては、上記の対策を基に、政令第23条の特例適用により対応することが可能 (cf.売木村の先行事例)
- なお、簡易タンクについては、地域の実情に応じて油種を柔軟に取り扱うこととして差し支えないと考えられるが、現行の容量を超えるものは上記の地上タンクによることが適当

### 今後について

- 過疎地におけるタンク地上化のニーズの広がり、ソフト面(危険物保安監督者として適格な人材の確保等)を含めた対応の必要性等を引き続き注視し、必要に応じ法令等の手当てを検討

# 参考：地上タンク型給油所（長野県売木村）の例

## 1. 施設の概要

【運営団体名】うるぎむらガソリンスタンドを残す会

【給油取扱所名】うるぎ600道の駅前PS（ポータブルステーション）

【タンクの概要】20フィートコンテナ（ハイオクガソリン、レギュラーガソリン、軽油（3油種））と10フィートコンテナ（灯油（1油種））を設置。

## 2. 地上タンクの寸法

20フィートコンテナの寸法（自動車燃料用）

コンテナ幅	6,058mm
コンテナ奥行き	2,438mm
コンテナ高さ	2,896mm

10フィートコンテナの寸法（灯油用）

コンテナ幅	2,991mm
コンテナ奥行き	2,438mm
コンテナ高さ	2,896mm

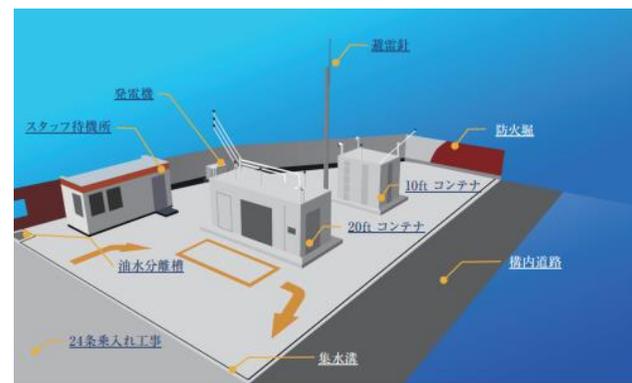
## 3. 地上タンクの容量

油種	レギュラーガソリン	ハイオクガソリン	軽油	灯油
容量 (L)	9,000	3,500	5,300	8,100



出典：総務省消防庁「過疎地域等における燃料供給インフラの維持に向けた安全対策のあり方に関する検討会」令和2年度第1回資料

売木村の地上タンク型給油所の配置図



出典：コモタ株式会社資料

# 参考：特定地域づくり事業協同組合制度の概要

## 特定地域づくり事業協同組合制度の概要

根拠法：地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（令和2年6月4日施行）

### 人口急減地域の課題

- ・ 事業者単位で見ると年間を通じた仕事がない
  - ・ 安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保できない
- ⇒人口流出の要因、Uターンへの障害



### 特定地域づくり事業協同組合制度

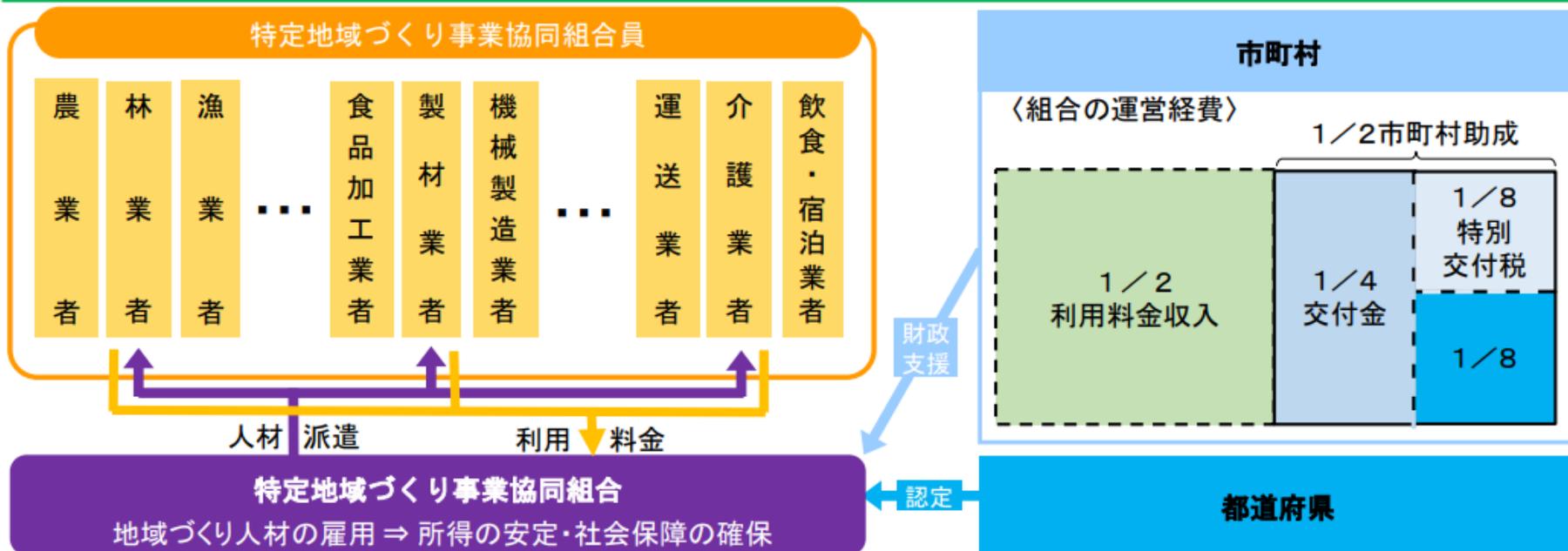
- ・ 地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出
  - ・ 組合で職員を雇用し事業者に派遣  
（安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保）
- ⇒地域の担い手を確保

### 人口急減法の概要

対象：人口規模・人口密度・事業所数等に照らし、人材確保に特に支援が必要な地区として知事が判断  
※過疎地域に限られない

認定手続：事業協同組合の申請に基づき、都道府県知事が認定（10年更新制）

特例措置：労働者派遣法に基づく労働者派遣事業（無期雇用職員に限る）を届出で実施可能



## 危険物と日用品の巡回配送の検討（過疎地域の燃料供給インフラの維持に係る各方策）

### 背景等

#### 背景

- 過疎地においても燃料供給インフラの維持は必須
- 効率的・効果的に他の日用品と共に、燃料供給を行いたいとの需要

#### 課題

- 火災・流出事故時における被害の拡大

#### 検討の視点

- ① 移送と運搬の関係
  - ② 日用品と運搬の関係
  - ③ 日用品と移送の関係
- ※運搬：容器入り危険物の運搬



### 安全対策の技術的検討



#### ③ 日用品と移送

日用品（危険物以外の物件）を伴う移送の取扱いについて、補足・整理が必要（→右欄）



#### ① 移送と運搬

混載に関して補足・整理が必要（→右欄）



#### ② 日用品と運搬

日用品と危険物の運搬について、特段の課題・問題なし

#### ① 移送と運搬に係る安全性の確保の補足

- ・ 混載禁止：第1類、第6類、内容積120ℓ以上の高圧ガス類
- ・ 容量制限：指定数量未満
- ・ 危険物の種類：灯油又は軽油
- ・ 積載方法：容器の積み重ね高さ、固定、構造、材質、区画等
- ・ 引火危険対策：電気設備の防爆、静電気対策、火気対策

#### ③ 日用品の積載に係る安全性の確保の補足

- ・ 積載方法：積み重ね高さ、固定、構造、材質、区画等
- ・ 混載禁止物品：内容積120ℓ以上の高圧ガス類

#### ○ その他

- ・ 過積載など他法令との関係に留意
- ・ 配送の最適化など効率的なシステムの構築（新技術やIoT等の活用）

○ 日用品や容器入り危険物の運搬方法等については、実施しようとする地域で、個別に事前検証が必要。

#### 今後について

- 事前検証が行われた結果を確認し、【移送と運搬】及び【日用品と移送】について通知や消防庁ホームページ等により安全対策の広報周知や事例紹介を行う。

## 給油者を限定した給油取扱所における危険物の取扱いや危険物取扱者のあり方の検討 (過疎地域の燃料供給インフラの維持に係る各方策)

### 背景等

#### 背景

- 過疎地において、給油取扱所における燃料供給ニーズに見合った人員の確保が困難となりつつある

#### 課題

- 過疎地の実態に即した人員確保や安全管理のあり方の検討が必要

#### 検討の視点

地域住民自らが給油取扱所の運営に参画し、補完的な作業者として当該地域の住民や就業者等が含まれるケースを想定し検討



### 安全対策の技術的検討

#### ① 危険物取扱者等人材の確保（資格取得の促進）

- 試験科目免除要件の緩和・拡大
- 給油取扱所限定資格の新設

#### ② 給油取扱所の従業員として予防規程に位置づけ（みなし従業員の考え方）

- 安全な操業・管理上の知識・技術について
  - 教育訓練の内容・カリキュラムは現行の給油取扱所の従業員教育レベルが適当
- 監視・立会い・事故時の措置等危険物保安上の責任

#### ③ 課題等

- 危険物保安監督者の要件検討
- セルフスタンドにおけるガソリンの容器詰替えに係る資格要件、一般顧客との区別、販売記録等の方法等の明確化
- 過疎地域に限るなどの地域制限
  - 資源エネルギー庁が進める「SS 過疎地対策計画」により住民合意があることが適当
- 新技術との連携
  - 新技術による課題解決（保安講習のオンライン利用、顔認証等）



- 実施しようとする地域で、個別に事前検証が必要
- 事前検証にあたっては、関係機関が連携して支援する必要



#### 今後について

- 事前検証が行われた結果を確認し、通知や消防庁ホームページ等により、安全対策の広報周知や事例紹介を行う。

三島町SS過疎地対策計画（案）  
令和4年1月  
三島町地域政策課  
（調査・策定委託）株式会社価値総合研究所